綱懸神社

神湊村大字神湊字草崎にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　宗像三柱大神

一、由緒　往古氏神御鎭座ノ舊跡ト言傳フ

邊津神社

神湊村大字神湊字灘山

〔神社帳〕

一、祭神　宗像三柱大神

一、由緒　往古宗像神社神幸ノ舊跡ト言傳フ

〔筑前國續風土記〕田島

此神社（田島邊津宮）古は神湊の東六町、海の南一町許に在し故に、海邊（へつ）宮と云。へとは海濱を云。つは助字なり。今其地を神の幸屋（かう）敷と云。其所に今も社の地有て、いちじるし。昔の祭に用ひし土器の破たる多し。人家は無し。此所神湊と江口との間に在。神湊の境内にして、田島を去る事半里許也。

〔筑前國續風土記附錄〕神湊村

海濱宮址　本編田嶋の所に見へたり。田嶋神社の舊地（小祠あり。石鳥居建り。）なり。里民は天應元年此處より田嶋の宮に遷座し給ふといふ。故に神幸様（キノカウサマ）といふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕濱宮社

神湊の東六町江口浦に至る道、松林の中に小祠有。宗像三神を祭る。俗にいにしへの邊津宮の址歟といふは誤なり。宗像古記には湊ノ木皮社と有。御神事次第に四月一日巳時湊ノ木皮社事、社者禰宜作、御供者政所沙汰、敷物者上八村郷役、御廳大飯御酒一瓶政所沙汰、小野浦（開カ）ヨリ魚一桶、湊浦ヨリ貝蚫、小勝浦神人富易ヲ進上と有　木皮を神幸と書て、田島の神輿むかし神幸有し故に名つくるよし、本篇に見へたれとも、神幸をキノカウと訓ること、古記に見へす。又神字をキと訓義理も聞へかたし。いふかし。又此社を邊津宮の跡也といふ說も、信しかたし。今其境地を見るに、往古はわつかなる浪の打寄たる州崎と見へたれば、邊津宮なといふ斗の大社のますへき所にあらす。彼神輿社址なとは、いかめしき礎石なと有て、いかにもいにしへの大社の址とみゆるを、此地には礎石なともなく、古樹なともなく、白砂の斥鹵の地にして、さはかり神代よりの古址とは更に、おもはれす。其上宗像社祭記上に引たるに、木皮社といひ、四月の祭には、社は禰宜作とあれは、常は社とてもなく、毎年祭のたひことに、假に神輦を造て、木皮なとを以て、上を葺たる歟とおほしき故に、神幸にはあらて、木皮の社と書しなるへし。故に今の世にも、礎石なとも一つもなかるへし。

牧神社

神湊村大字神湊字勝島にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　猿田彦神

一、由緒　不詳。例祭六月十日、九月十日

〔筑前國續風土記附錄〕神湊村

牧大明神　神殿拜殿造續一間半二間、祭禮九月十日、奉祀深田兵部。

嶋氏六戸の産神也。玉依姫命を祭れり。

〔筑前國續風土記拾遺〕神湊村

むかしより牧大明神社あり。そのかみ牛牧有しなるへし。慶長の頃は野牛すみたりしとかや。九月十日を祭日とす。此島の産神也。

天滿神社

田島村大字牟田尻字宇生ノ下にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　菅原神

一、由緒　不詳。例祭八月二十五日

氏八幡社

田島村大字田島字上殿にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　宗像大宮司宗像朝臣正氏室　息女菊姫　侍女四人ノ靈　宗像大宮司清氏靈　吾田片隅命　高靈神　保食神

一、由緒　永祿八年創立。例祭陰暦三月廿三日

祭神宗像大宮司清氏ハ田島村大字田島字上殿ニ無格社上高宮トシテ、祭神吾田片隅命ハ同字山下ニ無格社中殿神社トシテ祭祀アリシヲ、大正三年十月許可合併、祭神高靈神ハ字片脇無格社貴船神社トシテ祭祀アリシヲ、大正四年三月十八日許可合併。保食神ハ字北付無格社稲庭神社トシテ祭祀アリシヲ、大正四年七月廿三日許可ヲ得テ合祀セリ。

〔筑前國續風土記附錄〕田島村

氏八幡社　ヤマジタ　大宮司氏貞か時、正氏か後室の靈を祭れり。氏八幡と稱せるは不敬なり。氏貞か所爲、心得さる事なり。社の傍に正氏息女の靈を祭る石祠もあり。

〔筑前國續風土記拾遺〕田島村

氏八幡社　上高宮より東方、山の六七分許に在。七十七代大宮司正氏の室、七十八代氏雄の室の靈、并侍女四人をも從神として祭る。祟厲によりて、永祿八年大宮司氏貞建立あり。

五穀神社

田島村大字田島字飛松にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　保食神

一、由緒　不詳

八幡神社

田島村大字吉田字山ノ上にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　譽田天皇

一、由緒　不詳

貴船神社

田島村大字吉田字小林にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　高靈神　闇靈神

一、由緒　不詳

葛原神社

岬村大字鐘崎字一本松にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　武雄心命　影姫命

一、由緒　不詳

一、境内神社三社

天滿神社　祭神　菅原神　奥津彦神　奥津姫神　由緒不詳　字町荒神神祠外一社永正十一年甲戌三月創立、字千代川荒神神祠外一社天文三年甲午六月創立、以上四社當社へ合併。

貴船神社　祭神　高靈神　由緒不詳　字一本松ヨリ移轉。

粟島神社　同　伊邪那美神　〃　〃　字一本松ヨリ移轉。

〔筑前國續風土記拾遺〕葛原神社

一本松にあり。宗像末社記に國連社とあるは是なりと云。七十五社の一なり。所祭は屋主忍男武雄心命、山下影姫なり。本編に所謂武内大臣の父母なり。宗像年中祭祀記に、國連明神正月二日神事、五月五日神事、九月九日神事、十一月十五日粢(シトギ)神事とあり。

〔太宰管内志〕國連(クヅラ)神社

（宗像末社記）に國連神社とあり。又（宗像記）に七戸の大宮司云々。第七者三宅國連と云、諸國先祖諸務を勤始むるなりとあり。國連の靈を祭れりと聞ゆ。國連社は鐘崎にあり。久須良明神とも葛原明神とも云なり。（〇下略）

山上神社

岬村大字鐘崎字鳶尾にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　茆原大人靈

一、由緒　不詳　明治三十四年十月十一日許可ヲ受ケ、同村字祓川ヨリ移轉ス。

保食神社

岬村大字鐘崎字飛尾にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　保食神
一、由緒　不詳

豐年神社

岬村大字鐘崎字灘にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　保食命
一、由緒　不詳

惠比須神社

岬村大字鐘崎字町にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　事代主命　菅原神　猿田彦神　井筒神
一、由緒　不詳。字町惠比須神社二社及字同所猿田彦神祠、同所天滿神祠、上八村字石佛猿田彦神祠、字町井筒神祠、本社へ合併。

惠比須神社

岬村大字鐘崎字町にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　事代主命　宇加御魂神　奥津彦神　奥津姫神
一、由緒　不詳。天正十一年三月創立。字町惠比須神社三社、同所稲荷神祠、及同所荒神々祠、已上五社本社へ合併。

惠比須神社

岬村大字鐘崎字町にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　事代主命
一、由緒　不詳。字町惠比須神社本社へ合併。

荒神社

岬村大字鐘崎字祓川にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　奥津彦神　奥津姫神
一、由緒　不詳
一、境内神社一社
猿田彦神祠　祭神　猿田彦神　由緒不詳。字祓川ヨリ移轉。

稲荷神社

岬村大字鐘崎字町にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　宇賀御魂神

一、由緒　不詳

濱之宮

岬村大字鐘崎字深濱にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　不詳

一、由緒　不詳

惠比須神社

岬村大字鐘崎字岬にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　事代主命

一、由緒　不詳

大歳神社

岬村大字上八字濱山にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　保食神

一、由緒　不詳。例祭八月十七日

一、境内神社二社

須賀神社　祭神　素盞嗚命　由緒不詳

天滿神社　同　菅原神　〃　〃

山神社

岬村大字上八字高花にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　高靈神

一、由緒　不詳。安政元年三月創立。祭神高靈神ハ大字上八字市場ニ無格社貴船神社トシテ祭祀シアリシヲ、昭和八年六月七日許可ヲ得テ合併シ、同一祭神ニ付合靈ス。

貴船神社

岬村大字上八字濱ノ上にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　高靈神　火武須比神
一、由緒　不詳。字濱ノ上秋葉神祠本社ヘ合併

貴船神社

岬村大字上八字今井原にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　高靈神
一、由緒　不詳

須賀神社

岬村大字地島字宮ノ後にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　須佐之雄命
一、由緒　不詳
一、境内社二社
五穀神社　祭神　保食神　由緒不詳
金毘羅神社　同　仁明天皇　〃　〃

牧神社

岬村大字地島字西ノ浦にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　猿田彦命
一、由緒　創立年月不詳。寶暦年中ノ頃社殿拜殿共燒失。故ニ寶暦四年甲戌六月再建成就ス。例祭九月十五日。
一、境内神社六社
大社　神社　祭神　大國主命　事代主命　由緒不詳
天照皇大神宮　同　大日靈命　〃　〃
竈殿　神社　同　奥津彦命　奥津姫命　〃　〃
高殿　神社　同　應仁天皇　〃　〃
天滿宮　同　菅原道眞　〃　〃
惠美須神社　同　事代主命　〃　〃

〔筑前國續風土記附錄〕地島村
牧大明神社　神殿方一間、拜殿二間三間、祭禮九月十五日、石鳥居一基、奉祀入江丹後。
白濱にあり。此所の產神なり。祭る所猿田彦命也。鎭座の年歷詳ならず。社内に今宮、森俊社、荒神社、御高所社二字あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕牧大明神社
白濱の磯崎に在。此所の産神なり。猿田彦大神を祀るといふ。

須賀神社

岬村大字地島字松尾にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　須佐之雄命
一、由緒　不詳
一、境内神社一社
五穀神社　祭神　保食神　由緒不詳

惠美須神社

岬村大字地島字浦ノ田にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　事代主命
一、由緒　不詳
一、境内神社一社
海士神社　祭神　和多積命　由緒不詳

貴船神社

岬村大字地島字西ノ浦にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　大己貴命
一、由緒　不詳

大峰神社

岬村大字地島字堺瀬にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　岩龍大神
一、由緒　不詳

的原神社

東郷村大字田熊字鳴淵にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　味鉏高彦根命　大己貴命　下照姫命
一、由緒　万治二年八並村ヨリ當地ニ鎮座ス。例祭陰暦九月十一日

一、境内神社五社

嚴島神社　祭神　市杵島姫命　由緒不詳　字平井ヨリ移轉。
天滿神社　同　菅原神　〃　〃　字平井ヨリ移轉。
福地神社　同　倉稲魂命　〃　〃　字平井ヨリ移轉。
森崎神社　同　素盞嗚命　〃　〃　字森崎ヨリ移轉。
須賀神社　同　素盞嗚命　應神天皇　闇靈神　由緒不詳。祭日八月二日

〔筑前國續風土記附錄〕田熊村

的原大明神社　ヒライ　神殿一間、社拜殿二間三間

廿五戸の產神なり。万治二己亥年十一月八並村より勸請すといふ。神名彼の社におなし。

〔筑前國續風土記拾遺〕的原大明神

枝郷平井の產神也。八並村より勸請す。祭禮九月十一日。祝人は多禮村小方氏なり。又天滿宮有。社邊老樹茂れり。傍に森崎社有。猿田彦神を祀る。神體は大石なり。

〔福岡縣地理全誌〕的原神社

平井ニアリ從前此處ノ產神ナリ。祭神大己貴命、味鉏高彦根命、下照姫命、祭日九月十一日。万治二年己亥貞享二年共云八並村ヨリ迎祭ル。末社五。菅原神社、天神下市杵島姫神社、安原八幡宮、森崎須賀神社、八幡宮相殿森崎神社同上

保食神社

東郷村大字田熊町字瀧にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　保食神
一、由緒　不詳

瀧神社

東郷村大字田熊字瀧にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　少童命
一、由緒　延曆ノ頃、天下旱魃ニテ九國ノ地殊ニ甚シカバ、弘法大師當社ニ來リ、雩ヲ修シカ、其驗アリト云傳。

貴船神社

東郷村大字田熊字堀にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　倉稲魂命　菅原神
一、由緒　宗像七十五社ノ一也

貴船神社

東郷村大字田熊字下平井にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　闇靈神

一、由緒　不詳。祭日六月十五日

貴船神社

東郷村大字東郷字石畑にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　保食神　高靈神

一、由緒　不詳

須賀神社

東郷村大字東郷字松尾にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　素盞嗚命

一、由緒　不詳。例祭陰暦六月十五日

貴船神社

東郷村大字久原字峠にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　高靈神　保食神　八十抂津日命　大直日命　市杵嶋姫命

一、由緒　慶安四年創立。例祭陰暦九月八日（明治三十九年八月十日福地神社（保食神）、天厄神社（八十抂津日命、大直日命）、嚴嶋神社（市岐嶋姫命）合祀許可。

一、境内神社一社

須賀神社　祭神　素盞嗚尊　水波乃女命　由緒不詳。例祭陰暦六月十五日

〔筑前國續風土記附錄〕久原村

貴船社　神殿方三尺、拜殿二間三間、祭禮九月九日、奉祀中村若狭。

平清水ヒラシヤウヅにあり。産靈也。祭る所闇靈命なり。社内に祇園社あり。神池あり。平清水と云。是によりて所の名とせるならん。

〔筑前國續風土記拾遺〕久原村

貴布禰社枝郷平清水の産神なり。闇靈神を祭る。社の左右に小池あり。清泉涌流す。依て地名とす。慶安四年爰に勸請すといふ。祭禮九月九日。奉祀は曲村にあり。中村氏也。境内に祇園社、水神社あり。

川崎神社

東郷村大字久原字寺辻にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　伊弉諾命　伊弉冊命

一、由緒　不詳。例祭陰暦九月十九日

一、境内神社一社

福地神社　祭神　保食神　由緒　創立弘化四年十月吉祥日再建、祭日十月十二日

〔筑前國續風土記拾遺〕川崎大明神

枝郷川崎の産神なり。伊弉諾尊、伊弉冊尊を祀る。祭禮九月廿九日也。

靈神社

東郷村大字大井字前にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　大名持命　少彦名命

一、由緒　不詳。例祭陰暦九月十日

一、境内神社五社

秋葉神社　祭神　火之加具土命　由緒不詳　大正十三年十一月廿九日許可ヲ得テ、大字同字前、無格社秋葉神社ヲ合併ス。祭神ハ同一ニ付合靈ス。

氏森神社　祭神　皇靈神　由緒不詳　大祭十一月十日

福地神社　同　保食神　由緒　大字大井字前、無格社秋葉神社境内社トシテ祭祀アリシヲ、大正十三年十一月廿九日許可ヲ得テ合併。

靈神社　同　少童神　〃　大字大井字前、無格社靈神社トシテ祭祀アリシヲ、大正十三年十一月廿九日許可ヲ得合併。

天滿神社　同　菅原神　〃　大字大井字前、無格社靈神社境内神社トシテ祭祀アリシヲ、大正十三年十一月廿九日許可ヲ得テ合併。

多賀神社

東郷村大字大井字三倉にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　伊弉諾命

一、由緒　不詳。祭日九月廿五日

平朝神社

東郷村大字大井字辛地にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　伊弉諾命

一、由緒　不詳。祭日八月五日

貴船神社

南郷村大字宮田字山ヵ添にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　高靈神　闇靈神

一、由緒　不詳

一、境内神社一社

貴船神社　祭神不詳　由緒不詳

貴　船　神　社

南郷村大字宮田字貴舟上にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　高靈神　闇靈神

一、由緒　不詳

一、境内神社一社

山神社　祭神不詳　由緒不詳

竹　重　神　社

南郷村大字朝町字中村にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　表筒男命　中筒男命　底筒男命

一、由緒　不詳。例祭九月十九日

〔筑前國續風土記附錄〕朝町村

竹重宮　イノウヱ　神殿方五尺、拜殿方二間、祭禮九月十九日、石鳥居一基、奉祀中津内膳。

タケシゲ拾四戸の產靈也。祭る所住吉三神也。

〔筑前國續風土記拾遺〕竹重社（タケシゲ）

竹重と云所に在。此所の產神也。住吉三神を祭る。祭日九月十九日、東郷村の中村氏奉祀す。

八　幡　神　社

南郷村大字朝町字谷にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　仲哀天皇　譽田天皇　神功皇后

一、由緒　不詳。例祭九月二十一日

一、境内神社四社

貴船神社　祭神　高靈神　闇靈神　由緒不詳

大己貴智神社　同　大己貴智神　〃　〃

須賀神社　同　素佐嗚男尊　〃　〃

若八幡神社　祭神　仁德天皇　由緒不詳

〔筑前國續風土記附錄〕朝町村

八幡宮（ヒルカケ）　神殿方五尺、拜殿二間三間、祭禮九月廿一日、石鳥居一基、奉祀中津内膳。

三十戸の産神也。いつれの年に本村より勸請せしにや。社内に若八幡宮、祇園社、貴船社、大日堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕八幡宮

畫掛に在。本村の八幡宮を勸請して、此所の産神とす。九月十九日社内に貴布禰祠有。若宮祇園社あり。奉祀上に同し。

熊野神社

南郷村大字朝町字本谷にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　伊弉冊命

一、由緒　不詳

山神社

南郷村大字朝町字妙見にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　大山祇神

一、由緒　不詳

福地神社

南郷村大字朝町字石ケ崎にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　保食神

一、由緒　不詳

長尾神社

南郷村大字光岡字長尾にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　高靈神　闇靈神

一、由緒　不詳

〔筑前國續風土記拾遺〕光岡村

貴船社　蛭田にあり。宗像末社に蛭田若宮あり。此社をいふにや。年中行事記に八月十四日、九月九日、十一月初丑、毎月朔日、神事一年中十二度と有。今は小祠也。此外此村に貴船社二所有。田久保（カヒシ）是也。

蛭子神社

南郷村大字光岡字原町にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　事代主神

一、由緒　不詳。例祭十一月三日

八　幡　神　社

南郷村大字野坂字新町にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　仲哀天皇　應神天皇　神功皇后

一、由緒　創立天文十六年宗像大宮司正氏、長門國豐浦郡長府二ノ宮勸請セラレショシ。例祭九月廿九日

一、境内神社二社

萩　神　社　祭神　下照姫命　由緒不詳　字新町ヨリ移轉。

若宮神社　同　仁德天皇　〃　〃　字新町ヨリ移轉。

〔筑前國續風土記附錄〕野坂村

二之宮（シンマチ）　神殿四尺間二間三間、拜殿二間三間、祭禮一ノ宮に同し。石鳥居一基、奉祀仲村日向。

村中五所七十四戸の產神也。（シンマチ、イルメ、マツガサキ、ヒロムネ、ハルマチ）祭る所仲哀天皇、神功皇后、應神天皇也。本編に神功皇后と記せり。いつの頃より仲哀天皇、應神天皇二座を合せ祭れるにや。凡此二社の事、緣起に詳也。

享保年中稻留希賢撰へり。

〔筑前國續風土記拾遺〕二宮

新町に在。村内五所（新町、入免、松ケ崎、廣宗、原町）の產神也。所祭は仲哀天皇、神功皇后、應神天皇なり。此社も一宮と同しく長門國二宮（延喜式神名帳に長門國豐浦郡忌宮神社とある是なり。今同國の府中に在。日本紀に豐浦宮とあるは是なり。）を勸請の地なり。此二社の事は、緣起に詳に見へたり。

須　賀　神　社

南郷村大字野坂字福泉にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　素佐嗚男命

一、由緒　不詳。例祭六月七日

心　吉　神　社

南郷村大字野坂字廣宗前にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　保食神　倭姫命　國常立命　宇賀魂神

一、由緒　不詳。字地久若宮神社、字西妙見妙見神社、字地久稻荷神社、本社ヱ合併。

原　神　社

南郷村大字野坂字榎ケ元にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　軻遇突智命　菅原神　須佐嗚男尊

一、由緒　不詳。例祭六月廿五日

一、境内神社三社

疫　神　社　祭神　枉津日神　由緒　慶應三卯年光岡村野坂村字原町疫病流行ニヨリ鎭座、其後當境内ヘ移轉。

天滿神社　同　菅原神　由緒不詳　字屋形原ヨリ移轉。

疫　神　社　同　八十枉日神　〃　〃　字原町ヨリ移轉。

幸　神　社

南郷村大字野坂字下後畑にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　大己貴智神　鈿女神

一、由緒　不詳。例祭六月十五日

曾　部　神　社

南郷村大字野坂字礒邊にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　高靈神　闇靈神

一、由緒　不詳。例祭八月廿六日

熊　野　神　社

南郷村大字野坂字今院にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　伊弉冊尊　事解男命　速玉男命

一、由緒　不詳。例祭八月廿五日

天　滿　神　社

南郷村大字野坂字大井にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　菅原神

一、由緒　不詳。例祭八月廿五日

天　滿　神　社

南郷村大字野坂字中熊にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　菅原道眞公

一、由緒　不詳

一、境内神社一社

貴船神社　祭神　高靈神　闇靈神　由緒不詳　字惠ノ下ヨリ移轉。

蛭子神社

南郷村大字大穗字大手木にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　事代主神

一、由緒　不詳。例祭陰曆十一月三日

貴舟神社

南郷村大字大穗町字町上にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　高靈神　闇靈神　素盞嗚神

一、由緒　不詳。例祭陰曆九月廿五日

一、境内神社二社

稲荷神社　祭神　保食神　由緒不詳

中村神社　同　大山祇神　大國主神　塞坐神　由緒不詳

〔筑前國續風土記附錄〕大穗村

貴布禰社　神殿方三尺、拜殿一間半二間、祭禮九月廿七日、奉祀小方大内藏。

タカノバンといふ所にあり。産神也。祭る所闇靈神、高靈神、罔象女命也。相殿に素盞嗚尊をも祭れり。

〔筑前國續風土記拾遺〕貴布禰社

鷹ノ番に在。産神なり。大穗村の神を勸請す。祭日九月廿七日なり。相殿に素盞嗚尊をも合祭れり。

八幡神社

南郷村大字王丸字尾中にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　應神天皇　神功皇后　武内大臣

一、由緒　譽田天皇御誕生ノ翌年春二月、國母皇后筑紫ヨリ長門國豐浦ノ宮ニ移リ給フ時、此所ニ御鳳輦ヲ駐メ給フ。其陣迹ニ此年御社ヲ創立スト云。宗像大宮司代々造營也。例祭陰曆九月廿五日

一、境内神社一社

須賀神社　祭神　素盞嗚尊　由緒　鎭座年月不詳。

〔筑前國續風土記附錄〕王丸村

八幡宮　神殿方一間、拜殿二間三間、祭禮九月廿七日、奉祀中津內膳。

產神なり。祭る所應神天皇、神功皇后、武內大臣也。鎭座の年歷傳ふる事なし。此社に天正九年大宮司氏貞再建の棟札あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕若宮八幡宮

王丸村產神なり。所祭應神天皇、神功皇后、武內大臣也といふ。此說いぶかし。宗像神の御子神なるべし。宗像神事次第記に、許斐從神の中に三御前社一とあるは、此社なるべし。年中の次第は王子社に同じ。神殿、拜殿、幣殿有。村の內森の中に在。御社は巽に向へり。昔はこれより二町計長村下にありしを、寶永二年に故有てこゝに遷し奉る。天正九年辛巳の棟札あり。其文曰、奉造替宗像郡村山田鄕宗上村若宮八幡御寶殿一宇、奉爲社務正三位行中納言執印大宮司宗像朝臣氏貞大願主奉行占部越後守平朝臣賢安とあり。例年三月四月九月の廿七日廿八日を祭日とす。奉祀は前に同じ。末社妙見社、天兒屋根命を祀る。河內國牧岡社より勸請するといふ。本社の南半町計、森の中に小祠あり。

心　吉　神　社

南鄕村大字王丸字大谷にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　中筒男命　上筒男命　底筒男命

一、由緒　不詳。例祭陰曆九月十五日

一、境內神社一社

古宮神社　祭神　大名持命　田心姫命　譽田皇子　由緒　寶永二年創立、字本村ヨリ移轉。

〔筑前國續風土記附錄〕王丸村

心吉社　神殿拜殿造續二間三間、祭禮九月十五日、奉祀中村求馬。

別所谷にあり。祭る所住吉三神なり。十一戶の產靈なり。社內に觀音堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕心吉社

枝鄕別所の產神也。住吉三神也。宗像末社記に許斐所主神社有。所主を誤りて心吉と奉稱なるべし。又上津七郎殿といへるも、同社の事にや。九月九日神事有よし見へたり。今は九月十五日を恒例祭日とす。奉祀は野坂村の中村氏也。

六　之　神　社

南鄕村大字王丸字許斐にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　伊弉冊命　瓊々杵尊　豐玉姫命　田心姫命　湍津姫命　市杵島姫命

一、由緒　宗像七十五社ノ一也。例祭陰曆九月廿一日

一、境內神社一社

七郎神社　祭神　伊弉諾命　由緒　高津七藡權現ト稱シ奉、宗像七十五社ノ一也。

〔筑前國續風土記附錄〕王丸村

六之御前社　コノミ　神殿方一間、拜殿二間三間、祭禮九月九日、奉祀中津内膳。十戸の產神也。祭る所伊弉冊尊、瓊々杵尊、豐玉姫、宗像三女神なり。社内に若宮社、阿彌陀堂釋迦觀音もあり。あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕六之御前社

枝鄕許斐の產神なり。所祭伊弉冊尊、瓊々杵尊、豐玉姫命、宗像三女大神也。諸家の說に、天神第七代伊弉冊尊中央にまします故に、高津七藡權現と奉稱といへり。しかれども宗像年中行事記には上七郎殿、上六御前、下七郎殿、下津六御前と、各別に載たれば、別社なることしるべし。近古御社衰へし時より、上七郎殿、上六御前を一所に併祭りしにや。別に上津七郎殿といふ社、今はなし。年中祭王子社に同じくして、是又許斐の從神也。今は別社のごとくなれども、左にはあらず。社は許斐谷權現社を去ること七町計、巽に向へり。神殿拜殿有。祭禮は八月十四日、九月九日也。末社若宮社あり。奉祀許斐權現に同じ。

〔福岡縣地理全誌〕

七郎神社　許斐山ニアリ。在家ノ說ニ、天神第七代伊弉冊尊中央ニマシマス故ニ、高津七藡權現ト奉稱ト云ヘ共、詳ナラス。宗像末社記ニハ、許斐權現脊屬小神上七郎殿一所、又祭祀記ニ上七郎殿、神事正月十七日踏歌神事、五月五日九月九日節供神事、一年中毎月朔幣望祭神事、廿四度、下津七郎殿神事正月十七日踏歌神事、五月五日、節供神事、一年中毎月朔幣望祭神事廿四度ト見ユ。

山　神　社

南鄕村大字王丸字高熊にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　大山祇命

一、由緒　不詳。例祭陰曆九月廿一日

貴　舟　神　社

南鄕村大字王丸字許斐にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　保食神

一、由緒　不詳。例祭陰曆四月十五日

王　子　神　社

南鄕村大字王丸字許斐にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　大己貴命

一、由緒　不詳。明治十年宗像神社攝社ト定ラル。例祭四月三日

〔筑前國續風土記拾遺〕王丸村

王子宮本社の南山の頂上に在。石祠也。西に向へり。素盞嗚尊を祀る。宗像年中行事に年中廿四度の神事有

よし見へたり。此王子社と本社との間に、數丈の大巖聳立り。此巖の上に人の見ざる小池有といひ傳ふれども、池といふべき程の所にあらず。岩上に少凹なる處有て、水溜れるを云。

八　幡　神　社

南郷村大字王丸字鎌田にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　譽田天皇

一、由緒　中世此所ニ民居ヲ移セシニ因テ、本村氏神八幡神社ヲ當地ニ鎮座シ、該地ノ氏神ノ如ク崇敬セリ。

例祭陰暦九月廿七日

妙　見　神　社

南郷村大字王丸字尾中にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　國常立命

一、由緒　不詳。例祭陰暦十一月九日

神　興　社

神興村大字津丸字元神興にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　宗像三女神

一、由緒　不詳

〔筑前國續風土記附錄〕津丸村

村の南六町計圃の中に神興（ジンゴ）といふ所あり。古瓦多し。又礎石も殘れり。民老傳へて云。いにしへ宗像三女神、鞍手郡室木岳より、しばらくこゝに遷座し給ひし時の社地なりとそ。神興とは神威此所よりおこり、現れ給ふ故の名と、宗像宮緣起に見ゆ。其東三十歩計に森あり。中に叢祠あり。宗像三神を祭れるなるへし。此邊に元日田グハンジツタ・五月田ゴグハチデンと云田の字殘れり。皆神稅の地なりしとそ。

〔筑前國續風土記拾遺〕神興宮址

村の南六町許、山畠の内に石祠有。此處を古より神興といふ。宗像三神を祭る。宗像社記曰、三女神初室木六岳出現給、其後於神興村而神威輝給、故其所神興村云、其後三所之靈地在御遷座云々と見へたり。此處のことなり。しかれば宗像三所に鎮座のことは、いとも〳〵上つ世のことにて、既に三所の地名は古事記、日本紀にもしるされたれば、なほ其前久しき世の事也けらし。其三所に遷給へる後も、此處は宮殿嚴にして、祭祀も盛也しとかや。今舊址を見るに、山谷の間に在て、其景致幽邃也。丘上方貳町計、平坦にして三方に山岡旋りて、南一方遙に開て、泉川東より西に流れたり。其平原の艮の隅に、冬青樹（ナノミ）と石壇樹（ダン）二三株立り。其餘は粟田豆田となりたり。圃中に古瓦の破たる多し。其南に古瓦を拾ひ捨し處、塚の如く積めり。此圃中薦

敷と云處、粟生の中より村民善三郎と云ものゝ女、享和元年辛酉六月十二日銅印一顆を得たり。其形方にして、造字一字鐫たり。雞冠紐書躰古雅にして、古色愛しつべし。宗像社所藏の勘合印また山田村增福院にある所の氏雄の印に同樣なり。また此邊に五月田、元日田など云田字あり。古の祝稅の地なりといふ。かくていづれの比なりしにや、兵亂に御社も回祿せしかば、假に神體を東南の方高宮山の南の半腹に社を建て祀りしか、また寛永十三年鳥巢村の內に移せり。此事は畝町の條にいへり。かの鳥巢高宮に移せし後は、宮殿門樓の址空しく禾黍の田となりて、其址とし見へざりしが、近比村民土一と云もの、夢の告有と稱して、石檀樹の下に、小祠を營めり。其後旱年に村民等、此祠に雩するに、靈應ありとて、隣村民等力を戮て、報賽に石祠を建立す。側に手水盥を置り。是は南の圃にありしいにしへの礎石なり。經六尺貳寸、橫四尺六寸五分、高貳尺七寸、正中に柱を彫入し穴あり。經壹尺九寸、深三寸五分あり。この礎石をみて、上古の殿舍の宏大なりしことを知るべし。

天滿神社

神興村大字村山田字谷にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　菅原神

一、由緒　不詳

一、境內神社一社

須賀神社　祭神　素盞嗚命　由緒不詳

神興村大字村山田字冬越にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　素盞嗚命

一、由緒　不詳

天降天神社

神興村大字村山田字天神にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　少名彥神

一、由緒　不詳

春日神社

神興村大字手光字手光にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　天兒屋根命

一、由緒　不詳

一、境内神社一社

秋葉社　祭神　火結靈神　由緒不詳　字井元ヨリ移轉。

豐受神社

神興村大字手光字池田にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　豐受姫命

一、由緒　不詳。例祭二月六日、八月六日

須賀神社

神興村大字手光字赤壤にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　素盞嗚命　保食神　明治二十五年十一月合併。

一、由緒　不詳。例祭六月十五日

一、境内神社二社

疫神社　祭神　八十枉津日命　由緒不詳。字井ノ元ヨリ移轉。

龍王神社　祭神　玉依姫命　由緒不詳。字赤ハゲヨリ移轉。

貴船神社

神興村大字手光字湯ノ浦にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　闇靈神

一、由緒　不詳

福地神社

上西郷村大字内殿字牛房尺にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　保食神

一、由緒　不詳

嚴嶋神社

上西郷村大字内殿字坂丸にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　市杵嶋姫命

一、由緒　不詳。例祭九月四日

貴船神社

上西郷村大字内殿字古内殿にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　高靈神　闇靈神

一、由緒　不詳。例祭四月廿一日

愛宕神社

上西郷村大字上西郷字且ノ原にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　加具土神

一、由緒　元祿十五年宗像家臣吉田小太郎秀時ト言者、當社ヲ勸請スト云。例祭一月廿四日、九月十四日

一、境内神社四社

日田神社　祭神　大日靈神　由緒不詳

多賀神社　同　伊非諸命　〃　〃

疫神社　同　八十枉津日神　〃　〃

貴船社　同　闇靈神　〃　〃

〔筑前國續風土記附錄〕上西郷村

愛宕社　ダンノハル。社說あり。餘考に記す。社内に日田明神、多賀明神、稻荷地主權現社あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕愛宕社

枝郷團原に在。宗像家臣吉田小太郎秀時と云者　後改名して小田善左衞門と云。天正二十年はじめて此處を闢き、家居せり。此時宅の側に勝軍地藏堂を建立せしが、元祿十五年に秀時が遠孫愛宕社を造立し、眞言の修驗者となりて奉祀せり。

須賀神社

上西郷村大字上西郷字大森にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　大己貴命　素盞嗚命　稻田姫命

一、由緒　不詳。例祭二月初午日、九月八日

須賀神社

上西郷村大字上西郷字針元にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　素盞嗚命　大國主命

一、由緒　不詳。例祭六月十四日、十一月十八日

鞍掛神社

上西郷村大字上西郷字鞍掛にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　素盞嗚命

一、由緒　往古大森神社嘉元年間十一月ニ神幸之時、必ス當社ニ御泊輿アリキ。其例今モ存ス。例祭四月八日、八月八日

小烏神社

上西郷村大字上西郷字井尻にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　玉依姫命

一、由緒　不詳。例祭十一月二日

須賀神社

上西郷村大字上西郷字尾林にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　素盞嗚命

一、由緒　不詳。例祭六月十五日

天滿神社

上西郷村大字上西郷字ヒウチイシにあり。

〔神社帳〕

一、祭神　菅公

一、由緒　不詳。例祭二月廿五日、八月廿五日

須賀神社

上西郷村大字畦町字宿にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　素盞嗚之命

一、由緒　不詳

一、境内神社二社

惠美須神社　祭神　事代主命　由緒不詳

疫神社　同　八十枉津日神　〃　〃

天滿神社

上西郷村大字畦町字東ケ鼻にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　菅公神

一、由緒　不詳

貴船社

上西郷村大字畦町字猿田にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　闇靈神

一、由緒　不詳

大歳神社

上西郷村大字本木字万歳丸にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　息長足姫命　大年神

一、由緒　不詳。例祭二月

歳山神社

上西郷村大字本木字小路口にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　神功皇后

一、由緒　不詳。例祭二月

天満神社

上西郷村大字本木字萬歳丸にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　菅原神

一、由緒　不詳。例祭二月廿五日、八月廿五日

〔筑前國續風土記拾遺〕天滿宮

石畠といふ處に在。宗像末社記に老松社といへるは此社にや。世に天滿宮と老松社と互に通して呼所多し。俗説に往昔此社の楠の木を伐て、大日の像三體を彫刻す。其本にて作るを此村河内に安置す。依て村の名を本木といふ。末にて刻めるを粕屋郡須惠村に置、中なるは那珂郡那珂村にありといへり。其木の根株朽殘りて今に在。又大木の楝樹もあり。

秋葉社

上西郷村大字本木字大ケ浦にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　火結命
一、由緒　不詳

天　神　社

上西郷村大字本木字天神元にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　保食神
一、由緒　不詳。例祭二月廿四日

貴　船　神　社

上西郷村大字本木字河内にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　高靈神
一、由緒　不詳

靈　神　社

上西郷村大字本木字大ケ浦にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　高靈神　闇靈神
一、由緒　不詳。例祭八月廿八日

天　降　神　社

上西郷村大字舍利藏字橋ケ元にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　少彦名命　市杵島姫命
一、由緒　當村産土神ハ往古粕屋郡薦野村天降神社成シカ、明治二年三月當村鎭座嚴島神社ニ右之氏神勸請合祭シテ、村民産土神ト尊敬ス。例祭九月十九日。

福　智　神　社

上西郷村大字舍利藏字水上にあり。

〔神社帳〕
一、祭神　保食神
一、由緒　不詳。例祭十月十二日

熊　野　神　社

上西郷村大字舍利藏字水上にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　伊弉冊命　事解男命　菅原神

一、由緒　不詳。例祭二月九日。天滿神社字水上ヨリ本社へ合併。

貴布禰神社

津屋崎町大字在自字奈野美にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　高靈神　闇靈神

一、由緒　不詳。例祭四月ヨリ九月迄月々一度宛。

須多神社

津屋崎町大字須多田字上ノ口にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　神直日命

一、由緒　不詳。例祭八月

〔筑前國續風土記附錄〕須多田村

須多田明神　ヤマキワ　昔は產神なりしが、今はしからすといふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕須多田明神社

宗像末社記に、上高宮下符社二十五所の內、須多田明神とあるは、此社の事なるへし。百八神の內なり。昔は當村の產神と崇しか、今はしからず。小祠也。

保食神社

津屋崎町大字須多田字辰ケ鼻にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　宇計毛知神

一、由緒　不詳。例祭九月、八月

福地神社

津屋崎町大字大石字水上にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　倉稻魂神　宇計母知神

一、由緒　不詳。例祭十月十二日。保食神社字伊ノ坂ヨリ合併。

一、境內神社二社

稻荷神社　祭神　豐受神　由緒不詳　例祭二月初午日。

五穀神社　同　大己貴命　〃　〃　字伊ノ坂ヨリ移轉。

塩竈神社

津屋崎町大字津屋崎字東竪川にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　鹽土翁

一、由緒　筑前續風土記ニ曰ク、元祿十四年入海ノ東畔ニ、石垣ヲ築ク事長千貳百八十間餘、新田ヲ墾開スルコト五拾九町四反九畝餘、鹽濱凡三十町六反。當村ノ所有地トアリ。是ニヨツテ之レヲ考レハ、爲メニ勸請シタル社ナルヘシ。例祭九月廿六日。

一、境内神社四社

大國社　祭神　大國主神　由緒不詳

稲荷社　同　宇加御魂神　〃　〃

秋葉社　同　迦具土神　〃　〃

嚴島神社　同　宗像三女神　〃　〃　字西竪川ヨリ移轉。

〔筑前國續風土記拾遺〕鹽竈社

鹽濱に在。產神と均しく祭る。社内に姪子社、山王社、大黑社、大師堂等あり。是元祿以後の營構也。

金比羅神社

津屋崎町大字津屋崎字新川端にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　大物主神

一、由緒　創建年月不詳ナレトモ、本郡宮地村大字在自ニ鎭座アル金毘羅神ヲ爰ニ奉迎シテ、社殿ヲ設ケタリト云。祭日陰曆八月九日。

楯崎神社

津屋崎町大字渡字京泊リにあり。

〔神社帳〕

一、祭神　大己貴命　海津見神　少彦名命

一、由緒　古楯崎遙拜ナリシカ、後世從本宮分靈ヲ、當渡リ村ニ勸請ス。例祭一月廿四日。

楯崎神社

津屋崎町大字渡字南にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　大己貴命　海津見神　少彦名命

一、由緒　古楯崎遙拜ナリシカ、後世從本宮分靈ヲ當渡リ村へ勸請。例祭一月廿四日。

一、境内神社一社

須賀社　祭神　素盞嗚命　由緒不詳

〔筑前國續風土記附錄〕渡村

楯崎神社　神殿五尺社、拜殿二間半二間、祭禮九月廿四日、奉祀物ノ市。

村内にあり。產神也。參詣の便りよきため、楯崎山より勸請すといふ。社内に惠比須社、祇園社あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕楯崎神社

津屋崎よりの渡口にあり。產神也。所祭は楯崎山の神社に同し。宗像末社記に渡津神社有。此社なるへし。祭禮九月廿四日。津屋崎浦の巫女奉祀す。社内に惠比須社、祇園社あり。近年夢の告ありと稱して、大坂の富商、神殿を新に造進せり。

貴船神社

津屋崎町大字渡字山ノ上にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　高靈神　闇靈神

一、由緒　不詳

天滿神社

津屋崎町大字渡字内浦にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　菅原神

一、由緒　不詳

天滿神社

津屋崎町大字渡字山ノ上にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　菅原神

一、由緒　不詳

天滿神社

津屋崎町大字渡字梅津にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　菅原神

一、由緒　古老曰、菅原道眞左遷ノ時、此地へ舟ヲ寄セ休マレシ其跡ニ、社ヲ建祭ルト云。勸請年月不詳。

一、境内神社一社

須賀神社　祭神　素盞嗚神　由緒不詳　字梅津ヨリ移轉。

森神社

津屋崎町大字渡字梅津にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　大己貴神　海津見神　少彥名命

一、由緒　不詳。當村字梅津及勝浦村ノ内鹽濱村ノ元產神也。例祭九月廿六日

祭神海津見神及少彥名命ハ字池尻ニ無格社楯崎神社（大己貴命ハ同一祭神ニ付合靈セリ）トシテ祭祀アリシヲ、大正五年十月六日許可ヲ得テ合祀セリ。

〔筑前國續風土記附錄〕渡村

森神宮（ムメヅノ内マルヤマ）　神殿三尺社、拝殿二間二間半、祭禮九月廿九日、石鳥居一基、奉祀勝浦村奏ノ市。

屬村梅津及勝浦村の屬村鹽濱村の産神也。祭る所楯崎神、年守神を勸請すといふ。鎮座の初詳ならず。社内に稲荷社あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕森神社

梅津の上なる丸山に在。梅津及勝浦村の内鹽濱村の産神也。祭る所楯崎神、年守神也。祭禮九月廿九日。奉祀上に同し。○津屋崎浦巫女

蛭子神社

津屋崎町大字渡字蛭子ノ元にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　事代主神

一、由緒　不詳

楯崎神社

津屋崎町大字渡字田ノ浦にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　大已貴神　綿津見神　少彦名神

一、由緒　創建年月不詳ナレトモ、同村字御園ニ鎮座アル楯崎神社ノ分靈ヲ勸請セルモノナリト云。祭日一月廿日

五穀神社

大島村字野田にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　稲倉魂命

一、由緒　不詳

一、境内神社一社

地主神社　祭神　埴安彦命　由緒不詳

須賀神社

大島村字中西にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　須左之男命　保食命　菅原神　大國玉命

一、由緒　不詳。祭神保食神ハ同村字汐差無格社大歳神社トシテ、祭神菅原神ハ同境内神社無格社天滿神社トシテ、祭祀アリシヲ、大正十年十月廿一日許可ヲ得テ合祀ス。祭祀大國玉命ハ同村大字大岸無格社國玉神社トシテ、祭祀シアリシヲ、昭和七年二月四日許可ヲ得テ合祀ス。

一、境内神社一社

事代神社　祭神　事代主命　由緒不詳

牽牛神社

大島村字中西にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　伊邪那岐命

一、由緒　不詳

一、境内神社一社

金毘羅神社　祭神　大國主命　由緒不詳

〔筑前國續風土記〕大島

社前に天の川流。此川御嶽の下より出、其川の端左右に分れて、牽牛織女二星の小社有。川をへだてたり。古今集秋部の歌に、

秋風の吹にし日より久方の
天の河原にたゝぬ日はなし

石見女式髓腦曰、筑前大島と云所に星宮とて有。川を隔て宮有。北をば彦星宮と云。南をば七夕宮と云也。男を申者は彦星の宮に籠り、女を申者は七夕の宮に籠る也。七月一日より七日迄籠りて、川中に三重の柵を結て星祭をして、三の手洗に水を入て影を見るに、何れも逢べき男の姿、手洗にうつれば、其男に逢べきと知也。古今集榮雅抄に曰、筑前國大島に、星の宮とて、北は彦星を祝ひ、南は織女を崇む。二社の間に川有。天の川と名付く。女を得んと思へば織女の宮に籠り、男を得んと思へば彦星の宮に籠る。七月朔日の夜より七日の夜半に至り、河中に柵を結て、手洗上中下三つに水を入て、上中下に男の名を書て祭をして、手洗にうつりたるに隨ひて、其男女の縁を定むる也。此祭をせんとては、河原にたゝぬ日はなしと云。

嚴島神社

大島村字眞名橋にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　宗像大神　底筒男命　中筒男命　上筒男命

一、由緒　不詳。祭神底筒男命、中筒男命、上筒男命ハ宇加代ニ無格社荒船神社トシテ祭祀アリシヲ、昭和二年三月十日許可ヲ得合祀。

一、境内神社一社　事代主社　祭神　事代主命　由緒不詳

幸神社

大島村字田志にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　久那計之神

一、由緒　不詳。例祭一月十五日

山邊神社

大島村字汐サシにあり。

〔神社帳〕

一、祭神　不詳

一、由緒　不詳。例祭三月廿一日、十二月十日

貴船神社

大島村字前田にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　水罔女命　武甕槌命

一、由緒　不詳。例祭三月二十一日、十二月十日。祭神武甕槌命ハ字江坂ニ無格社飯盛神社トシテ祭祀アリシヲ、昭和二年三月十日許可ヲ得合祀。

五穀神社

大島村字江坂にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　稲倉魂神

一、由緒　不詳。例祭七月廿八日、九月廿五日

織女神社

大島村字大岸にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　伊邪那岐命

一、由緒　不詳。例祭八月十七日、同十八日

龍宮神社

大島村字大牛にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　底津和多津美神　中津和多津美神　上津和多津美神

一、由緒　不詳。例祭四月二十日

八幡神社

大島村字下津和瀬にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　宗像大神　應神天皇

一、由緒　不詳。例祭十月三十日

地主神社

大島村字多志にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　埴安彦命

一、由緒　不詳。例祭一月十五日（從來字田志字汐差及字山路ニ無格社地主神社トシテ埴安彦命ヲ祭祀アリシヲ、昭和二年三月十日許可ヲ得合祀、同一祭神ニ付、合靈セリ）

八幡神社

福間町字福間浦にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　應神天皇

一、由緒　不詳

天滿神社

福間町字太郎丸にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　菅原神

一、由緒　不詳

宗像神社

福間町大字下西郷字福間にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　宗像三姫命

一、由緒　勸請年月不詳

一、境內神社三社

菅原神社　祭神　菅原道眞　由緒不詳

竈門神社　同　豐玉姫命　〃　〃

蛭子神社　同　事代主神　〃　〃　字福間ヨリ移轉。

久留尊神社

福間町大字下西郷字北原にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　伊弉那美神　伊弉冊神

一、由緒　不詳

嚴島神社

福間町字福間浦にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　市杵島姫命

一、由緒　不詳

一、境内神社一社

　戎子神社　祭神　事代主神　由緒不詳

粟島神社

福間町大字下西郷竹尾にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　少名彦神

一、由緒　不詳

一、境内神社一社

　菅原神社　祭神　菅原道眞　由緒不詳

疫神社

福間町字福間にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　八十柱津日神

一、由緒　福間疫病流行之節鎭座ス。年月不詳

須賀神社

福間町字堂ノ裏にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　素盞嗚神

一、由緒　惡病流行ノ際鎭座ス。年月不詳

和田津見神社

福間町字福間浦にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　少童命

一、由緒　不詳

一、境内神社二社

　惠比須神社　祭神　事代主神　由緒不詳

貴布禰神社　祭神　闇龗神　由緒不詳　字福間ヨリ移轉。

龜山神社

福間町大字下西郷字四角にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　伊弉那岐神　國常立神

一、由緒　不詳

一、境内神社三社

荒五郎社　祭神　素盞嗚命　由緒不詳

蛭子社　同　事代主神　〃〃

熊野神社　同　伊弉那岐神　〃〃　字太郎丸ヨリ移轉。

小烏神社

福間町字濱崎にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　綿津見神　高靈神　闇靈神

一、由緒　不詳。例祭舊十一月三十日

一、境内神社二社

須賀神社　祭神　素盞嗚命　由緒不詳　村内惡病流行ニ付鎭座スト云。

八龍神社　同　少童神　〃〃

若宮神社

勝浦村字山添にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　大鷦鷯命

一、由緒　古老曰、勝浦岳ノ神ヲ中世勸請スト。依テ若宮ト云ト。或書ニハ宗像神ノ御子神ナラント見エタリ。例祭九月十八日

一、境内神社二社

菅原神社　祭神　菅原神　由緒不詳

福地神社　同　海津見神　大己貴命　倉稻魂神　由緒　弘化二年八月吉日再建、五穀成就ノ爲メ勸請之。

空間神社

勝浦村字古賀にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　志賀三柱神　住吉三柱神　鹽竈神

一、由緒　古老傳云フ、「往古ハ年毛社ノ氏子ナリシカ、何レノ頃ニカ、年毛ノ神ヲ此處ニ勸請シテ後ハ、

右氏子ヲ離レシト云フ」〇年毛社ハ海邊ニ鎮座故、濱ノ宮ト唱ヘ、當社ハ陸ニ勸請セシニ依テ、陸ノ宮ト云ヒシト。今ハ空間社ト云。例祭九月十八日、同十九日

一、境內神社四社

愛宕神社　祭神　加具槌命　由緒　爲鎭火寶曆五年勸請、例祭十一月廿四日。

須賀神社　同　素盞嗚命　〃　享保年間年毛ヨリ勸請セシト云傳フ。

惠美須神社　同　事代主命　由緒不詳

保食神社　同　倉稻魂神　〃　〃　文久三年四月吉日再建。

〔筑前國續風土記附錄〕勝浦村

空閑（クウガン）大明神　コガ　古額（コガ）とも書り。石鳥居一基。

祭る所の神名詳ならず。社內に愛宕社、阿彌陀堂、觀音堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕空閑大明神

古賀にあり。又古額とも書り。此所の產神也。奉祀巫女也。

勝浦嶽神社

勝浦村字勝浦岳にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　神功皇后　菅原神

一、由緒　往古三韓ヲ征伐シ玉ヒ、凱旋ノ時、此山ニ登リ、軍ニ勝浦ト詔リ玉ショリ、依テ村名ヲ勝浦、山ヲ勝浦岳ト唱フト云。宗像七拾五社ノ其一ナリ。末社記ニ高宮下符ノ社二十五ノ所內勝浦明神トアルハ、此社ノ事ナリ。例祭ハ十一月二日ナリシ由、同書ニ見ヘタリ。往古山下ニ鎭座ナリシカ、近年山ノ中途ニ遷シ、鎭座ス。

〔筑前國續風土記附錄〕勝浦村

勝浦嶽神社　神殿一間半一間、石鳥居一基。

桂嶽にあり。神功皇后、天滿天神、歡喜天を祭る。古ヘ神功皇后異國より歸らせ給ふ時、此浦に上り給ひしより、村の名とせると、里民の說ありと、本篇に見へたり。後に此所に社を建てまつれるなるへし。

〔筑前國續風土記拾遺〕勝浦嶽大明神

勝浦嶽の麓に在。所祭神功皇后也。近年相殿に天滿神、歡喜天をも祭る。往昔皇后新羅に勝て、還幸あり。此山に上らせ給ふ。故に名とすといふ。宗像七十五社の一なり。同末社記高宮下符社二十五所の內に、勝浦明神とある、此社の事なり。祭日十一月三日なりしよしも、同書に見えたり。寶曆の頃、社內に惣知院といふ庵を建立せしより、此社は今彼庵の鎭守社の如し。溫古の士は痛惜すへきことにこそ。

〔太宰管內志〕勝浦神社

（宗像社正平末社記）に高宮下符社二十五所勝浦神社とあり。（文安緣起）に勝浦明神あり。小神六十二社の內なり。又宮司鄕勝宮大明神あり。もし是にはあらぬか。（正平記）に勝浦明神十一月三日祭之とあり。七十五所の內

なり。當郡桂村あり。此處に在る神なるか。

〔福岡縣地理全誌〕勝浦岳神社

後世同殿ニ歡喜天ヲ祭リ、寶曆八年戊寅、村民忍照ト云者、又社ノ側ニ惣智院ト云庵ヲ建ショリ、本社ハ彼院ノ鎭守ノ如ク成行キシカ、明治元年戊辰ニ至テ、舊ニ復スル事ヲ得タリ。

須賀神社

勝浦村字上松にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　素盞嗚命　奇稻田姫命

一、由緒　享保七年福岡區博多櫛田社ヨリ勸請スト。例祭六月十四日

豊山神社

勝浦村字向戸にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　保食神　加具槌神

一、由緒　享保元年豐前國英彥山ヨリ勸請スト云。例祭八月六日

酒多神社

勝浦村大字奴山字音ケ浦にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　不詳。或說ニ大物主神ヲ祭ルト云。神功皇后、工女兄比賣、應神天皇。

一、由緒　不詳。宗像宮末社記ニ高宮下符二十五所ノ內酒多明神トアルハ此社也。例祭一月八日、九月廿八日　祭神神功皇后、工女兄比賣、應神天皇ハ字新原無格社縫殿神社トシテ祭祀アリシヲ、昭和四年八月三十一日許可ヲ得テ合祀ス。

一、境內神社一社

保食神社　祭神　倉稻魂神　事代主神　菅原神　由緒　事代主、菅原神ハ字新原ニ無格社縫殿神社境內惠比須神社、菅原神社トシテ祭祀アリシヲ、昭和四年八月三十一日許可ヲ得テ合祀。

〔筑前國續風土記附錄〕奴山村

酒多社（スタ）　ヲトガウラ　神殿三尺社、拜殿二間三間、祭禮九月廿八日、奉祀宮司村圓覺坊。

上ネリハラ及下ネリハラ　積浦村の內地　廿四戶の產靈なり。祭る所の神名、詳ならず。社內に阿彌陀堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕酒多（スタ）神社

音ケ浦に在。練原の產神なり。宗像末社記に高宮下符二十五所の內酒田明神とあるは此社なり。宮司村修驗吉祥院奉祀す。

大都加神社

勝浦村大字奴山字裏にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　不詳

一、由緒　筑前風土記ニ宗像氏ナトノ先塋ノ地ナルヘシト有リ。「社山ノ西北往古ハ入江ナリシカ、寛保年間開作トナル」。住吉神ナト祭リシ社ナランカ不詳。例祭一月十三日、九月廿二日

一、境内神社一社

天　神　社　祭神　菅原神　由緒不詳　字釘ヶ浦ヨリ移轉。

〔筑前國續風土記附錄〕奴山村

大塚明神社　ツカクロヤマ　神殿三尺社、拜殿二間三間、祭禮九月廿八日、奉祀在自村無量院。

屬邑生家廿七戸の產神也。いかなる神を祭れるにや。鎭座の年歷傳ふる事なし。

〔筑前國續風土記拾遺〕大塚明神社

塚黑山といふ所に在。生家の產神なり。祭神未詳。祭日九月廿八日。在自村なる修驗者奉祀す。社內右方林中に古塚あり。其外此邊に古塚多し。宗像氏などの先塋の地なるへし。

〔福岡縣地理全誌〕大塚神社

枝村生家ノ西塚黑山ニアリ。從前生家ノ產神ナリ。祭神少彥名命、埴安命、保食神、祭日正月十三日九月二十八日。末社二靈神社內野、菅原神社手野。

境內社天神社に關する文獻

〔筑前國續風土記附錄〕奴山村

天滿宮　フシワラツジ　社の下に天神の杭といふ處あり。社家の說に菅公太宰府に下らせ給ふ時、此所に御船を繫き給ふ故、此名ありといふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕奴山村

天滿宮　藤原辻に有。此處に天神杭と云字あり。菅公左遷の時、御舟をこゝに繫きし由、土民のいひ傳たり。

尾上神社

勝浦村大字奴山字內野にあり。

〔神社帳〕

一、祭神　高靈神　綿津見神　保食神

一、由緒　不詳

〔筑前國續風土記附錄〕奴山村

八大龍王社　ウチノヤマ　社邊に龍水といふ池あり。旱魃の年、雨を祈れば必驗ありとぞ。

〔筑前國續風土記拾遺〕奴山村

八大龍王　內野山に在。社の下に龍水といふ小池有。旱魃に零するに、必驗ありといふ。

第二章　寺　院

第一節　寺　院

眞光寺

吉武村大字武丸字皆眞庵にあり。淨土宗にして、福岡市住吉妙圓寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　不詳。寛文十年二月堂宇並ニ庫裏共全ク燒失ス。寛文十二年三月再興スト云々。

境內佛堂壹宇

觀音堂　本尊　觀世音　阿彌陀如來　由緒不詳。阿彌陀如來ハ同村字的場ヨリ合併。

〔筑前國續風土記附錄〕武丸村

眞光寺　ホンムラ　淨土宗鎭西佛堂六間四面

護念山淨香院と號す。那珂郡住吉村妙圓寺に屬せり。寛永七年九月專譽といふ僧開基せり。寺內に藥師堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕眞光寺

護念山淨香院と號す。淨土宗鎭西派住吉村妙圓寺の末院也。寛永七年九月專譽といふ僧開基せり。寺內に藥師堂あり。

法然寺

赤間町大字赤間字上町にあり。淨土宗にして、京都智恩院末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　天文廿一年三月九日登譽慶俊和尙開筵。

境內佛堂一宇

觀音堂　由緒。寶曆十年三月廿一日出光卯助創立。

〔筑前國續風土記附錄〕赤間村

法然寺　上ノバン　淨土宗鎭西派佛堂七間四面

受嶽山圓通院と號す。京都智恩院に屬せり。寺說に幸阿上人圓光大師の白骨を頸にかけ、九州に下り、化益せしに、環圓の白氣此地に起りしかば、是廼過去七佛の靈地なりとて、白骨を藏め、草庵を結ひ、圓通院と名つけり。天正三年慶春といふ僧、圓光大師の靈夢により、一寺を建立し、法然寺と號す。本尊阿彌陀は、惠心の作といふ。寺內に觀音堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕法然寺

受嶽山圓通院と號す。淨土宗鎭西派智恩院に屬す。寺說に幸阿上人、圓光大師の遺骨を頸にかけ、九州に下り、此處に草庵を結ひ、圓通院と號す。天正五年慶春といふ僧、圓光の靈告ありと稱して、當寺を建立す。故に慶春を開山とす。本尊の阿彌陀は古佛也。寺內に觀音堂、大師堂あり。

此寺に嘉永三年七月出光氏墓あり。

淨　万　寺

赤間町大字赤間宇古町にあり。眞宗本願寺派にして、本願寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　弘治二丙辰年月日不詳、筑前國宗像郡田久村占部彥兵衞創立ト云。

〔筑前國續風土記附錄〕赤間村

淨万寺　ホンマチ　眞宗西佛堂五間半四面

清凉山と號す。本願寺に屬せり。開基の僧を等圓といふ。年月詳ならす。等圓は弘治の頃、許斐嶽の城主占部某か遁世せる也。此寺むかしは田久村にありしが、第三世西照といふ僧、茲に移せりと、寺記に見へたり。

〔筑前國續風土記拾遺〕淨万寺

本町に在。眞宗西本願寺に屬す。開基の僧を常圓と云。弘治の頃、許斐岳城主占部氏の族也と云は田久村に在しか、第三世西照と云僧、茲に移すといふ。

〔福岡縣地理全誌〕淨万寺

本町ニアリ。清凉山ト號ス。眞宗西派本山西京本願寺末ナリ。開基ノ僧等圓ハ許斐岳城主占部氏ノ族ニテ、弘治二年丙辰此寺ヲ創建ス。昔ハ田久村ニアリシカ、第三世西照ト云僧、此ニ遷セリ。

正　法　寺

赤間町大字陵嚴寺字寺ノ前にあり。淨土宗にして京都智恩院末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀如來

由緒　開山俊芿國師建久三子年同郡三郎丸村藤ケ谷ト云處ニ開基、正法寺ト號ス。眞言宗也。天文四未年此地ニ遷シ、鎭西派淨土宗ト改。太閤秀吉朝鮮發向ノ砌リ、當寺ヱ滯在。建山田畠及當郡赤間驛迄橫貳間ノ道路寄附。

〔筑前國續風土記附錄〕陵嚴寺村

正法寺　ムラウチ　淨土宗鎭西佛堂六間六間半

蘿嶽山龍泉院と號す。智恩院に屬せり。嘉祿三年釋俊芿といふ僧、三郎丸村に開基す。其頃は眞言宗なりしか、天正年中接譽といふ僧、此地に移し、淨土宗に改めり。此寺に　神祖より給りし三部經ありしが、今はなし。此事たしかならすといへとも、一純本編赤間山古城の所を考ふるに、秀吉公天正十五年筑紫征伐の歸

りに、此城に入給ふ。一説陵嚴寺村の正法寺といふ淨土寺に一宿し給ふと見ゆ。かゝる事あれは、神祖の三部經を賜はりしといふも、妄説ともいひかたし。

〔筑前國續風土記拾遺〕正法寺

蘿嶽山龍泉院と號す。淨土宗鎭西派智恩院の末寺なり。建久年中釋俊芿當寺を當郡三郎丸村に開基あり。初は眞言宗なりしといふ。元亨釋書に俊芿は肥後國飽田郡の人、十九にして太宰府觀世音寺にて受具戒、建暦元年入宋し、還りて博多に着く。本邦にかへり筒嶽に、正法寺を創立する由見へたり。寺説に釋書の正法寺は即當寺の事にして、肥後に非ずといふ。此説いかゞあらん。覺束なし。天正年中に淨土宗の接譽といふ僧再興して、寺を此村に移すといふ。此寺に昔神祖より賜ひし淨土三部經有しよし、今はなしと云。按に天正十五年太閤筑紫征伐の時、御かへるさに、蘿ヶ岳城に入給ふ。此時に樗嚴寺村の正法寺といへる淨土寺に一宿し給へるよし、本編に見へたり。また朝鮮陣の時には、神祖名古屋の御陣にもありしかば、其御往來に此寺に一宿せさせ給へることも有て、御恩施有しにや。遠賀郡茶屋原にて、淨土僧信譽に神祖の短刀を賜し類なるべし。

此寺に天正元年正月石松氏墓、寛永八年正月吉田氏墓等あり。

妙　堪　寺

赤間町大字陵嚴寺字寺ノ上にあり。臨濟宗大德寺派にして、福岡市堅粕崇福寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　釋迦牟尼如來

由緒　建武元年六月廣智禪師開基。餘不詳。

境內佛堂四宇

藥師堂　由緒不詳

藥師堂　由緒不詳。石丸村字原ヨリ移轉ス。

藥師堂　由緒不詳。同村字本村ヨリ移轉。

地藏堂　本尊阿彌陀如來　由緒不詳。明治四十一年九月八日同大字々上ノ原ヨリ移轉許可。

〔筑前國續風土記附錄〕陵嚴寺村

妙湛寺　ムラウチ　禪宗濟家佛堂四間三間

見龍山と號す。崇福寺に屬す。開基の僧を天英といふ。年歷詳ならす。寺説に暦應の頃、横岳山の二世廣智禪師楞嚴經説法せられしより、村の名を楞嚴寺といふ。その時前池に龍顯れし事あり。故に山號とす。其池は寺の南にあり。高寺內に藥師堂あり。樹山塘といふ

〔筑前國續風土記拾遺〕妙湛寺

見龍山と號す。禪宗濟下崇福寺の末也。開基の僧を渡天英和尙といふ。年時詳ならす。寺説に横嶽山の二世廣智絶崖禪師、此寺に在て楞嚴經を説法有しより、村の名を楞嚴寺といふ。其時龍ありて、前池に顯はる。故に見龍山と號すと云。其池は寺の南にあり。高樹山塘といふ　寺後に渡天屋敷とて有。渡天和尙の住し所なり。廣智禪師は暦應二年九月に寂すと云。元龜元年正月大宮司氏貞下臣に命して、河津掃部助隆家を此寺にて殺されし事、宗像追考に見へたり。寺內に藥師堂あり。古像にして秘佛なりといふ。

淨　蓮　寺

赤間村大字富地原字本村にあり。眞宗本願寺派にして、本願寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　創立元龜元年十二月開基祐尊。肥後國赤星宮內掾長兄北御門彈正忠之息男也。明治十四年十月再建。

〔筑前國續風土記附錄〕藤原村

淨蓮寺　ムラウチ　眞宗西佛堂六間四面

藤原山と號す。本願寺門徒也。開基の僧を祐尊といふ。肥後國士赤星氏、北御門彈正といへるものゝ子也。同國天龍寺におひて薙髮し、永祿三年此村に來り、神屋主馬の許に寄食し、元龜元年に此寺を開基せりといふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕淨蓮寺

眞宗西本願寺門徒也。開基の僧を祐尊といふ。肥後國士赤星氏、小御門彈正といへる者の子也。同國天龍寺に於て薙髮し、永祿三年此村に來り、神屋主馬が許に寄留し、元龜元年に此寺を開基せりといふ。

此寺に孝子正助木像（文化三年作）、銅像（大正十二年作）及孝子に關する記錄あり。

來　迎　寺

河東村大字須惠字岸元にあり。淨土宗にして、福岡市住吉妙圓寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　不詳

境內佛堂貳宇

藥師堂　由緒不詳。慶應三卯年三月再建

大日堂　本尊　大日如來　觀世音菩薩　由緒不詳

〔筑前國續風土記附錄〕須惠村

來迎寺　コジロウバヤシ　淨土宗、佛堂六間四間半

聖衆山引攝院と號す。那珂郡住吉村妙圓寺に屬せり。本尊阿彌陀、勢至、觀音は安阿彌が作といふ。文明年中深譽といふ僧開基せり。寺內に藥師堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕來迎寺

聖衆山來迎寺引攝院と號す。淨土宗住吉村妙圓寺の末寺なり。本尊の彌陀、觀音、勢至は安阿彌か作也と云。奇巧なり。此寺文明年中に深譽といふ僧開基せり。

增　福　寺

河東村大字山田字瀧ノ下にあり。曹洞宗にして同郡田島村醫王院末なり。

〔寺院帳〕

本尊　六地藏菩薩

由緒　永正十一年創立。當院ハ古宗像氏由緒ノ寺院ニシテ、往古毘沙門天（弘法大師ノ作）ヲ安置シタル事、筑前續風土記ニ載セテ著明ナリト雖トモ、其開基ノ年月日履歴詳ナラス。回顧スレハ今ヲ距ル事三百七十餘年、永正十一年十月本郡田島村醫王院第二世住職綠叟掌藺之ヲ再興シ、曹洞宗ト爲ス所ナリ。而シテ該再興ヨリ三十餘年ノ星霜ヲ經テ、當時本院ノ住職ハ第三世器泉詳藝（醫王院三代ナリ）ニシテ、宗像大宮司中納言氏貞ノ時ニ當リ、同家七十七代正氏、七十八代氏雄ノ兩夫人、及ヒ四侍女カ非命ニ死シタルハ、實ニ天正二十二年三月二十三日ノ夜ナリ。相次キテ該夫人等ノ怨靈ヲ吊慰セン事ヲ欲シ、永祿二年七月中宗像氏貞田園貳町ヲ本院ニ寄附シ、以テ祭祀ニ供ス。其以降天正十四年氏貞（此年三月ニ卒ス）ノ遺族等、彼ノ非命ニ死シタル兩夫人、及ヒ四侍女ノ菩提ノ爲メ、地藏菩薩ノ像六軀ヲ刻シ、本院ニ寄附ス。故ニ歴世本院ノ本尊トシテ崇敬セシ事、其證左明々ナレハ、衆庶ノ知ル所ナリ。

境内佛堂貳宇

觀音堂　千手觀音（大日如來、毘沙門天、弘法大師ヲ合祀）

阿彌院堂　由緒不詳

〔筑前國續風土記〕山田村增福院

增福院に昔より毘沙門有。又近世宗像大宮司正氏の後室、並其女、氏男の妻の墓有。母子の墓一也。又其侍女四人の墓も有。皆大宮司の臣の爲に殺さる。後室の怨靈たゝり有に依て、地藏菩薩とあがめ、像を作り、寺を立て安置す。其因緣を尋るに、後室の居宅は山田村增福院の下に在。則大宮司の別院なり。是より先、宗像大宮司氏佐、大内家に屬し、周防山口に出勤せし時、長門の深川黑川兩庄を給はり。黑川に宅を構へて居住す。黑川氏と稱す。氏佐の子刑部少輔正氏も、黑川に三年住せし時、陶尾張守晴賢入道全姜が姪女をめとりて、二人の子を生。兄は鍋壽丸と號す。其次は女子也。正氏本妻は宗像山田に在。女子一人をうめり。名は菊姫と云。正氏は家族氏續が嫡子權頭氏光を養子聟として、菊姫をめあはせ、家をゆづり隱居し、山田に住し、名を隆尙と改む。天文十六年四十八歳にて病死す。上八村承福寺に葬る。氏光は名を改て氏男と號す。氏男も又大内氏に隨ひ、防州に行勤けるが、天文廿年九月、陶全姜主君大内義隆に叛逆す。義隆其亂をさけて、長州深川大寧寺に落行、自殺せられ、後にて氏男敵を防けるが叶はす。義隆の跡を慕ひ行けるを、敵追かければ、氷の上と云所にて戰死す。生年廿三とかや。其後全姜のはからひにて、正氏黑川にまうけし陶が姪の産し子、鍋壽丸を四郎氏貞と號し、正氏が家督とし、大宮司にせん迚、天文廿年九月十二日、宗像へ下し、白山の城に入ける。時に歳七歳。然るに宗像家臣共、同心せすしていはく、氏貞は正氏の子と云へ共、本妻の子に非す。氏男の弟千代松殿有。是を氏男の養子とし、家督とすべし。然共當年三歳幼稚なれば、先菊姫に一族の内然るべき人を聟に取て、社職をつがすべし。氏貞を下しまいらせらるゝ事、一應家人へも其示は有べきに、さはなくて押て白山へ入城せしむる事、陶殿のひがごと也。是氏貞の家人、寺内治部丞が我意をふるまふ故成りと評定し、氏貞を立んとせす。又千代松が父前大宮司氏續も、我子千代松を立んことを悅んで其議に同す。又陶が命を恐れて氏貞を立んと云者も多くして、家中二に分れあらそふ。陶全姜是を聞て、寺内治部丞に云付、先氏續及千代松を殺さしむ。（其事は鞍手郡山口村圓通院の所に詳に記す。）其後又陶が下知にて、正氏が後室並其息

女の菊姫を殺し、氏貞を彌立べしとて、家像の臣、石松又兵衞尙秀に云付、野中勘解由、嶺玄蕃を遣し、後室並菊姫を殺さしむ。一說に、氏貞の母に、山田の後室を讒せしもの有しを信じて、我が母子に害あらん事を恐れて、石松に云付て、野中、嶺をして殺さしむと云。天文廿一年三月廿三日の夜、勘解由、玄蕃、山田村後室の宅に行、先菊姫の局に忍び入。折節菊姫は今夜の月を拜まんとて、行水し、髮を洗ひて、後端近く出て居たりしを切ころす。十八とぞ聞えし。二人は夫より後室の居られし奧の間に走り行、後室を殺さんとせしが、さすが其氣色に恐れ、暫しためらふ。二人の者を白眼て、汝等科なき主人を殺す事、此恨汝等の子孫迄盡すまじ、我は女なれ共、汝等が手には懸るまじとて、守刀をぬきて自害せり。其たけき有樣、見る人恐ろしく、目をおどろかせり。後室に仕へし小少將、三日月、小夜と云し三人の女房も、なきかなしみ、二人に取つき、こぶしを以て打しを、三人共に皆さし殺す。花の尾と云局の女房、後室の刀を取て自害す。斯て母子の死骸を一に集め、宅の後の山の岩の下に同穴に埋む。其時死せし女房四人を、墓の側に埋む。其翌年、天文廿二年三月十八日、嶺玄蕃、鞍手郡蒲生田觀音に詣けるが、歸るさに女二人忽出來るを見れば、かの後室と花の尾の局なりしが、即時に消て見えず。玄蕃足ふるひ、手わなゝきけるが、やう〳〵にして歸り、苦しげなる息をつき、胸いたや、刀にて差通さるゝが如しと呼はりて、頓て死せり。是後室の祟をなせる初め也。其後玄蕃の妻子兄弟數人、同時に皆病を受て、玄蕃の如く成しが、同月廿三日迄に皆死失たり。或夜後室と花の尾の局夢に見えて、其憤りを述て、勘解由を責る事甚し。夢覺めて、大汗かひて、肢體なえて、翌日病におかされて死す。其後七日の內頓病にて七人死す。此後は諸人恐怖甚し。氏貞及其母恐れをなして、樣々に祈り祭りて、たゝりをまぬがれん事をこふ。永祿二年の春、氏貞の妹十三歲、俄に狂氣起りて、我は正氏の妻成りと云て、目をいからし、氣色おそろしくて、其母を責わたりて、我と我子を殺したることをいかりうらみ、母の咽にくひ付けるを、傍に在し者共、あまた立寄て引直す。其外後室にあだをなしたる家人共を責いかる。今日恨を報ぜんといかり責む。はたして其日多く頓死す。氏貞の妹狂亂止ずして死す。一說に、氏貞の妹名は菊と云。狂病いえて、元龜二年立花鑑連の室と成、立花の城に嫁す。氏貞の母のんどの疵はいえしが、後に他病を受て死せり。後室を殺せし評議に加りし家人共、追々に皆頓病を受て死す。氏貞恐れて、正氏の後室の靈を、田島の村中に社を立、氏八幡と號して祭る。又山田村增福院に後室母子の爲、祭田を寄附して香花を備ふ。彼あだをなせし者の子孫迄、其怨靈のたゝりやむ事なし。天正十四年、氏貞死去の後、氏貞の後室、其息女に祟あらん事を恐れ、正氏の後室、並息女及侍女四人を、地藏菩薩とあがめ、山田村の增福院に右六人の爲に、六體の地藏を安置し、又祭田を寄附す。小早川秀秋の時、增福院寄附の田地を皆沒收せらる。篤信昔年或人の求に依て、彼祭田の記をかきて與ふ。一說、正氏の後室及菊姫を殺せしは、石松又兵衞尙秀なりと云。是宗像社人及里民傳稱する所、及宗像記同追考の說也。去れ共石松が遠孫の家に傳ふる所、及自餘の說は石松尙秀には非ず、彼後室母子を殺せしは、野中、嶺兩人なりと云。石松又兵衞は永祿三年、名を但馬と改稱す。氏貞死去の後、剃髮して可久と云。其遠孫今猶多し。石松叛逆を行はゞ、其身及其子孫にたゝり有べきに、さなきを以て證とすべしといふ。石松尙秀宗像記追考に尙季とす。

〔筑前國續風土記附錄〕山田村

增福院　ハシノマヱ　禪宗洞家　佛堂六間ニ、入三間半

本編に出たり。妙見山と號す。田嶋村醫王院に屬せり。開山の僧を掌蘭と云。天文廿三年宗像大宮司氏貞開基せり。此寺もとは今の地より一段ひきゝ所にありしを、明和四年十一世の僧、牧禪其上なる地をひらきて、

新たに寺を造建す。正氏の後室（増福院と號す）及氏雄妻（春松院と號す）墓あり。傍に侍女四人の墓もあり。昔はイノウヱと言處にありしが、貞享元年こゝに改築せり。寺内に鎭守社（八幡、白山、妙見、相殿）　觀音堂（毘沙門、將軍地藏同座）あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕増福院

妙見山と號す。曹洞宗田島村醫王院の末寺也。其初は毘舍門天を安置して、増福庵といふ小庵也。院號に改し時代詳ならず。（宗像追考に増福寺とあり。又或説に氏貞の時、増福院と改められしよしいへども、共に誤なり。今同寺に藏する處の寄進狀、永祿年中また天正十六年の文書に、増福庵と見へたり。是を正とすべし。）

天文廿三年十一月大宮司氏貞、其嫡母正氏の夫人姉、同氏雄の夫人の怨靈を慰せんとて、此庵を營搆して、醫王院の二世掌藺和尚を招し、開山とし、兩靈の菩提所とせらる。永祿二年氏貞より田地貳町寄付有。此時の寄進狀坪付等證文三通有。寄進狀こゝに出す。

山田村內田地貳町　坪付別帋在之　事、妙秀妙安兩尊靈爲二日靈供料所一、奉二寄進一處也、仍日所作等無二怠慢一令二勤行一可レ被レ抽二懇志一之狀如レ件

永祿二年己未七月廿三日　　宗像朝臣氏貞判

増福庵

氏貞逝去の後、彼二女子の上にも、いかなる事か有べきとて、其夫人臼杵氏妙秀妙安兩靈及侍女四人を六地藏と祀り、六躰の地藏菩薩を新に彫刻し、此寺の本尊とす。この時鞍手郡山口村にて殺害せられし氏續の幼子千代松の靈をも、此寺にて吊ひ、三段の田地をよせ、地藏の供料田五段寄付、おの〳〵家臣連署の寄進狀あり。また兩夫人並に侍女の墓をも、今の地に改葬あり。昔は井上と云所に有しよし。其始は墓上に杉木有しが、枯折せしかば、貞享元年四月に今の石塔を建たり。正氏の室をば増福院殿榮林妙秀大姉、氏雄の室をば青松院殿心源妙安大姉と號す。侍女四人の墓も其傍に移して、花尾局を春窓良月と號し、小夜女を妙相貞順、三ケ月を清外智淨、小少將を智覺了性といふ。此寺始は今の堂の下一段低き處に在しを、牧禪といふ僧、明和四年の春、山を開きて新に造立す。其さき天和三年三月國君より山林三千坪御寄附有。什物に太刀一口（吉則作。長三尺七寸。建武中尊氏卿より大宮司氏續に賜ふ。）短刀一（長船久光作。長九寸半。大宮司氏雄所持のよし）短刀一（長船久光作。長七寸半。菊姫所持のよし）長刀一（無銘同上）扇繪歌卷物一軸（菊姫筆）歌人繪（菊姫筆）盃二（徑三寸一分。菊姫の所持）圓鏡一面（徑三寸、背に鶴龜松竹の紋有。遠賀郡吉木村隆守院主一山の母傳へて藏たりしが、或時三夜夢想の事有しとて、當寺に奉納せしといふ。）宗像家古證文九通、十六善神懸物一幅、（紺紙金泥土佐光信筆）祭田記一冊（貝原篤信撰、延寶年中舊臣の遠孫等胥議して當寺に祭田を寄て、其由緣を記したり。しかるに此緣起一卷　前の菊姫の所持有し品は、天文廿一年害にあはれし時、近郷の者ども亂入て、財寶悉く奪ひ取しよし、祭田記に見へたり。其後靈威に懼れて、此寺に持來り、罪咎を謝し寄納せり。又銅印一顆、朱字氏雄の二字有。雞冠紐也。寶永三年舊館址の畑中より穿出たり。體裏古雅也。當寺は無旦地なりといへども、靈驗ありとて、毎月廿四日には、この郡はいふに及ばず、近郡の男女詣來て、香火盛なり。特に三月廿三日四日は老少群聚して、晝夜寺にこもりて渴仰す。本堂の側に毘沙門有。（此像はむかし此寺の本尊なりしなるべし。）鎭守社有。

萬　福　寺

河東村大字稻元字中谷にあり。曹洞宗にして大穗村宗生寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　釋迦牟尼佛

由緒　慶長九年創立。宗像郡大穗村宗生寺宗蓮ト云フモノ開山也。

境内佛堂三宇

觀音堂　本尊　千手觀音大士　由緒　文政四年十二月建立

秋葉堂　本尊　秋葉三尺坊　由緒　寛政十二年酉二月創立

地藏堂　由緒不詳

〔筑前國續風土記附錄〕稻元村

萬福寺　ナガウラダニ　禪宗洞家、佛堂五間二間

秀光山と號す。大穗村宗生寺に屬せり。かの寺六世の僧宗蓮開基せりといふ。境内に地藏堂、觀音堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕萬福寺

秀光山と號す。禪宗洞家宗生寺の末寺也。中蒲といふ所に在。彼寺六世宗蓮といひし僧、開基す。寛永十七年庚辰に寂せり。

專　光　寺

河東村大字河東字本村にあり。淨土宗西山派にして光明寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀如來

由緒　不詳

〔筑前國續風土記附錄〕河東村

專光寺　ムラウチ　淨土宗西山派、佛堂四間四面

東岳山と號す。福岡淨念寺に屬せり、雲諦といへる僧開基す。

〔筑前國續風土記拾遺〕專光寺

東岳山と號す。淨土宗西山派福岡淨念寺に屬す。雲諦といふ僧開基せり。年代不詳。地内に地藏堂石佛有。

〔福岡縣地理全誌〕專光寺

本村ニアリ。東光山ト號ス　元ハ南見山ト云ヘリ。（○中略）雲諦ト云僧、寛文四年甲辰創建ス。寺地ニ地藏堂アリ。

東　照　院

池野村大字池田字木原にあり。淨土宗にして、京都智恩院末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀如來

由緒　不詳

〔筑前國續風土記附錄〕池田村

東照院　キワラ　淨土宗佛堂五間四間半

西光山大聖寺と號す。智恩院に屬せり。開基の年歴傳ふる事なし。

〔筑前國續風土記拾遺〕

東照院木原に在。西光山大聖寺と號す。淨土宗鎭西派知恩院の末寺也。開基の年歴詳ならす。喚鐘一口あり。元祿の頃、此山の銅を穿取しこと有。其時出たりし銅を以て鏡を鑄て寄進せしといふ。

淨光寺

神湊村大字江口字皐月にあり。淨土宗にして、中本山明圓寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　創立慶長十年八月。開基ハ筑前國宗像郡江口村辻野小衞門也。

境內佛堂二宇

大師堂　由緒　本尊ノ勸請ハ文化九年壬申三月、天保二年卯三月八拾八個ノ石佛ヲ勸請ス。

地藏堂　由緒　村民ノ信仰ニ因テ、天保六年未十月勸請ス。

〔筑前國續風土記附錄〕淨光寺

本村に在。清凉山接迎院と號す。淨土宗鎭西派那珂郡住吉村妙圓寺に屬す。寛永元年村民小右衞門と云者、開基の檀越として起立して、貞譽と云僧を開山とす。

〔筑前國續風土記拾遺〕江口村

淨光寺　マチウチ　淨土宗鎭西派　佛堂四間三間

清凉山と號す。寛永元年に開基す。那珂郡住吉村妙圓寺に屬せり。

隣船寺

神湊村大字神湊字上方にあり。臨濟宗にして大德寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　釋迦如來

由緒　不詳。占部越前守豐安ノ建立ト云。

〔筑前國續風土記附錄〕神湊村

隣船寺　マチウチ　本編に見ゆ　禪濟家佛堂六間五間

吞海山と號す。崇福寺に屬せり。寺內に觀音堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕隣船寺

吞海山と號す。禪宗濟家崇福寺の末寺也。此寺は永祿九年九月に宗像臣占部甲斐守尙安が開基也。法名は珍岳院琴溪宗音と云。元龜三年二月三日死　其妻宗像中務少輔氏繁の女。法名桂嶺院久林妙永と云。其子右馬助尙持建興院桂岩宗光と云。永祿四年八月十七日討死　永が位牌有。又占部院法岑道喜と書る牌有。名未詳。占部氏の祖なりと言。境內に觀音堂あり。

〔神湊浦記錄〕

永祿九年九月宗形之臣占部甲斐守尙安開基、法名珍岳院琴溪宗青と云。元龜三年二月三日死。其妻者宗形中

務少輔氏繁之女、法名桂嶺院久林妙永と云。其子右馬助尙持、建興院挂岩宗光と云。永祿四年八月十七日討死。又占部院法學道喜と書る位牌有り。

〔福岡縣地理全誌〕淨光寺

一說ニ慶長十年八月開山延壽創建ス。延壽ハ下西鄕村河津次郎氏澄カ次男ナリ。又元和九年共云。

醫　王　院

田嶋村大字田嶋字上殿にあり。曹洞宗にして山口縣吉敷郡泰雲寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　藥師如來

由緒　創立文龜元年正月開基、宗像大宮司氏雄也。

境內佛堂一宇

藥師堂　由緒不詳　字山下ヨリ移轉。

〔筑前國續風土記〕

育王院　田嶋に在。曹洞宗の寺也。開山龜陽和尙。其開基の年代しれず。本尊藥師也。昔大宮司より、寺產七町寄附せり。今は寺產なし。

〔筑前國續風土記附錄〕田島村

醫王院　ウエドノ、本編に出たり。曹洞宗、佛堂六間四間半

東方山と號す。防州佐波郡鳴瀧村泰雲寺に屬せり。寺傳に明應五年宗像大宮司氏佐開基せりといふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕醫王院

上殿といふ所にあり。曹洞宗なり。東方山と號す。此寺は明應五年大宮司七十二世氏佐の開基にして、防州佐婆鳴瀧村の泰雲寺の僧龜陽和尙を請して開山とす。今も彼寺に屬す。本尊は藥師佛也。脇壇に道元禪師像、越前永平寺の開山也　宗像氏佐の牌有。當院開基東光院殿雲龍宗嶽大居士と有。天正の比、宗像家より寺產七町施入あり。今は寺領なし。寺山貳千坪除地也。寺內に鎭守白山小祠、貴布禰祠あり。當郡內に末寺六箇寺あり。此寺十世全洞と云僧の時、堂宇悉く炎上して、一旦無住地と成けるか、其後五ケ年を經て、福岡金龍寺の察道、寬永十八年に再興して、今に至るといふ。

〔太宰管內志〕田島醫王院

（島隱漁唱上卷）に吾友大極老頃聞ニ藥誨於醫王禪翁一、去歲小春有レ書、是日偶得ニ飛廉之便一寄ニ是詩一、去歲小春書ニ一紙一、報言今夏坐ニ曜禪一、單傳葉薄不傳底、大極梅開無極先、龍帶レ雨來添ニ鉢水一、鳥啣レ花去避ニ茶烟一、有レ詩須レ付ニ南飛雁一、西塞山前碧海天、（宗像分限帳）に七町田島醫王院　醫王院在筑前宗方郡、極翁寓居也、軒名不傳　とあり。育王院は田島村にあり。曹洞派の禪宗なり。開山は龜陽和尙なりと云。時代詳かならず。本尊は藥師如來なり。天正の頃までは、寺產もありし趣なれども、今はつたはらす。大島の安昌院東寧山も、此寺の末院なり。山中にあり。北向なり。

醫王院境內佛堂藥師堂に就きて、筑前國續風土記拾遺に次の如く記せり。

〔筑前國續風土記拾遺〕田島村

藥師堂　山下といふ所に在。木像長一尺三寸、脇士十二神將長八寸、共に天正二年三月大宮司氏貞造立せらる。昔の像は行基の作なりしが、近代の亂に紛失せしかは、博多津宗藤左衞門重次といふ佛師に命して改造せしよし、像背に銘有。又今山と言所にも、藥師堂あり。

醫王院の末寺に山田增福院、大島村安昌院、大井秀圓寺、田熊建興院等あり。

興　聖　寺

田嶋村大字田嶋字本村にあり。臨濟宗にして大德寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　釋迦如來

由緒　開基卽山宗運禪師、正安三年正三位中納言淸氏卿ノ別館ヲ捨テ、營造シ、興聖護國寺ト號ス。寺領地方貳拾町ヲ寄附ス。天正十五年七月小早川隆景寺領三町ヲ寄附ス。後慶長二年沒收ス。

境內佛堂一宇　弘法堂　由緒不詳

〔筑前國續風土記〕興聖寺

田島に在。延慶元年開基せり。開山大應國師の弟子、卽山和尙也。宗像氏俊の時なり。氏俊より寺領を寄附せり。近代寺領は無し。門前に子院四つ有。此寺多々良顯孝寺抔と同列にて、當昔名刹のよしいへり。今崇福寺の末寺となる。

〔筑前國續風土記附錄〕田島村

興聖寺　ホンムラ　臨濟宗　佛堂六間三間

多福山と號す。崇福寺に屬せり。宗像大宮司淸氏より氏貞まで、七十九代の位牌あり。此寺いにしへは眞言宗なりしとそ。境內シラトウといふ所に、色定法師か墓あり。本篇に見えたり。又旗立の松周り一丈といふあり。其由詳ならす。

〔筑前國續風土記拾遺〕興聖寺

片脇に在。多福山と號す。延慶二年大宮司氏俊片脇の城中に建立あり。始は眞言宗にて寺產拾三町二反大を寄附あり。今は寺產なし。永祿十一年の秋、大友勢當郡に亂入して、所々放火せし時、當寺も烏有となれり。其後久しく廢址となりて有しを、卽山といふ僧再興して臨濟宗とし、橫岳山崇福寺の末寺となる。本尊は釋迦如來、脇侍藥師觀音の像有。又大宮司七十九世の碑有。鐘一口無銘高二尺五寸、周一丈、厚二寸　豐後兵亂入せし時、此鐘を土中に埋めり。其後此寺再興有し時、むかし此寺の奴僕也しものゝ子也とて、父の遺命と稱して、寺內に有し榎木の下より、此鐘を堀出せり。此時鐘と同しく振鈴一口を得たり。周りに興聖護國禪寺の六字あり。年號はなし。古物なり。昔は子院九ケ寺有。聯芳軒、心光軒、壽昌軒、妙惠院、慈禎菴、正則軒、隨泉軒、德本軒、聖照軒なり　今其址さたかならす。境內片脇城址に城頭といふ所、色定法師入定の地也といへとも、其所詳ならす。

〔寺記錄〕

一、先規宗像大宮司城山ニ尾辻七ヶ所有之、名兒山、或七ッ男、或肩脇之城、或片奧之城ト云。二ノ丸ニ延慶二

年ニ寺ヲ建、多福山興聖護國禪寺ト云。天正十四年四月六日氏貞大宮司死去、同十五亥年大宮司家斷絶ニ付、七ツ男廣野ニ成候。二ノ丸ニ興聖寺一宇殘リ、同年七月當國小早川隆景公御國ニ成リ、寺領三町御寄符。時之住持如梅座元、多福山開山卽山大和尙者、宗像五十代氏範之二男也。住持數代大宮司之一家也。如梅座元者大宮司士小樋對馬守秀盛二男ナリ。依之先城之境內不殘興聖寺境內ニ極ル。天正十五年ヨリ文祿四年迄八年、同五未年ヨリ慶長二酉ノ年迄三年、中納言秀秋公御領ニ成リ、此時寺領落ル。慶長三戌一ヶ年當國御公領ニ成ル。同四亥一ヶ年又秀秋公御領ニ成ル。同五子年ヨリ長政公御入國、御代々共ニ興聖寺境內古野無ニ相違一候。右七ツ男之內、白頭ヨリ辰巳ノ方間二十間程有レ之處、片脇山之辻寺分也。九十年以前百姓古野境論有レ之。時之御郡代毛利又左衞門殿下郡、石松彥右衞門、同又兵衞見分ニ而境極ル。此時寺分ト百姓古野境改ル。辻ヨリ下ノ段ニ少高キ處有リ。此處切割リ、灰埋置也。爲ニ後年一書付置者也。

寶永三年戊十一月十一日　　宗像忌子治部太夫
　　千辰花押

一、先規興聖寺境內ニ人ヲ不レ葬。寛永年中如翁座元以來人ヲ葬、近年改ル。

此寺に鎌倉時代の初期色定法師が書寫せし一筆一切經數千卷を藏す。これは元來宗像神社境內にありしものなれど、神佛分離の際、此寺に移せるなり。又色定法師の木像あり。

鎭國寺

田嶋村大字吉田字川端にあり。眞言宗御室派にして仁和寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　大日如來

由緒　開基弘法大師。中興後嵯峨天皇勅願宗像大宮司長氏建立。弘長年間入唐僧皇鑒阿闍梨ヲシテ住職セシメ、龜山天皇文永二年官符宣ヲ給フ。宗像氏水田十六町ヲ寄附ス。領內六十餘寺ノ總錄トシ、其後舊領主黑田官兵衞源忠之ヨリ、寺領山林等寄附ス。

境內佛堂三宇

太子堂　本尊　聖德太子　由緒不詳

大師堂　由緒不詳

不動堂　本尊　靈鷲窟不動明王　由緒　大同元年弘法大師彫刻。本佛堂ハ字川端九六八番地ニ安置セル岩窟不動石佛ナルニ因リ、從來ノ儘位置ヲ變ゼザルモ、寺院境內佛堂タラン事ヲ、大正六年六月二十二日許可ヲ得テ合併セリ。

〔筑前國續風土記〕

吉田村の鎭國寺は屏風山と號す。眞言宗也。田島の本社より山下の橋迄五町半、山下の橋より寺迄二町許有。龜山院弘長年中、僧皇鑒是を開基す。境地をば領主宗像大宮司長氏ほどこして堂舍を立、五社の本地の佛像を安置し、鎭護國家の道場とす。故に鎭國寺と云。皇鑒より仁秀法印迄廿八世にて、座主絶ぬ。其後山伏住す。慶安三年、昌傳と云僧來て住持す。山州仁和寺の末寺と成る。五社の本尊とは大日（宗像第一宮の本地）釋迦（第二宮の本地）藥師（第三宮の本地）此三佛弘法大師の作といふ。阿彌陀（許斐山權現の本地、是は佛師定朝が作と云。）觀音（織幡大明神の本地、是は傳敎大師の作と云）右の五

佛何も大成る木像也。其製作の精巧なる事、畿内諸州にも稀に有也。前國主忠之公、五佛の臺を五座作らしめて寄附し給ふ。此五佛鎭國寺の本尊也。凡本地垂跡と云るは、浮屠より云出る事にして、神道に云る事にあらず。聊其云傳ふる事の由を記すのみ。又此寺に太政官符有。文永二年と書り。且大宮司寄進狀一通有。金胎兩部の曼陀羅二幅有。唐筆にてうるはし。大般若經一部有。五佛堂には鰐口鉦鉢有。五佛堂は昔より國主の造修これ有。昔は此寺繁榮して、寺領も多く附たりといへ共、近代は寺領も絶て衰侍る。子院も多かりし迚、其跡多し。今は絶て花藏院と云一坊のみ殘れり云々。

〔筑前國續風土記附錄〕吉田村

鎭國寺　コウラ　眞言宗　佛堂三間四面

本編に詳なり。此寺に　光之公より山林八千七百五十坪を賜はる有司の券文を藏めり。

〔筑前國續風土記拾遺〕鎭國寺付彌陀石像

屏風山と號す。眞言宗也。仁和寺に屬す。開基の僧を皇鑒といふ。宗像卅八世の大宮司長氏、此寺を創立して、五社の本地佛を安置し、寺領を寄附有。其狀曰（此寄附狀及官符宣補任狀等、むかしは鎭國寺に在しといふ。今は傳はらず。宗像記に出たるを今玆に書のす。）

寄進宗像大菩薩鎭國寺領事

四至　東限水垂頭山　南限落水谷　西限福田河流　北限大道

右寺者、峯周八葉蓮、山似三鈷形、坤號屏風嶽、爲當神之伊牆、巽稱靑龍、伏現祐之瑞相也、就中第一宮者、大日遍照之垂跡也、專可建三密瑜伽之道場、寺內山亦八葉三古之地形也、實可謂眞言流布靈所、本地垂跡所令相應也、仍安置諸尊、集會兩界曼陀羅、攝在諸堂尊像、於此中所定置當社領物寺也、面面給主等、各各可崇重矣、然時則於此寺領者、永禁斷殺生、不可伐採草木、至未來際、可爲萬免不輸地、且以皇鑒聖人爲長老、可令門弟相承給也者、公家武家、可被致現當御祈禱之狀如件、

弘長三年三月十五日　　大宮司宗像朝臣判

かくて長氏朝廷に請て定額寺とし、長く殺生禁斷の地とす。此時太政官符を太宰府に下されける。其文曰

太政官符　太宰府

應爲禁斷殺生地、令興行密宗管筑前國宗像宮屏風嶽鎭國寺領四至內事

右得彼寺住侶皇鑒、去三月二日奏狀�偶、謹考舊貫、玄宗代宗之眞言也、移歸依於我朝全知之傳密印也、託付屬於此土三密瑜伽之教法、日本尤有緣者乎、皇鑒拋芥雞而出二親之家、鞭竹馬而入三寶之道、以降、受鍊塔之流魂、窺性德圖海之底、蘊金薩之道泰學現證菩提之跡、然間斗藪之次、巡禮當山之處、峯分八山、葉聳三鈷、後則翠松森々、瑜伽振鈴之響、和曉風、前亦蒼波漫々、心地寫瓶之水、浮夕月、就中當宮第一太神宮者、本地大日遍照之垂跡也、佛陀與地形已相應者歟、爰領主大宮司長氏、粗聞宿願由來、被寄當所於法地、彼狀儞、東限水垂谷頭、南限落水流末、西限福田河、北限大道、於此四至內者、永可令禁斷殺生也、且建立兩寺之堂舍、且安置五社之本地、爲鎭護國家之道場、致公家武家之御祈禱、可令興行於密宗云云、所謂大日釋迦藥師彌陀觀音也、此內許斐熊野權現之本地彌陀如來者、定朝佛師之自作、鐘崎織幡明神本地如意輪觀音者、傳敎大師之御作、加之石躰等身不動者、安置靈鷲崛、是又古佛靈像

也、云レ彼云レ此、可レ謂ニ殊勝一、因レ茲皇鑒集ニ雲水一、談ニ秘傳一、或靈鷲堂長日不動供、或者本堂兩界供養法、其外行法有レ勤無レ懈、委旨載ニ繪圖幷註文一畢、望請早任ニ長氏寄進之狀一、永爲ニ禁斷殺生之地一、可レ令レ興ニ行密宗一之由、被レ下ニ宣旨一者、十方檀那致ニ信心一、一寺禪侶全行レ法矣、本地垂跡定有ニ感應一、現當御願令ニ圓滿一者哉者、從二位權中納言兼中官權大夫藤原朝臣隆顯宣、奉レ勅依レ請者也、府宜承知、依レ宣行符致奉行

右少辨正五位下藤原朝臣判

文永二年八月九日　　修理東大寺大佛長官　正五位上行兼豐前守小槻宿禰判

かくて文永五年に長氏大宮司を辭して、其息氏盛、當職に補せらる。因て氏盛より鎭國寺院主職を開山皇鑒に下し行はる。其狀曰（此補任狀に因て考れば、鎭國寺代々の院主は、大宮司より補任せられし事知るべし。）

宗像宮下

補ニ任院主職一事

鎭國寺

阿闍梨皇鑒

右當寺者、親父禪門之本願也、依被レ申ニ下符一畢、以ニ皇鑒阿闍梨一補ニ院主一、爲門弟相傳職、可レ令レ勤ニ修長日不退之行法一、至ニ于未來際一不レ可レ有ニ牢籠一矣者、寺僧宜承知、勿ニ違失一、故下

文永三年二月八日　　大宮司宗像朝臣判

此五佛の像、奇工なる事は本編に見へたる如し。此内大日釋迦藥師の像は、弘法大師の作のよし。今寺家にいひ傳ふれとも、既に開山の申文に、彌陀觀音の作者を擧て、上の三佛の作者をいはされは、古より作者はしれさること丶知へし。後世の人漫に碩德の僧に託して、造言すること多し。信すへからす。かくて此寺世々香華盛にして、子院も六區（實相院、華藏院、妙觀院、圓塔院、山之坊、般若院。）ありしが、永祿十年十月廿五日大友勢郡内を亂妨せし時、放火して悉く灰燼となる。今は華藏院一坊殘れり。此時五佛堂も燒拂ひけるが、當村の柳といふ所に、柳新左衞門といふ者あり。かけつけて五智の佛像を取出し、前なる泉水の内に投入て隱しける故、五躰の佛像は、災に罹らす殘りける。氏貞新左衞門の働を感し、其名を民部左衞門と改め名つけて、賞書を與へらる。（此狀今猶上牟田尻村農家にあり。〇中編三四三頁參照）折しも亂世の事なれば、再興の沙汰に及ばす。藥の假屋を窟の邊にかまへ、竹棚を作りて、五佛を安置しける。子院も此時より減けるか、いく程なく宗像家も斷絶し、寺領もなくなりて、無住寺となり、文祿の初より山伏住して、香爐を供しける。其後高野山廻向院より、昌傳と云僧下りて在しか、慶安三年再興せんことを請ふ。高樹公聞しめされ、五佛堂幷不動の拜殿をあらたに建立し給ひしが、其後江龍公山林八千七百五拾坪を寄附し給ふ。又むかしより金胎兩部曼荼羅二幅有。（唐畫なり）また氏貞の寄進の鰐口あり。銘に元龜二年癸酉大呂吉日とあり。

佛堂、不動堂に關する文獻

〔筑前國續風土記〕岩窟不動

鎭國寺の二町奥、山の傍に石窟有。其中に石體の不動有。其長さ三尺六寸有。何の時より開侍るにや詳ならす。岩に文字を刻めり。古くして見えず。今も遠近の人詣て來る者多し。正月廿八日、六月廿八日の祭には、參詣する人甚多し。商人四方より來りつどひ、市をなし侍る。是又吉田村の境内也。田島に近き故、誤りて

田島の不動と云。是鎮國寺の本尊にはあらず。

〔筑前國續風土記附錄〕吉田村

岩窟不動　本編に詳也　コウラ　フドウダニトモ云

窟の口横一間、高三尺餘、入八尺、奥高五尺有。里民の云。不動の石體は弘法大師の作にして、大同元年に安置せりとそ。窟中は闇し。正月廿八日六月廿八日法會あり。遠近の人詣て來るもの多し。

〔筑前國續風土記拾遺〕吉田村

岩窟不動は五佛堂の南二町山中にあり。老樹繁茂して、閑寂の地なり。窟口は東に向へり。四方大石を疊めり。内に石體の不動の立像有。唯人の作といふ事を知らす。今寺家には弘法の作といへとも、其證なし。上に引たる開山皇鑒の申狀にも、古佛の靈像有とのみいへり。此不動は當寺の開基以前より有。後に鎮國寺建立有し時に、境内には入しなるへし。故に當寺の本尊にはあらす。窟の二方の大石に、弘長三年癸亥六月十二日皇鑒請雨經を轉讀せしよしを彫たり。天井の石に梵字にて兩界曼荼羅を刻たりといふ。今は剝して文字分明ならす。窟の側に乙護法有。五佛堂の側に松尾神社あり。

泉　福　寺

岬村大字鐘崎字千代川にあり。淨土宗西山派にして、京都府光明寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　開基ハ法然上人ノ門人幸阿彌陀佛也。創立不詳。二世音阿彌陀佛以降三百數十年退轉ニ及ベリ。三世團空、元和年中ニ再興ス。爾來大長寺ノ末寺トナル。昔ハ天草寺ト稱ス。現今上八村ノ畑ニ天草寺ト云字ハ、該寺ノ舊跡ト古老云傳フ。

〔筑前國續風土記附錄〕鐘崎村

泉福寺　チョガワ　淨土宗西山派　佛堂七間六間

上報山龍園院と號す。福岡大長寺に屬せり。始は上八村市場といふ處にあり。洛ノ西山光明寺第三世幸阿上人、貞永年中下向の時、此寺にしはらく錫をとゝめ、念佛說法ありしとそ。元和年中大長寺第二世團空長徹、此所に移せり。寺内に鎮守辨才天堂、觀音堂あり。寛文十二年吉田六郎太夫知年、同氏七左衞門貞澄寄進の鐘あり。海中の鐘に擬せるとそ。精工なり。唐僧卽非銘を書けり。委に寫す。

筑前宗像郡距城之北越百里、間有山、名影向、所名鐘崎、原其所由、昔有巨鐘、沉此海滸、横磯截渡、不利舟楫、鄕人患之、合擧不起、且擧必得殃、知下有龍鬼、司護待時而然、因是不敢復動、識者僉議、再範銅鐘、建樓崎步、使人時時扣擊、於陰雨晦冥風潮浩蕩之際、令津渡彼岸者、聞聲知所趨向、則不墮前轍、功德之大、應與鐘聲揚溢俱無盡矣、乙巳仲秋朔日上方山泉福寺寺主照空、特來請銘、爲之銘

像郡之北、名曰鐘崎、昔有巨鐘、忽沉水涓、年深月遠、龍鬼護特、民莫皆觸、況敢動移、識者合議、珍重鐘崎、再範大器、聲應嵩師、從昏暗中、如母得兒、默守斯要、發宣以時、返聞無性、圓證刻期、天人獲福、永壽贊詞、臨濟正傳第三十三世

廣壽山福聚禪寺嗣
祖沙門如一卽非撰

〔筑前國續風土記拾遺〕泉福寺

千代川に在。上報山龍圓院と號す。淨土宗西山派福岡大長寺に屬す。始は上八村市場と云所に在。昔洛の西山光明寺第三世、貞永年中下向の時、此寺に暫く錫を留め、念佛說法有しといふ。元和年中大長寺第二世團空長徹、此所に移せり。寬文十二年吉田知年其子貞澄寄進の鐘あり。明國の僧卽非銘を撰す。

承　福　寺

岬村大字上八字坂にあり。臨濟宗にして、大德寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　釋迦文佛

由緒　當寺開基ハ宗像大宮司氏國ノ長臣占部越前守安延、應安六年癸丑三月建立ス。寺領田畑十町八反寄附、正續大祖宗光禪師ヲ開山トス。年ヲ歷テ當寺モ衰微、黑田如水廻郡ノ節、田地壹段三畝寺領トシテ與フ。

境內佛堂一宇

觀音堂　本尊　如意輪大士　由緒　座像ニシテ、行基菩薩ノ作ナリ。縣內二十番ノ札所ニシテ、安產ヲ守ル事他ニコトナリ。昔宗像ノ領主堂宇建立、佛體ヲ安置ス。

〔筑前國續風土記〕上八村　承福寺

上八の訓いぶかし。若は上入と書しを、あやまりて八の字かくにや。

山號安延山、開山月潭、或は號月菴。此寺に大宮司の墓五六有。氏貞をも此寺に葬る。今も墓有。土民は此墓所を御塔と云。氏貞の影像並位牌有。氏貞を卽心院と號す。又此寺に兒殿の墓と土民の稱する墓有。氏貞の子を葬りしと云。此寺に如水公より田地を寄附し給ふ。今にしかり。又如水公より此寺の後の山林を寄附し給ふ證文有。故に其後代々の國主も、證文をあたへ給ふ。此寺佳境也。

〔筑前國續風土記附錄〕上八村

承福寺　ムラウチ　禪宗佛堂六間三間

安延山と號す。本編に出たり。崇福寺に屬せり。境地に宗像家の古墓有。此寺に　如水公より賜りたる文書數通あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕承福寺

安延山と號す。本編にも見えたり　禪宗濟下橫岳山崇福寺に屬す。文明二年三月宗像家臣占部越前守安延創立す。開山の僧月潭は安延か第四子也。安延は同十年六月十八日に沒す。承福寺慶岩宗快といふ。墓は寺の西二町計岡の上に在。其邊を門前と云。宗像大宮司氏貞　天正十四年三月四日に卒す。即心院一以鼎恕と謚す。文十六年七月卒。隆尙庵尖甫道祥　氏雄墓、占部八郎墓等有。村民等此所を御塔といふ。黑川形部少輔正氏　大宮司七十七世實は氏貞の父也。天寺內に觀音堂あり。そのかみ此寺に如水公より田地を寄附し給ひしかと、今は寺產なし。其時養心翁より與へられし書あり。

承福寺讃藏主内作之内を以、壹段三畝分、米壹石六斗九升從ニ如水様一爲ニ寺領一被レ遣候條、右之田毎年勘定之内、引可レ被レ申候、但田之あさな寺の前小田之尻にて候也。

慶長六年十一月二日　　養心花押

入江宗遊老

又高樹公より賜る御書有。曰

已上

如ニ先年一承福寺うら山丼藪其方に預け置候間、用木被ニ立置一、下刈之儀、藪之中之木又は古竹なとは、きり候ても、寺之續候やうに可レ仕候也

元和九年十月廿七日　　忠之御判

宗像郡承福寺

又如水公、興雲公の御画像有。如水公の贊は青木如清か請に因て、妙心寺の宗疇和尚書り。興雲公の贊は高政君の求に因て、江月書り。又氏貞の影像有。

〔福岡縣地理全誌〕承福寺

村ノ東南二町門前ニアリ。安延山ト號ス。禪宗濟下中本山那珂郡堅粕村崇福寺ニ屬ス。文明二年庚寅三月寺説ニ或ハ應安六年癸丑ト云ルハ誤ナリ占部越前守安延創立ス。開基ノ僧月潭或月庵共安延カ第四子ナリ。宗像分限帳ニ十町上八村承福寺トアリ。大宮司氏貞菩提所ナリ。仙巣稿ニ筑前州居住大功德主宗像朝臣氏貞大宮司、今茲、元龜第二曆龍集辛未秋七月十又五日、恭臨皇考隆尙庵殿尖甫祥公大居士、廿五年遠諱之期、預於夏四月廿又九日、就于承福禪寺、施淨財、設盛膳、酬罔極、玆命隆尙庵主玄蘇、焚這枯柏枝云々トカケルモ、此寺ニテノ事ナリ。氏貞ノ形像及ヒ黑田如水長政父子ノ画像アリ。如水像ノ贊ハ妙心寺宗疇和尚書、長政ノ贊ハ大德寺江月和尚ナリ。如水ヨリ慶長六年辛丑、寺領田地一反三畝、米一石六斗九升寄與セラル。元和九年癸亥黑田忠之ヨリモ藪坪ヲ與ラル。寺地ニ如意輪觀音堂アリ。座像四尺餘、聖德太子作ト云。當國巡禮第二十番ノ地ナリ。

西光寺

岬村大字地島字泊りにあり。淨土宗にして、博多一行寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　開基空阿上人創建。應永元年也。再建文政八酉年。

〔筑前國續風土記附錄〕地島村

西光寺　フルミチノウエ　淨土宗鎭西派　佛堂五間四間

海雲山と號す。博多一行寺に屬せり。開山を滿譽覺阿といふ。開基の年歴しれす。

〔筑前國續風土記拾遺〕西光寺

海雲山と號す。淨土宗鎭西派博多一行寺に屬す。明德年中滿譽と云僧開基せり。文化初年炎上して、今はか

すかなる庵室なり。

此寺文化三年再建、明治四十三年五月火災、大正元年再建。此寺に孝女こや墓あり。

寶　積　寺

東郷村大字田熊字上ノ畑にあり。淨土宗西山派にして光明寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀如來

由緒　享和三亥年八月建設。追々大破、且境内等狹隘ニ付、明治十五年七月廿一日移轉再建許可。

境内佛堂一宇

觀音堂　本尊　觀世音菩薩、大日如來、藥師如來、地藏菩薩、不動明王　由緒不詳。祭日　七月十八日、六月廿八日、八月八日、七月廿四日

〔筑前國續風土記附錄〕田熊村

寶積寺　ナカヲ　淨土宗西山派　佛堂二間半三間半

常光山と號す。福岡淨念寺に屬せり。開基の年歷詳ならす。寺内に觀音堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕寶積寺

中尾に在。常光山と號す。淨土宗西山派福岡淨念寺の末寺也。開基の年歷詳ならす。

久　昌　院

東郷村大字田熊字日明にあり。曹洞宗にして田島醫王院末なり。

〔寺院帳〕

本尊　藥師如來

由緒　宗像元祖正三位中納言清氏ヨリ五十二世之孫氏俊正應三庚寅年創立。

境内佛堂一宇

大師堂　本尊　十三佛　由緒　古ヨリ古老不死之水出來ルト云。

〔福岡縣地理全誌〕久昌院

平井ノ内、日明ニアリ。東光山ト號ス。禪宗洞家小本山田島村醫王院末ナリ。開基ハ同院三世玉巖ナリ。古へ此村ノ高野ト云所ニ、建高院トテ眞言寺アリシニ、廢セシカハ、永祿年中占部甲斐守尙安、其子右馬介尙持カ爲ニ再建シテ、冥福ヲ修ム。尙持カ法名ヲ取テ、建興院ト號ス。一說ニハ醫王院八世殊見元龜二年創立ト云。明治四年辛未大島村廢寺ノ名ヲ移シテ、久昌院ト改ム。本尊ハ藥師佛ナリ。

〔筑前國續風土記附錄〕田熊村

建興院　ヒヤケ　禪宗洞家　佛堂二間半四間

東光山と號す。醫王院に屬せり。往昔建高院とて、眞言宗の寺有しが、廢絕したりしを、永祿年中占部甲斐守尙安再興し、禪宗に改め、其子右馬助尙持か冥福を助く。且大宮司家に忠死せし兵士の追福をもなしけり。寺内に不老水　井幹經二尺五寸餘　といふあり。水湧出して淸潔なり。

〔筑前國續風土記拾遺〕建興寺

日明に在。東光山と號す。禪洞家田島村醫王院に屬す。開山は同山の三世玉巖なり。むかしは建高院とて、眞言寺有。廢せしかば、永祿年中占部甲斐尙安、其子右馬介尙持の爲に再建し、尙持が法名を取て、建興院と改む。本尊は藥師佛なり。寺內に淸水有。日明水とも、不老水ともいふ　平井の名、是に起るといふ。

妙　經　寺

東鄕村大字田熊字尻太にあり。日蓮宗にして千葉縣安房郡小湊村誕生寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　釋迦牟尼佛

由緒　明治十三年五月創立

專　修　寺

東鄕村大字東鄕字古屋敷にあり。淨土宗西山派にして京都府光明寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀如來

由緒　創立ハ文祿元年辰十月創建。本尊鞍手郡ナビキ村燒失ノ砌、飛來ルト古老云傳。

境內佛堂一宇

藥師堂　由緒不詳

〔筑前國續風土記附錄〕東鄕村

專修寺　シモ　淨土宗鎭西佛堂三間半三間

西向山と號す。福岡淨念寺に屬せり。天正元年專阿彌といふ僧開基せり。本尊彌陀佛は行基の作といふ。寺內に稻荷小祠あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕專修寺

西光山と號す。淨土宗西山派也。福岡淨念寺末寺。天正年中專阿彌といふ僧、開基すといふ。寺內に稻荷社、藥師堂あり。

西　敎　寺

東鄕村大字東鄕字裏町にあり。眞宗本願寺派にして、本願寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　不詳

〔筑前國續風土記附錄〕東鄕村

西敎寺　カワラケヤシキ　眞宗西佛堂三間二間

天女山と號す。本願寺に屬せり。寬永十八年八月良如上人より寺號木佛を授らる。寺內に辨財天堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕西敎寺

眞宗西本願寺に屬す。慶長十九年專順といふ僧建立し、寬永十八年八月木佛寺號を許さる。寺內に辨才天堂

有。此辨財天は此所の地主なりと云。

延　樂　寺

東郷村大字東郷字古賀にあり。眞宗本願寺派にして、本願寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀如來

由緒　開基水心ト云。創立ハ用念。寛永十七年正月廿九日ナリ。再建ハ天保九年也。

〔筑前國續風土記附錄〕東郷村

延樂寺　ムラマエ　眞宗西佛堂四間半五間

江龍山と號す。本願寺に屬せり。寛永十七年正月良如上人より寺號木佛を免さる。

〔筑前國續風土記拾遺〕延樂寺

眞宗西本願寺に屬す。天正二年水心といふ僧、はじめて建立す。寛永十七年正月寺號木佛を許さると云。

覺　王　寺

東郷村大字久原字寺ノ辻にあり。曹洞宗にして大穗宗生寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　觀世音佛

由緒　不詳。元龜元年宗像郡大穗村宗生寺三世存異和尚再興ス。

境内佛堂五宇

大日堂　由緒不詳

大師堂　由緒不詳

虛空藏堂　由緒不詳

地藏堂　本尊　地藏尊大師、虛空藏菩薩　由緒不詳。志戸外二ケ所ヨリ移轉ノ上三佛合併。

大日堂　由緒不詳。字寺ノ辻ヨリ移轉ス。

〔筑前國續風土記附錄〕久原村

覺王寺　ババシャウシ　禪宗洞家佛堂二間二間半

金剛山と號す。宗生寺に屬せり。開基の年歷詳ならす。寺内に大日堂あり。秘佛といふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕覺王寺

金剛山といふ。禪宗洞家宗生寺の末也。本尊は觀音也。境内に大日堂有。木像長貳尺五寸。古佛也。弘法大師の作と云

此寺は大宮司氏佐、氏雄等の夫人の牌を安置せし所なりしよし。今はこれらの牌、當寺になし。

〔福岡縣地理全誌〕覺王寺

宗生寺四世榮昌ヲ開山トス。文祿元年十一月十六日寂ス。（下略）

〔太宰管内志〕覺王寺

（宗像分限帳）に一町久原覺王寺とあり。昔は眞言宗なりしと云。今も久原村川崎と云處にあり。禪曹洞宗

金剛山覺王寺なり。昔の本尊大日如來は、座像にして、高三尺計、空海の作なりと云。脇立も古し。此佛は別に小堂ありて、是を入る。今の本堂にある本尊は十一面觀音なり。本堂南向、横四間入二間半、庫裡共にあり。今に寺地田五段許、畠一町許あり。宗像の菊姫并母公位牌あり。住僧あり。

秀　圓　寺

東郷村大字大井字犬方にあり。曹洞宗にして田島醫王院末なり。

〔寺院帳〕

本尊　觀世音菩薩

由緒　文祿二年春正月宗像郡田島村醫王院大川隼徹ノ開基ナリ。

境内佛堂三宇

彌勒堂　由緒不詳

不動明王堂　本尊　不動明王菩薩、地藏菩薩　由緒不詳

佛堂　本尊　大日如來、觀音菩薩、弘法大師　由緒　天下太平五穀豐饒ノ爲メ、萬民快樂ノ結緣トシテ、當寺現住ナル已謙苗代、文政二年五月右ノ三尊ヲ安置サレタリト。

〔筑前國續風土記附錄〕大井村

秀圓寺　ケイリキ　禪宗洞家佛堂四間三間半

普門山と號す。醫王院に屬せり。元和元年に日州といふ僧開基せりといふ。寺内に觀音堂あり。佛像は行基の作といふ。不動六地藏の石佛あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕秀圓寺

普門山と號す。禪宗洞家田島村醫王院に屬す。元和二年丙辰八月日州朔天といふ僧開基す。寺内に觀音堂正觀音の像、古佛也、あり。

釋　迦　院

東郷村大字大井字前にあり。曹洞宗にして福岡安國寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　釋迦牟尼如來

由緒　不詳。往昔天台宗ナリ。明暦元年禪宗曹洞派トナレリ。

境内佛堂一宇

地藏堂　由緒不詳。宇宮浦ヨリ移轉ス。

〔筑前國續風土記附錄〕大井村

釋迦院　ヲダケ　禪宗洞家佛堂四間三間半

釋迦院村にあり。尊勝山と號す。福岡安國寺に屬せり。城州淀の城府宗英寺三世鎭州堯宅といふ僧、此地に來り、寛文年中當寺を開基せりとそ。

〔筑前國續風土記拾遺〕釋伽院

釋伽院村に在。尊勝山と號す。禪宗洞家安國寺の末寺也。寛文年中に鎭州堯宅といふ僧開基す。

延　壽　寺

宮田村大字朝町字井上にあり。曹洞宗にして大穂宗生寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　釋迦牟尼佛

由緒　該村ノ信徒井上長次郎ナル者、宗像郡大穂村宗生寺三世更山存異和尚ヲ請シテ、以テ天正五年三月十日開創ス。

境内佛堂二宇

觀音堂　本尊　十一面觀世音菩薩　由緒不詳

大師堂　由緒不詳

〔筑前國續風土記附錄〕朝町村

延壽寺　イノウエ　禪宗洞家　佛堂五間三間

長禪山と號す。大穂村宗生寺に屬せり。開基の僧を存異といふ。本尊阿彌陀佛は聖德太子の作なりとそ。寺内に觀音堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕延壽寺

井上に在。長禪山と號す。禪宗洞家大穂村宗生寺に屬す。宗像宮古文書中に弘安の頃、朝町村延壽寺と見へたり。〇中編一九八頁二〇二頁參照　古刹なり。兵亂に斷絶せしを、更山存異と云僧再興せり。是中興の開山なり。存異は宗生寺三世中興の僧にて、天正五年に寂せしよし、寺記に見ゆ　本尊の阿彌陀佛は、聖德太子の作也といふはいふかし。寺内に觀音堂あり。

雲　乘　寺

宮田村大字朝町字中村にあり。眞宗本願寺派にして、本願寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀如來

由緒　不詳

〔筑前國續風土記附錄〕朝町村

雲乘寺　ナカムラ　眞宗西佛堂四間五間

日晝山と號す。本願寺に屬せり。寛文二年十二月木佛寺號を許さる。

〔筑前國續風土記拾遺〕雲乘寺

中村といふ所に在。眞宗西本願寺に屬す。開基を養頓と云。寛文二年に木佛寺號を許さる。

淨　德　寺

宮田村大字光岡字田久保にあり。眞宗本願寺派にして、本願寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　筑後國甲斐田庄副田氏、初副田右近、筑前ニ來テ阿曾重眞ニ奉仕シテ、同國鞍手郡六嶽華立城ニ住ス。

而シテ同郡新入村其他ニテ田畑貳百町ヲ知行ス。後チ故アリテ剃髪シテ休意ト號シ、遂ニ當寺創立ス。

〔筑前國續風土記附錄〕光岡村

淨德寺　ハタケナカ　眞宗西、佛堂五間半四面

峯光山と號す。本願寺に屬せり。寛文十年寂如上人より慶圓といふ僧に、寺號木佛を授けらる。寺內に地藏堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕淨德寺

眞宗西本願寺に屬す。畠中といふ處にあり。寛文十年寂如上人より木佛寺號を許可有けると云。寺內地藏堂あり。

西　福　寺

南郷村大字野坂字西浦にあり。淨土宗鎭西派にして、福岡市住吉妙圓寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　不詳。創立天正二甲戌三月廿五日岌引和尙開筵。

境內佛堂一宇

阿彌陀堂　本尊　阿彌陀如來、觀世音　由緒不詳。同村字塚ノ元外二ケ所ヨリ移轉合併。

〔筑前國續風土記附錄〕野坂村

西福寺　ヒロムチ　淨土宗鎭西派佛堂六間四間

井上山功德院と號す。那珂郡住吉村妙圓寺に屬せり。開基の年歷詳ならず。此寺に　如水公より賜る文書あり。玆に寫しぬ。

爲音信串柿一蓮梅干六十しやうか一鉢被指越祝着候也

卯月九日　御書判　　西福寺へ

猶々竹を能はやし可申候

此時の住僧しろしめされたる事有しなるへし。

〔筑前國續風土記拾遺〕西福寺

廣宗に在。井上山功德院と號す。淨土宗鎭西派那珂郡住吉村妙圓寺に屬す。天正の頃、接譽といふ僧開基す。接譽の弟子に隨波といふ僧有。後江戸に在て、增上寺に住持たり。此人の書簡幷袈裟等を當寺に藏す。猶隨波上人の事蹟は、緇徒傳に詳なれは、爰に略す。此寺に如水公の御書あり。

正　覺　寺

野坂村大字大穗字東にあり。眞宗本願寺派にして、本願寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　創立不詳。中頃及二廢寺一處、元祿十四年巳春、俊應ト云僧再興スト云。

境內佛堂一宇

大師堂　由緒不詳。

〔筑前國續風土記附錄〕大穗村

正覺寺　マチウチ　眞宗西佛堂方三間

博多万行寺門徒也。元祿十四年春應といふ僧建立せり。

〔筑前國續風土記拾遺〕正覺寺

眞宗西博多万行寺末寺也。元祿十四辛巳年春應といふ僧、建基せり。

宗　生　寺

野坂村大字大穗字湯園にあり。曹洞宗にして山口縣吉敷郡泰雲寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　釋迦牟尼佛

由緒　創立永正元年甲子正月十五日許斐城主多賀民部少輔隆忠、爲二亡父一追孝建立。

〔筑前國續風土記〕大穗村

崇聖寺は偏鄙にては珍敷好寺也。佛堂奇麗也。禪寺也。此寺は許斐の城主、多賀出雲守一說民部丞澄忠、天文年中に創立す。寺の後に小早川隆景の墓有。隆景は安藝國沼田に葬る。爰には其時の住持、其人をしたひて、印を殘せる成べし。

〔筑前國續風土記附錄〕大穗村

宗生寺　本編に詳也。古へは崇聖とかけり。いつの比より、あらためしにや　松岩山と號す。防州鳴瀧村泰雲寺に屬せり。寺後に小早川中納言隆景公の假墓　隆景公は慶長二年備後三原に薨し給ふ。黃梅院泰雲紹閑居士と號す。毛利輝元公の叔父にして、英武の良將也。歿後冥福を助んため、七所に葬れり。其內五所は防長藝備四州にあり。此寺と洛北大德寺中黃梅院とすべて七所也。　及殉死四人　乾忠宗哲、融峯功祝、苗家本秀、徹叟本通と鬼錄に見ゆ。藝州沼田駒山寺に殉死なし。いぶかし。　の墓もあり。姓名傳へす。慶長十五年長政公より、墳墓洒掃の丁役十二人を附せらる。今にしかり。又万治三年　忠之公より山林三千六百坪を寄附し給へり。境內に宗像大宮司家士許斐左馬太夫が墓あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕大穗村

宗生寺　本編には崇聖寺とす

松巖山と號す。禪宗洞家防州鳴瀧村泰雲寺末院也。鬼簿に當寺開基源嶺宗高居士、許斐城主多賀出雲守隆忠許斐城主は占部氏なり。然れども此時は大內家より城衆とて、一城に數人の城代を置し事あれば、多賀も其一人なりしにや。隆忠は或記に弘治三年七月死亡の由見えたり。　供奉芳菴淨春信士、一桂宗淸信士　此二人供奉とあるは、隆忠に從ひて死せし者にや。　心叟隆忠居士、己巳十二月十三日許斐左馬太夫氏備　氏備天正中の書にもあれば己巳は寬永六年なり。越州大守安叟寂心庵主戊辰六月廿四日若宮大村殿等あり。又境內に高林院宗仙大居士、永祿三庚申十月十日許斐三河守氏任と表せる墓あり。此外古墓有。又其上に小早川隆景卿の假墓　隆景卿は慶長二年備後國三原にて卒す。黃梅院泰雲紹閑居士と號す。本編に詳なり。及殉死四人　鬼簿に乾忠宗哲融峯功祝苗家本秀徹叟本通とのみ見えて姓名傳はらず。　の墓も有。慶長十五年興雲公より墳墓洒掃の丁役十二人を附らる。今に然り。又萬治三年高樹公より山林三千六百坪を寄附し給へり。

此寺の末寺郡内にては稻元万福寺、久原覺王寺、朝町延壽寺、八並普恩寺、郡外にては鞍手郡山口圓通院、湯原東禪寺あり。

〔宗生寺記錄〕

宗像郡大穗村宗生寺由來書之古文

一松岩山宗生禪寺は周防國鳴瀧月光山泰雲寺末寺也。宗生開山器庵祐才和尙、開基多賀民部少輔殿也。

一高五拾石御公役御赦免之事

隆景公兼而爲二御菩提一知行百石被二付置一候。於二三原一御逝去之節、御遺骨宗生寺二納申樣二御遺言有レ之故、境內之峯頂二奉レ納。九尺四方之石壇、其上二御石塔有レ之。并追腹四人之墓御座候。宗生寺田畠高五拾石所持仕候間、御對靈墓二御公役御赦免被二仰付一候樣二奉レ願候處、達二御耳二一、願之通二被二仰付一候。尤吉田三郎兵衞殿、毛利又左衞門殿手狀證據御座候。則左之通寫指上候。

手紙御證據之寫

一書致二啓上一候。御手前抱分高役五拾石役儀之事、御理二付、植木二御座被レ成候時分、以二內藏之丞殿一得二御意一候處、少分之事二候條、於二已來一御免可レ被レ成旨被二仰出一候。則吉田三郎兵衞殿も右之通申入候條、其御心得可レ被レ成候。何茂貴面之刻、可二申達一候。以上

慶長十五年　　毛利又左衞門書判在

十二月廿五日　　宗生寺　　○中略

重而宗生寺由來書上申事

一當寺事、多賀民部少輔殿開基、小早川隆景公遺骨之塔有リ。則御牌所七ケ寺之內二而御座候。往來者寺領附申候。其後回祿之節、舊記燒失仕、此外委細之趣、相知不レ申候。併以レ爲二由緒有レ之古跡一、當寺六代花□和尙慶長十五年十二月廿五日長政樣植木二御滯座被レ遊候節、同寺抱分田畠高役五拾石御赦免被二仰付一。尤毛利又左衞門殿、吉田三郎兵衞殿手紙證據有レ之。前二記ス。

右之通リ以レ有二由緒一、恪從高役面役二御定御座候節、當寺十二代洞禪御訴被二申上一候處、元文三年六月十三日御郡代中嶋七兵衞殿御當職被二仰付一候得共、長政樣御赦免被レ爲レ遊候高五拾石二相當ル割合二御座候を、面役拾人御引被レ下候。則御郡代より手紙證據有之候。

手紙證據之寫

一筆致二啓上一候。甚暑之節二御座候得共、彌御堅固二明暮可レ被レ成、彌重々存候。拙者無二異儀一罷在候。就者先達而得二久意一候役引之儀、御願之通拾人面永々相引候樣、御當職被二仰聞一候。左樣二御心得可レ被レ成候。爲二證據一如レ斯二御座候。以上

元文三年　　中嶋七兵衛書判
六月十三日
宗生寺洞禪和尚

一寛保三年伊丹伊兵衛御郡代之節、如何様之儀ニ御座候哉、三人面御引上ニ而、七人引ケ相成申、其節紙證據とてハ無ニ御座一候事。
一寛延三年御郡代大森善左衛門殿御當役之時分、又々貳人面減少ニ相成候。此節も別紙證據とてハ無ニ御座一候。最初五拾石高役之代リニ御引被ニ下置一候拾人引之御證據斗有レ之候。至ニ只今一五人面ヲ以、隆景公御靈墓并寺内不燒寺掃除等ニ相申候事。
山林御寄附寺内不燒寺觀音堂御創建之由來等ハ、先住書上候通、相記申候處、相違無ニ御座一候。已上

文政三年辰三月　　宗生寺
俊旭

一忠之様觀音堂新ニ御建立五間四面瓦屋也。并熊野三社權現之社一宇御建立。
三好十左衛門殿

慶安二己丑年　　御奉行　　津田長太夫殿
一光之様觀音堂御繕被ニ仰付一候。
寛文元辛巳年　　御奉行　　原田專左衛門殿
一光之様又觀音堂御繕被ニ仰付一候。其節鐘樓之願申上候處、是又御建立被ニ仰付一候。
延寶六戊午年　　御奉行　　川崎勘十郎殿
右之通享保十五戌十月、永島平助殿、占部市右衛門殿え書上申通、相違無ニ御座一候。

以上

善德寺

野坂村大字王丸字長浦にあり。淨土宗にして福岡市住吉妙圓寺末なり。

〔寺院帳〕
本尊　阿彌陀如來
由緒　不詳。元祿三年一月廿七日燒失。同五年三月再建。
境内佛堂四宇
大日堂　由緒不詳。字高熊ヨリ移轉。
觀音堂　由緒不詳。字長浦ヨリ移轉。

觀音堂　由緒不詳。字許斐ヨリ移轉。

地藏堂　本尊　緣命地藏　由緒不詳。字本村ヨリ移轉。

〔筑前國續風土記附錄〕野坂村

善德寺　ベツショダニ　淨土鎭西　佛堂二間三間

育王山と號す。野坂村西福寺に屬せり。此寺むかしは宗生寺の末寺にして、藥師山といふ所に在しが、正保三年三譽といふ僧、この地に移せり。

〔筑前國續風土記拾遺〕善德寺

育王山と號す。淨土宗鎭西派野坂村西福寺の末寺也。むかしは大穗村藥師山に在て、禪寺成しが、廢絕せしかば、正保三年彼寺を爰に移して、淨土寺となせり。三譽といふ僧の時なり。

宗　念　寺

神興村大字村山田字梅寺にあり。眞宗本願寺派にして、本願寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　創立寛永十五戊寅年開基善了上人。

〔筑前國續風土記附錄〕村山田村

宗念寺　イワノ　眞宗西　佛堂三間半四面

岩野山と號す。博多万形寺門徒なり。寛永四年開基すといふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕宗念寺

眞宗西博多万行寺の門徒也。寛永四年に開基すといふ。

光　蓮　寺

神興村大字村山田字中黑にあり。淨土宗西山派にして、光明寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　創立元和元年月日不詳、空行和尙開山。

境內佛堂一宇

藥師堂　由緒不詳

〔筑前國續風土記附錄〕村山田村

光蓮寺　タニ　淨土宗西山派　佛堂四間半三間

西榮山と號す。福岡淨念寺に屬せり。元和五年空阿といふ僧開基せり。寺內に地藏堂、藥師堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕光蓮寺

西榮山と號す。淨土宗西山派福岡淨念寺に屬す。元和五年空行といふ僧開基す。寺內に地藏堂、藥師堂有。

長　龍　寺

神興村大字村山田字石原にあり。天台宗寺門派にして京都聖護院末なり。

〔寺院帳〕

本尊　不動明王　脇立　役行者、辨財天、十一面觀世音菩薩

由緒　松榮山長龍寺行基菩薩之開基、年代不詳。治承四年庚子竈門山大聖坊九世乘綱之中興、長龍寺之礎石今尚境内ニ在リ。大寶年中役行者、當國教化之際、該寺ニ留錫シ給フ。則今之本尊者行者之傳來ト云傳フ。又行者境内之大巖ニ座シ、三部習合入峯之道場ヲ開キ、丹誠ヲ凝シ、秘法ヲ修行シ給フ。依テ行者之尊像ヲ脇立トス。十一面觀音ハ傳教大師之御作ト云フ。年月姓名等裏書ニ彫刻アリト雖モ、古木體ナルヲ以テ不詳。該寺天元之頃ヨリ竈門山大聖坊代々兼務セシニ、治承四年大聖坊第九世圓藏坊乘綱ト云フ僧ニ至リ、該寺ニ住職シ、圓藏坊ト稱ス。其後圓藏坊ヲ以テ、代々通稱トス。此乘綱ハ則チ松榮山長龍寺中興之祖ナリ。中興ヨリ當明治廿五年迄年暦七百年。

境内佛堂一宇

大日堂　由緒　從前氏神的原神社境内ニ在リ。同社ノ本地佛ト云傳フ。明治二己丑年十二月此地ニ轉置ス。

〔筑前國續風土記拾遺〕村山田村

修驗圓藏坊に唐鏡一面有。背紋緻密にして十二支文字有。徑　其元は遠賀郡尾崎村の農家に在しを、近年此坊に納むといふ。

普恩寺

神興村大字八並字堂ノ裏にあり。曹洞宗にして南鄉村宗生寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　地藏菩薩

由緒　慶長元丙申年三月創立。筑前國宗像郡大穗村宗生寺五世桂室和尚ハ、則チ普恩寺ノ開山ナリ。元ト宗像郡大穗村ニ有リ。延享元甲子年八月、同郡八並村旦那小田惣九郎ナル者發起シ、方今ノ地ニ移轉。

〔筑前國續風土記附錄〕八並村

普恩寺　リウコク　禪曹洞　佛堂五間、入三間

金魚山と號す。大穗村宗生寺に屬す。慶長年中桂室といふ僧、大穗村に開基せしを、延享元年覺庵戒供といふ僧、此地に移せり。寺内に清泉あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕普恩寺　付大閣水

金魚山と號す。禪洞家大穗村宗生寺の末寺也。慶長年中桂室と云僧、大穗の出口に建立せしを、延享元年戒供と云僧、當村龍谷庵の地に移す。本尊は地藏佛也。寺内に清泉有。大閣水といふ。秀吉公下向し給し時、茶の湯に汲給へる水と云。因て此名あり。

〔太宰管内志〕報恩寺

（宗像分限帳）に三段大穗報恩寺とあり。今は八並村の内にあり。初は大穗谷の入口にあり。其跡今は田となり。

る。其邊古墳多し。今は八並村鹿山（シヽヤマ）普恩寺と云。宗生寺の末寺なり。同寺十三世萬岳和尚延享元年八並村龍谷庵の廢地に移す。本尊は地藏菩薩にして、開山は桂室和尚なり。此所今は龍谷と云。人家五六軒あり。許斐山の南の麓なり。鹿山は大穗村に有し時の號なり。

長谷寺

神興村大字手光字手光にあり。曹洞宗にして福岡金龍寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　釋迦牟尼如來

由緒　永祿元年春創立。當國早良郡西町金龍寺月舟和尚開山。當寺再三燒失。明細ハ不詳。

境內佛堂二宇

觀音堂　藥師堂　由緒不詳

阿彌陀堂　由緒不詳。字湯ノ浦ヨリ移轉ス。

〔筑前國續風土記〕手光村

長谷寺　山號施無畏山

長谷寺に觀音あり。大和の長谷の觀音を勸請せしにや。昔は眞言宗成しが、近年は禪宗となる。手光は谷中に在て好村也。

〔筑前國續風土記附錄〕手光村

長谷寺　タイモン　禪宗洞家　佛堂七間、入三間

施無畏山と號す。本編に出たり。本尊觀音也。寺傳に大和國長谷寺觀音と同木の作なりといふ。始は眞言宗なりしが、金龍寺月舟といへる僧、佛堂を再興して後は、曹洞宗となる。近世別に堂舍を營みて、本尊觀音を移しぬ。境內に春日社あり。此所遠望頗よし。

〔筑前國續風土記拾遺〕長谷寺

施無畏山と號す。禪宗洞家福岡金龍寺の末寺也。村內大門といふ所に在。（本編に出たり）寺傳に昔は眞言宗にして、大和國長谷寺を移して、佛師春日が作十一面の觀世音を本尊とせり。長三尺五寸。秘佛なりといふ。境內に春日明神有。いにしへは大社にして、觀音は此社の本地なり。故に村名をも春日村といへり。鎭座の年歷詳ならず。寺塔も廣大なりしが、豐後勢亂入せし時、放火にあひて、觀音の像のみ殘りて有しを、福岡金龍寺の六世月舟、佛堂を再興して釋迦を安置し、昔の本尊觀音は別に堂を建て安置せり。慶長八年三月照福院君觀音堂を造營し給へり。黑田養心居士の奉りしよし棟札今もあり。因にいふ。當寺のみならず、國內所々の古佛に、春日明神の御作といふもの多し。諸國にも是あるよし。春日は佛師の名なるを、賣僧等其像を靈異にせんとて、神明を汚すことあり。信ずべからず。新編鎌倉志に此事を辯じて云。按スルニ春日ト云ハ佛師ノ名ナリ。佛像ノミナラズ樂ノ假面ニモ春日ガ作數多アリ。舊記ニ稽文會稽文勳ハ河內國春日部ノ邑ノ人、兄弟共ニ佛師ナリトアリ。是ヲ春日ガ作ト云ナリ。浮屠附會ノ說ニ春日明神作ト云テ、世人ヲ迷ハセリ。不可信トイヘリ。

地藏院

神興村大字手光字冠にあり。曹洞宗にして田島村醫王院末なり。

〔寺院帳〕

本尊　地藏菩薩

由緒　不詳

〔筑前國續風土記附錄〕手光村

地藏院　カムリ　禪宗洞家　佛堂五間三間

冠山と號す。田嶋村醫王院に屬せり。開基の僧を貴泉といふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕地藏院

冠山と號す。禪宗洞家田島村醫王院末寺なり。本尊地藏菩薩。開基の僧を貴泉と云。年歷詳ならず。

〔福岡縣地理全誌〕地藏院

冠谷ニアリ。冠山ト號ス。禪宗洞家小本山田島村醫王院ニ屬ス。醫王院六世詳藝、弘治二年丙辰創建ス。一說ニ開基ノ僧ヲ貴泉ト云。

溪雲寺

上西鄕村大字內殿字坂丸にあり。臨濟宗にして大德寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　觀音佛

由緒　本山大德寺開祖大燈國師百八拾八世之法孫也。古外和尙元祿元壬辰ノ年、檀中協力費ヲ以テ創立ス。明治十四年七月三十一日罹災、同十五年本堂再建。

〔筑前國續風土記附錄〕內殿村

溪雲寺　ヲトマル　禪宗、佛堂五間半三間半

寶光山と號す。崇福寺に屬せり。開基の年歷傳ふる事なし。寺內に八幡宮、天滿宮、馬司皇の祠あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕溪雲寺

寶光山と號す。禪宗濟家崇福寺の末院也。乙丸にあり。開基の年歷不詳。

太平寺

上西鄕村大字上西鄕字美尾にあり。曹洞宗にして能登國總持寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　聖觀世音菩薩

由緒　中古周防國山口城主大內義興亡父爲ニ追善一、同國吉敷郡鳴瀧村闢雲寺八世笠心和尙ヲ請シテ開創ス。寬政四年ニ至テ、當寺檀徒伊東文七其外總檀家中同心シテ再興ス。則開山寂滅ヨリ四百二十二年也。

〔筑前國續風土記附錄〕上西鄕村

太平寺　トシダ　禪宗　佛堂六間、入三間

天德山と號す。嘉麻郡臼井村永泉寺に屬す。長祿元年防州佐波郡鳴瀧村泰雲寺八世竺心慶仙といふ僧開山也。昔は子院十九院ありしとそ。其在所餘篇に誌せり。

〔筑前國續風土記拾遺〕太平寺

牟田に在。天德山と號す。曹洞宗也。昔は周防國佐婆郡鳴瀧の泰雲寺に屬せしが、近代は嘉麻郡臼井村永泉寺の末寺となる。本尊は正觀音。左右に大現菩薩達磨の像有。開山泰雲寺八世竺心慶仙和尚なり。竺心生國は豐前の人なり。長祿二年戊寅十一月二日寂す。木像有。當寺は大内多々良朝臣義興、長祿元年の創立なり。寺料田畠四町八反寄らる。今に其所を寺田といふ。堂内に凌雲院大内義興法泉寺殿同政弘龍福寺殿同義隆牌あり。又花翁養心居士の牌及畫像あり。此邊は居士の領知なりしかば、當寺の廢を再興せられし事多かりしと云。はしめは大寺にて、末寺も自國他國にかけて十九箇寺有しが、大内家滅びしかば、漸凌遲して、今纔に六ケ寺殘れり。長州萩生福寺、當村玉泉庵、同西福庵、同不欺軒、津丸村玉泉庵のみなり　寛文九年寺地六百三十坪、古來の如く除地たるべきよし、國君の命あり。有司の證文を納む。鎭守天滿宮有。

護　念　寺

上西鄕村大字畦町字宿にあり。眞宗本願寺派にして、本願寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　往昔中島半六ナル者、出家シ建立スト。年月不詳。

境内佛堂二宇

觀音堂　本尊　觀世音菩薩、大日如來、藥師如來　由緒不詳

阿彌陀堂　由緒不詳。字鳥巢ヨリ移轉。

〔筑前國續風土記拾遺〕畦町村

護念寺　シヤウブザカ　眞宗西佛堂四間五間

岩葛山と號す。博多万行寺門徒也。

〔福岡縣地理全誌〕護念寺

慶長七年壬寅開祖鑒立創建ス

祥　雲　寺

上西鄕村大字本木字祥雲寺にあり。曹洞宗にして福岡市明光寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　釋迦如來

由緒　往古天台宗ニシテ、羽高和尙ト云フ人、天長元甲辰年八月創立セシ以降、寺號ノミ存在シタルヲ、元中七庚午年九月那珂郡博多東町明光寺二世天性明融和尙開創也。

〔筑前國續風土記附錄〕本木村

祥雲寺　ヒロエン　禪宗洞家佛堂六間半五間

可久山と號す。博多明光寺に屬せり。應永三十一年に天性といふ僧開基せりといふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕祥雲寺

可久山と號す。谷梢に在。幽僻にして愛すへし。禪宗洞家博多明光寺に屬せり。應永卅一年明光寺二世僧天

性開基せりといふ。宗像家の時、二町の寺産有。今は寺産なし。

〔福岡縣地理全誌〕祥雲寺

村ノ南八町、廣緣ニアリ。可久山ト號ス。禪宗洞家中本山博多光明寺末ナリ。寺傳ニ天台宗羽高ト云僧開基ニテ、羽高ハ仁明天皇承和元年甲寅八月四日ニ寂セリト云。（按ニ奴山村醫雲庵開基ノ僧ヲ羽高ト云。光明院貞和ノ頃ノ人ト見ユ。疑クハ此傳ノ事ヲ誤傳ヘタルニテ、承和ハ貞和ノ訛ナルベキカ。承和元年ヨリ今ニ至テ千四十四年、サバカリ古寺ナリシ傳ヘモナク、又醫雲庵ハ當寺ノ末庵ナレバナリ。）應永三十一年甲辰ニ至テ、明光寺二世天性ト云僧、中興シテ曹洞ニ改宗ス。宗像家ノ時ハ、二町ノ寺産アリ。（分限帳ニ見ユ。）

西　法　寺

上西郷村大字本木字下城ノ浦にあり。眞宗本願寺派にして、本願寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　寛延五年梅歴ナル僧、本堂再建スト云。其餘不詳。

〔筑前國續風土記附錄〕本木村

西法寺（ドウノシタ　眞宗西佛堂四間半四間）

寶林山と號す。福岡光專寺門徒なり。

〔筑前國續風土記拾遺〕西法寺

堂下に在。眞宗西派福岡光專寺の下なり。

〔福岡縣地理全誌〕西法寺

萬治三年庚子開祖順知創立ス

眞　光　寺

津屋崎町大字宮司字濱ノ久保にあり。眞宗本願寺派にして本願寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　不詳

境內佛堂三宇

觀音堂　由緒不詳

藥師堂　由緒不詳。同村字古賀ヨリ移轉。

藥師堂　由緒不詳。同村字濱久保ヨリ移轉。

〔筑前國續風土記附錄〕宮司村

眞光寺（ムラウチ　眞宗西佛堂五間四面）

歸立山と號す。博多万行寺に屬せり。正德三年七月本山より木佛寺號與へらる。

〔筑前國續風土記拾遺〕眞光寺

眞宗西博多万行寺末。天正元年立休といふ僧、開基す。

敎安寺

津屋崎町大字津屋崎字横町にあり。淨土宗にして知恩院末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀如來

由緒　創立寛喜三辛卯年開山行音自阿大和尙同郡用山村ニ安置ノ處、靈夢ニ依テ當寺ニ移轉スト云。

境內佛堂一宇

觀音堂　由緒不詳

〔筑前國續風土記附錄〕津屋崎村

敎安寺　モンゼンマチ　淨土宗鎭西、佛堂七間四面

鷗泳山と號す。京都智恩院に屬せり。寛喜三年三月行音自阿彌陀佛といへるが開基なり。寺內に觀音堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕敎安寺

鷗泳山と號す。淨土宗鎭西派知恩院に屬す。頗巨刹なり。此寺中昔は住吉村妙圓寺末寺なりしか、寛政四年より知恩院に屬せり。寛喜三年三月行音自阿彌陀佛といへる僧開基す。本尊の觀音の像は、佛師運慶鳥羽帝の時の人也作といふ。寺內に觀音堂あり。

安昌院

大島村大字大島字叶川にあり。曹洞宗にして田島村醫王院末なり。

〔寺院帳〕

本尊　藥師如來

由緒　村里ノ聞傳ニテハ、本眞言鎭國寺末ト云。本尊ハ秘佛也。安部宗任ノ守リ本尊ト傳來シ、開基ノ宗任建立ニテ、安昌院ト稱ス。境外ニ安部宗任ノ塔アリ。天正十八年之頃燒失再興。是ヨリ曹洞禪宗トナル。享保十一年再興。嘉永元甲子再度建換也。

境內佛堂一宇

大日堂　由緒不詳

〔筑前國續風土記〕大島

東寧山安昌院、曹洞宗禪寺也。安倍宗任廿一世の孫妙任尼建立す。今は田島育王院の末寺也。此地佳景也。十景有と云。里人の求に依て、篤信かつて此地の十景を名付く。見る人いたつかはしければ爰に記さず。

〔筑前國續風土記附錄〕大島村

安昌院　本編に見ゆ。カミザト　禪宗洞家佛堂六間三間

東寧山と號す。田嶋村醫王院に屬せり。寺內に荒神社、觀音堂あり。寺院高き所にありて、好景なり。

〔筑前國續風土記拾遺〕安昌院

東寧山といふ。曹洞宗田嶋村醫王院の末寺也。此所むかし安部宗任の宅址なりしを、その遺孫に妙任尼といふ者ありて、當寺を開基せり。此尼嶋の波戸を築し事など、本編に詳なれば贅せず本尊は藥師如來。宗任の持尊佛にて、秘佛なりといふ。此寺の側に榎木一株あり。宗任の墳也とて、樹下に五輪石塔有。此寺高き岸の上にありて、南の方海上

を臨みて、眺望勝れたり。十景あり。

大　善　寺

福間町大字下西郷字松原にあり。淨土宗にして、京都智恩院末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀如來

由緒　天正十八年七月創建。開山三故和尚。

境内佛堂二宇

地藏堂　由緒不詳

觀音堂　由緒不詳。同村字香雫ヨリ明治四年八月十七日當寺境内へ移轉ス。

〔筑前國續風土記附錄〕下西郷村

大善寺　ムラウチ　淨土宗鎭西派　佛堂六間六間半

松原山と號す。那珂郡住吉村妙圓寺に屬せり。開基の僧を靜譽といふ。此寺に寛永十年山林七百九拾坪を賜ふ有司の證文あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕大善寺

松原に在。松原山玉光院と號す。淨土宗鎭西派住吉村妙圓寺の末寺也。開基の僧を靜譽といふ。當所の郡士深川氏か子にて、永祿十年丁卯此寺を建立す。後長門國深川に移り、彼地にて寂す。境内千七百九十坪、除地たるへきよし、寛文十年十月の有司の證券有。

正　連　寺

福間町大字下西郷字四角にあり。眞宗本願寺派にして本願寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　開基順正、慶長元年創立。

〔筑前國續風土記附錄〕下西郷村

正蓮寺　キリヨセ　眞宗西佛堂五間半四面

打越山と號す。博多万行寺に屬せり。慶長十九年三月木佛寺號を許さる。

〔筑前國續風土記拾遺〕正蓮寺

眞宗西博多万行寺門徒なり。切寄といふ所に在。切寄といふ所に古墓あり。郡士河津新四郎隆業の墓か。

妙　圓　寺

福間町字福間浦にあり。日蓮宗にして福岡市妙典寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　釋迦佛

由緒　明治十三年五月十二日寺號公稱、創立開基教導職試補谷田義達。

境內佛堂一宇

觀音堂　由緒　庄村喜兵衞先祖寺號公稱、所有地ト共ニ、妙典寺ヱ寄附ス。

寶蓮寺

下西鄉村大字奴山字內畑にあり。眞宗本願寺派にして、本願寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀如來

由緒　不詳。文明ノ頃、禪宗臨濟ナルヲ轉宗、再建ハ安永五年ト云。

〔筑前國續風土記附錄〕奴山村

寶蓮寺　眞宗西佛堂五間四面

西向山と號す。博多万行寺の門徒なり。

〔筑前國續風土記拾遺〕寶蓮寺

眞宗西博多万行寺に屬す。開山を淨安といふ。古へは禪寺也しといふ。此村に帝釋寺、帝賢寺といへる古刹有しか、廢せり。其檀越は今悉く當寺に屬す。

〔福岡縣地理全誌〕寶蓮寺

本村ノ內、內畑ト云所ニアリ、西光山ト號ス。眞宗西派中本山博多萬行寺末ナリ、開山龍玄、元龜三年壬申創建ス。其時ハ禪宗ナリシト云。

想知院

勝浦村大字勝浦字桂岳にあり。眞言宗御室派にして、仁和寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　千手觀世音

由緒　不詳

境內佛堂二宇

大師堂　由緒不詳

歡喜天　本尊　大日如來　由緒不詳。村中安全、五穀豐饒、病災守護ノ爲勸請。

〔筑前國續風土記附錄〕勝浦村

惣智院　カツラダケノ麓　眞言律宗佛堂三間四面

桂岳山圓通寺と號す。雷山千如寺に屬せり。初は觀音堂のみにて、山上にありしが、寶曆年中村民永嶋氏剃髮して忍照と號す　なる者、麓に草庵を營み建て、怡土郡雷山の子院の名を移し、惣智院と號し、觀音佛をもこゝに安置せり。則忍照はこの寺の開山也。寺內に大師堂、不動堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕惣知院

勝浦嶽の足にあり。桂嶽山圓通寺と號す。眞言宗怡土郡雷山大悲王院の末なり。昔は山上に觀音堂のみ有しを、寶曆八年村民忍照と云もの、庵をこゝに創立して、山上の觀音をこゝに移せり。惣知院は其かみ遠賀郡高倉神傳院の末庵の名を、

爰に移すといふ。

〔福岡縣地理全誌〕想智院

又其頃遠賀郡高倉村神傳院ノ末庵想智院ト云ヘル名ヲ移シテ院號トス。怡土郡雷山千如寺實相ヲ開山トセシ故、同寺ニ屬セシカ、天明年間ヨリ仁和寺末トナレリ。寺地ニ大師堂、不動堂アリ。

大乘院

勝浦村大字勝浦字寺脇にあり。淨土宗にして、智恩院末なり。

〔寺院帳〕

本尊　阿彌陀佛

由緒　貞永元年壬申三月創立。開基祐譽宗蓮。

〔筑前國續風土記附錄〕勝浦村

西光寺　キタ　淨土宗鎭西派　佛堂六間四面

本覺山大乘院と號す。智恩院に屬せり。貞永三年祐譽といへる僧開基せり。寺內に阿彌陀堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕大乘院

喜多に在。本覺山西光寺と號す。淨土宗鎭西派京智恩院に屬す。貞永元年僧祐譽開基せしといふ。寺內に阿彌陀堂あり。

照月庵

勝浦村大字勝浦字西にあり。臨濟宗にして、大德寺末なり。

〔寺院帳〕

本尊　釋迦如來

由緒　不詳

境內佛堂一宇

觀音堂　由緒不詳

〔筑前國續風土記附錄〕勝浦村

照月庵　ニシ　禪宗濟家　佛堂六間三間

光明山と號す。崇福寺に屬せり。寺內に阿彌陀堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕照月庵

西に在。光明山と號す。禪宗濟下崇福寺の末なり。寺內に阿彌陀堂有り。

第二節　寺　址

本節には過去の寺院を記せり。

長寶寺址

吉武村大字吉留にあり。

〔筑前國續風土記拾遺〕觀音堂

古長寶寺といふ寺跡のよし。本尊觀世音。長四尺計。銅像にして秘佛なりといふ。脇檀に古佛大像あり。手足は朽てなく、頂より趺座まで長七尺計。不動明王なりといふ。昔村の西なる戸田山（高き山也。昔は寺院有しといふ。今廢せり。）堀出たりしを、こゝに安置すといふ。又大威德明王古像高五尺計、毘沙門增上の像長四尺計なるあり。此所は八所明神の本地堂なりしといふ。後に櫟の大木あり。村民長寶寺を誤りて、今は長福寺といふ。

延命寺址

赤間町大字石丸にあり。

〔筑前國續風土記附錄〕石丸村

延命寺（ムラウチ　禪宗　佛堂二間四面）

松樹山と號す。崇福寺に屬せり。古へ七社宮の宮司にて、眞言宗なりしか、元龜の頃燒失し廢絕せしを、寛永十九年神屋重良といふもの禪宗に歸依し、寺を再興し、澤首座といふ僧を中興開山とす。此寺に藥師佛幷佛像十一躰を安置せり。弘法大師の作なりといふ。いにしへ此村の境內に、元弘院といふ寺あり。其本尊なりといふ。其舊地を藥師の谷といふ。清水あり。闕伽水といふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕延命寺

松樹山と號す。禪宗濟下崇福寺の末院なり。古へは七社の宮司にて、眞言宗なりしが、元龜の頃燒失して廢絕せしを、寛文十九年神屋重良といふもの禪宗に歸依し、寺を再興し、澤首坐といふ僧を中興開山とす。此寺に藥師佛幷佛像十一軀を安置せり。弘法大師の作なりといふ。古へ此村の境內に、元弘院といふ寺有。其本尊なりしといふ。（其舊地を藥師谷といふ。清水有。闕伽水と名付。）

〔福岡縣地理全誌〕延命寺址

明治四年辛未廢ス。佛具等ハ盡ク陵嚴寺村明德寺ニ移置セリ。

寶松院址

赤間町大字德重にあり。

〔福岡縣地理全誌〕慈雲山寶松院址

柳井澤ニアリ。開山ノ僧存異、（天正五年寂ス。）檀越石松三郎兵衞、（寛永十六年十一月十二日死、法名昌應宗繁）禪宗大穗村宗生寺末ナリシト云。

〔筑前國續風土記附錄〕德重村

寶松院（ヤナイジヤク　禪宗洞家　佛堂二間半、五間半）

慈雲山と號す。宗生寺に屬す。開山の僧を存異といふ。中興開基の檀越を石松三郎兵衞といふ。三郎兵衞は寛永十六年十二月十二日死す。法名昌應宗繁といふ。此寺昔は本村の內テラヤシキといふ處にありしが、此地に移せし年歷詳ならす。

〔筑前國續風土記拾遺〕寶松院

柳井澤に在。慈雲山と號す。禪宗洞家大穗村宗生寺の末也。開山の僧を存異といふ。天正五年に寂す。開基の檀越を石松三郎兵衞といふ。寛永十六年十一月十二日死。法名昌應宗繁。此寺昔は本村の內寺屋敷といふ處に在しを、後に此地に移せり。寺內の下方に井あり。水淸冽なり。大閣水といふ。昔柳の大木の下より湧出せし故に、柳井澤の名あり。柳樹今はなし。其根株のみ朽殘りて、纔に井の底に在。水其空間より出。

平等寺址

河東村大字平等寺にあり。

〔筑前國續風土記拾遺〕平等寺址

古寺といふ所に在。地藏堂有。地藏田、彼岸田など云字有。古への寺料なるべし。堂前に紫藤の魁樹あり。其圍四尺有。長數十丈。林木に延蔓せり。かゝる巨藤は世に稀なるべし。

花藏院址

田島村大字吉田にあり。

〔筑前國續風土記〕吉田村

吉田村の鎭國寺は○中略子院も多かりし迚、其址多し。今は絕て花藏院と云一坊のみ殘れり。近き比、花藏院に、右に云し昌傳が弟淸算と云僧住せり。始は高野山に住せしが、此國に來て住する事四十年に及べり。然るに貞享元年三月廿一日より五穀を絕て木食し、同四年三月十五日より斷食し、廿一日に六拾七にて入定して死す。希世の事なれば、四方より來見るもの多かりしとかや。則花藏院の後なる山上に葬る。

〔筑前國續風土記附錄〕吉田村

華藏院　鎭國寺に屬せり。方一間の瓦屋あり。中興木食上人淸算か銅像を安置せり。淸算入定の事、本編に詳なり。

〔筑前國續風土記拾遺〕吉田村

子院華藏院の後の山に、僧昌傳の俗弟淸算の墓あり。入定の龕上に彼僧の像を、銅にて鑄てすゑたり。貞享四年三月十九日死す。本編に委しく、故にのせず小堂あり。

長德寺址

岬村大字地島にあり。

〔筑前國續風土記附錄〕地島

長德寺　ミヤサキ　淨土宗鎭西、佛堂四間三間

浪浦山藥師院と號す。博多一行寺に屬せり。開山滿譽といふ。開基の年歷詳ならす。

〔筑前國續風土記拾遺〕長德寺

白濱に在。浪浦山藥師院と號す。淨土宗鎭西派一行寺に屬す。開山幷創立の年代等、上に同し。

○按ずるに「上に同じ」とせるは、前に地島の西光寺の事を述べ、「明德年中滿譽と云僧開基せり」とせるをいへるなり。

建高院址

東郷町大字田熊にあり。

〔筑前國續風土記拾遺〕田熊村

藥師堂高野といふ處に在。藥師大日を安す。村民云、むかし建高院といふ眞言寺こゝに在。延曆の比、天下早魃にて、九國の地殊に甚しかりしかば、弘法大師爰に來り、雩を修せられしとかや。其時八大龍王を祀りし處とて、八龍森有。依て高野といふ。香原寺田等の字あるは、皆其遺跡也とかや。永祿年中に麻生鎭氏、許斐白山の城を奪ひし時の兵火に、炎上して絶けるとなん。

法藏寺址

東郷町大字田熊字平井にあり。

〔福岡縣地理全誌〕法藏寺址

平井ニアリ。福岡淨念寺末ナリ。明治五年壬申廢シテ民家トナレリ。

〔筑前國續風土記附錄〕田熊村

法藏寺　ヒライ　淨土宗西山派　佛堂二間半三間半

照寶山と號す。淨念寺に屬せり。開基の年歷傳ふる事なし。寺內に福地の小祠あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕法藏寺

平井に在。照寶山といふ。淨土西山派淨念寺に屬す。開基の年歷詳ならず。

安養寺址

南郷村大字野坂にあり。

〔福岡縣地理全誌〕安養寺址

今院ニアリ。田字ヲ今モ安養寺ト云。古寺ナリ。宗像家文書、後深草院正嘉二年戊午裁判狀ニ、下今犬名安養寺田取除陸段事云々。又永仁七年己亥ノ文書ニ、筑前國宗像東郷內野坂上今犬庄四至限東小河限、南横路限、西寺林限、北京道ト見エタリ。今ハ彌陀堂アリ。

〔太宰管內志〕安養寺

野坂村塚本と云處にあり。本堂横一間入八尺、未申に向へり。庫裡なし。

慈濟院址

野坂村にあり。

〔福岡縣地理全誌〕慈濟院址

村ノ南五町ニアリ。今ハ慈濟寺ト云。宗像分限帳ニ、二町野坂慈濟院トアリ。觀音堂アリ。其側ノ人家ヲ門前ト云。昔ノ山門ノ址ナリト云。

〔筑前國續風土記拾遺〕觀音堂

慈濟院の觀音堂は、昔の廢寺の址也。宗像家の時、寺產貳町寄附有。堂の側の人家を大門といふ。昔の寺門の址也といふ。

〔太宰管內志〕慈濟院

（宗像分限帳）に貳町野坂慈濟院とあり。野坂村門前と云處にあり。本堂一間四方、東向にして、庫裡なし。

中山寺址　慶福寺址

野坂村にあり。

〔福岡縣地理全誌〕中山寺址

中山ニアリ。觀音堂アリ。分限帳ニ貳町野坂中山寺トアリ。又壹町野坂慶福寺ト云アリ。其址不詳。

〔太宰管內志〕中山寺

（宗像分限帳）に貳町野坂中山寺とあり。野坂村中山と云處にあり。本堂二間四方許、西向なり。庫裡なし。

〔太宰管內志〕慶福寺

（宗像分限帳）に壹町野坂慶福寺とあり。野坂村新町と云處にあり。本堂横一間八尺、南向にして庫裡なし。

東光寺址

南鄉村大字曲にあり。

〔筑前國續風土記拾遺〕東光寺址

昔此村に相國山東光寺と云寺有。早く廢せしにや、肥前國高來郡肥御崎圓通寺に、此寺の鐘を買取て懸たり。其鐘今もかしこにあり。銘に延德四年十月八日と記せるよし、肥陽古跡記に出たり。

善王寺址

南鄉村大字曲にあり。

〔筑前國續風土記拾遺〕善王寺址

むかしは禪寺也。今は廢して小堂に觀音、地藏像有。村民云、いづれの時にか有けむ、宗像大宮司の落胤の男子、いかなる故にか有けん、乳母抱きて、白山城を出落行しを、追手來りて、當郡久原村の當木にて殺せり。其乳母と幼兒とを此寺に埋む。堂の側に古墓二ツ有。是也。其後靈魂祟をなせしかば、乳母を觀音に崇め、幼兒を地藏とあがむ。堂內の佛像は是なり。又石躰の地藏像有。里民セイダウ地藏と云。昔此寺の西堂なりし僧をあがむといへり。每年三月には村民法會をなし、稻元村の巫女來りて、靈を降し、託言をのぶる。又辻といふ處に觀音堂有。佛像七躰あり。いづれも大像也。

瑞泉院址

南鄉村大字大穗にあり。

〔福岡縣地理全誌〕瑞泉院址

村ノ中央ニアリ。月照山ト號ス。宗生寺ノ末院ナリ。安政ノ初年廢セリ。境內ニ土塚アリ。土封ノミニテ、村民ハ御臺ト呼ヘリ。

〔筑前國續風土記附錄〕大穗村

瑞泉院　ズイセンダニ

月照山といふ。宗生寺に屬せり。

〔筑前國續風土記拾遺〕大穗村

月照山瑞泉院　中屋敷　當寺に屬せり。此院内に古塚あり。土封のみにて、村民は御臺といへり。

玉泉庵址

神興村大字津丸にあり。

〔福岡縣地理全誌〕玉泉庵址

本村ノ南人家ノ側ニアリ。禪宗上西鄕村太平寺ノ末庵ナリ。廢址ニ地藏堂アリ。

〔筑前國續風土記附錄〕津丸村

玉泉庵　ムラウチ　曹洞宗　佛堂二間半四間半

上西鄕村太平寺に屬す。開基の年歷詳ならす。

〔筑前國續風土記拾遺〕玉泉庵

曹洞宗上西鄕村の太平寺の末庵也。開基の年歷詳ならす。本尊の地藏は古作也。またサイデといふ所に、觀音あり。古佛なり。また阿彌陀堂有。これまた古像也。

吉原寺址

神興村大字八並にあり。

〔福岡縣地理全誌〕吉原寺址

本村ノ北六町ニアリ。古刹ナリ。今ハ觀音堂ノミアリ。色定法師一切經跋文ニ、建久五年四月三日宗形社領吉原寺財秀房書之、又建久五年五月廿一日吉原觀音堂佛前書之トカケリ。

寶林寺址

上西鄕村大字本木にあり。

〔福岡縣地理全誌〕寶林寺址

御鷹カ原ニアリ。眞言宗ノ寺ナリシト云。道ノ左ニ彌陀、釋迦、大日三尊ノ石佛立リ。中ノ大日如來ノ下ニ、願主淨圓、天治二年二月七日ト誌セリ。天治ハ崇德天皇ノ年號　其後ニ三惠法師カ墓トテアリ。銘文ナシ。何人ナリヤ不詳。

〔筑前國續風土記附錄〕本木村

村の東南一町計、田圃の中に寶林寺といふ眞言宗の寺跡あり。大日、阿彌陀、釋迦三佛の名號石あり。天治二年願主淨圓と彫れり。其邊に三惠法師か墓といふ大石有。いかなる僧なりしにや。

〔筑前國續風土記拾遺〕本木村

本村の東二町計御鷹原といふ處の道の左に、彌陀釋迦大日三尊の石佛立り。中の大日如來の下に願主淨圓天治二年二月七日としるせり。天治二年は崇德帝の年號。文政四年迄六百九十七年なり。又後の方に三惠法師の墓といへる石立り。銘文はなし。此處往昔眞言宗寶林寺といふ梵刹ありし址也といひつたふ。

勝寶寺址

上西鄕村大字舍利藏にあり。

〔筑前國續風土記附錄〕舍利藏村

觀音堂（ミナカミ三間四面）本尊觀音三十三佛（行基の作といふ。）

彌陀の三尊及行基の木像をも安置す。此地昔は舍利山勝寶寺といへる寺ありし跡なり。養老二年行基の開基にて、昔はさばかりの大寺なりしにや、子院も十五坊（其址谷の内に殘れり）ありしといふ。今は衰廢して、其時の觀音佛のみ殘れり。堂守の庵を勝寶庵といふ。釋迦地藏を安置す。本木村祥雲寺に屬せり。境内に熊野社、天滿宮、祇園社、大日堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕舍利山勝寶寺址

水上に在。養老二年行基開基の寺にて、佛舍利を安置せしといへり。昔時子院も十五坊ありしといふ。（坊號今村中所々に殘れり）今は廢絶して、觀音堂幷に小庵のみ有て、勝寶庵といふ。（鐘銘には正法菴に作る）本尊十一面觀音像は行基の作也と云。行基の木像をも側に安置す。寺内凡四百五十坪程あり。今は禪宗本木村祥雲寺に屬す。此處村中に林木蓊鬱に、細水の流絶す。市塵を隔て靈區なり。堂の後に熊野權現社あり。此社にて毎年正月三日村民集ひて、種蒔の祭といふ事をなす。呪文を唱へ、年穀を祈る例なり。（○中略）寺内に天滿宮、祇園社、大日堂あり。又觀音あり。味噌觀音といふ。祇園社に安置す。

善福寺址

津屋崎町大字津屋崎にあり。

〔福岡縣地理全誌〕善福寺址

殿屋敷ノ北ニアリ。海雲山ト號ス。巨刹ナリシト云。開山ハ圓通大應國師、御笠郡横岳崇福寺ニ屬セリ。宗像分限帳ニ五段津屋崎善福寺トアリ。觀音堂アリ。（馬頭觀音座像。長一尺六寸、弘法作と云。）緣起ニ（天和中作）天曆中觀音堂炎上セシニ、佛像ハ飛去テ、東一町許ノ梅檀木ニ留リ、漁父ニ託シテ、樹下ヨリ黄金ヲ堀出シ、改メテ寺ヲ立、善福寺ト號スト云。當國靈場第十六番ノ札所ナリ。又分限帳ニ貳段津屋崎定林寺トアリ。今其跡サタカナラズ。

〔筑前國續風土記附錄〕津屋崎村

善福寺（テグチマチ　禪宗佛堂二間四面）

海雲山と號す。神湊隣船寺に屬す。開基の年歴傳ふる事なし。

〔筑前國續風土記拾遺〕善福寺

海雲山と號す。禪宗臨濟派神湊隣船寺に屬す。本尊は馬頭觀音也。境内に大師堂有。開基の年代詳ならす。

安養寺址

津屋崎町大字渡にあり。

〔福岡縣地理全誌〕安養寺址

村ノ西側、北ト云所ニアリ。大峰山安養寺トテ、淨土宗津屋崎教安寺ノ末庵アリ。古寺址ノ由、言傳レトモ、由來不詳。

〔筑前國續風土記附錄〕津屋崎村

安養寺（ムラウチ　淨土宗鎭西派）

大峯山と號す。津屋崎教安寺に屬せり。古き寺也といふ。今は僅なる草庵なり。

〔筑前國續風土記拾遺〕安養寺

村内に在。大峯山と云。淨土宗鎭西派津屋崎教安寺の末寺也。古寺跡のよし。由來不詳。

楯崎寺址

津屋崎町大字渡にあり。

〔福岡縣地理全誌〕楯崎寺址

楯崎神社ノ下ニアリ。宗像分限帳ニ二町渡楯崎寺、田島宮御廳著座次第記ニ、宮僧十七人、此外供僧衆有之、楯崎寺院主云云。當社供僧ナリトアリ、此所ニ智寶院トテ、修驗僧住メリ。是楯崎寺ノ名殘ナルベシ。明治五年壬申廢ス。

〔筑前國續風土記拾遺〕楯崎權現社

むかしは楯崎寺といふ寺有て、宗像より四町の神田を寄らる。今に田字に殘れり。近代眞言の修驗者之を守る。

壽福庵址

津屋崎町大字須多田にあり。

〔筑前國續風土記附錄〕須多田村

壽福庵　ミツバカ　淨土宗鎭西佛堂二間三間

大悲山と號す。津屋崎浦教安寺に屬せり。開基の年歷詳ならす。

〔筑前國續風土記拾遺〕壽福庵

淨土宗鎭西派、大悲山と號す。津屋崎浦教安寺に屬す。開基の年歷詳ならす。此邊を三ツ塚といふ。原野に古塚多し。大塚二ツ塚なといふ塚あり。

久昌院址

大島村にあり。

〔福岡縣地理全誌〕久昌院址

中西ニアリ。海雲山ト號ス。禪宗田島醫王院末ナリ、元祿元年戊辰桃雲ト云僧開基ス。廢址ハ宅地トナレリ。

〔筑前國續風土記〕久昌院

海雲山と號す。昔は眞言宗成しが、今は曹洞宗也。田島育王院の末寺也。

〔筑前國續風土記附錄〕大島村

久昌院　ナカニシ　禪宗洞家　佛堂四間半二間半　本編にみへたり

海雲山と號す。醫王院に屬せり。元祿元年桃雲といふ僧開基す。寺内に秋葉社、大師堂、觀音堂あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕久昌院

海雲山と云。曹洞宗田嶋村醫王院の末寺也。元祿元年桃雲といふ僧開基す。本尊は大日如來。寺内に觀音の堂あり。此堂始は中津宮の側祇園社の上高所にあり。近年寺内に移せり。佛體は銅像にして、唐人の作也と

いふ奇好の古佛なり。又弘法大師堂あり。

十王寺址

福間町大字下西郷にあり。

〔福岡縣地理全誌〕十王寺址

村ノ西南二町、花見山ノ内井尻ト云所ニアリ。五智山十王寺ト云。淨土宗ニテ、福岡極樂寺ノ末ナリ。本尊ハ彌陀勢至ナリ。典譽ト云僧開基ス。其後年ヲ經テ廢レケルヲ、元祿三年庚午天臺宗ノ沙門眞城坊俊道再興シテ、小庵ヲ立テリ。此僧ハ粕屋郡名島村宗榮寺ノ僧ナリシガ、隱棲シテ此庵ヲ守ル。常ニ尊圓親王ノ末流ヲ好テ、能筆ノ聞アリ。國中所々神祠佛堂ノ扁額ニ、其筆跡數多アリ。此邊松林ノ中ニ、十三佛ノ石像アリ。是モ俊道カ造立ナリ。其内釋迦ノ石像ノ下ニ。俊道ヲ葬リテ、即此像ヲ墓標トス。

〔筑前國續風土記附錄〕下西郷村

松樹院　イジリ　淨土宗鎭西派佛堂三間二間

福岡極樂寺に屬せり。其初いつの時、誰人の創立なるにやしれす。しはらく廢寺なりしを、元祿三年眞性坊俊道といへる僧再興せり。俊道は粕屋郡名島村神宮寺の住僧天台宗なりしが、退院してこゝに移住す。此僧筆道をたしみ、世に能書のきこえあり。神祠佛堂の扁額に、渠か筆跡數多あり。又寺邊松林の中に、十三佛十王の石像あり。俊道か造立せしとそ。其内の地藏佛は、即俊道が墓所也といふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕松樹院

五智山十王寺と云。淨土宗。井上といふ所に在。花見山の内なり。福岡極樂寺に屬す。今小庵となれり。本尊は彌陀觀音勢至なり。曲譽といふ僧開基せり。此僧寛永十八年に化す。其後年經て廢しけるを、元祿三年天台宗の沙門眞性坊俊道といふ僧再興せり。此法師は粕屋郡名島村宗榮寺の僧也しが、隱棲して此庵を守る。常に尊圓法親王の末流を嗜て、能書の聞へあり。國中處々神祠佛堂の扁額に、其筆跡あまた殘れり。また此寺邊の松林の中に、十三佛十王の石像を創立す。其像いづれも大なり。上方の石工彫刻せしといふ。其内釋迦の石像の下に、俊道を葬りて、即此像を墓標とすると云。農家に俊道が傳記あり。其弟子となりし僧の書記せるといへり。

帝賢寺址

勝浦村大字奴山にあり。

〔福岡縣地理全誌〕帝賢寺址

村ノ東北四町ニアリ。字ヲ帝賢寺ト云。觀音堂存セリ。昔ノ本尊ハ今田島村ニアリ。經筒銘曰宗像宮帝見寺、右爲滅罪生善之、住僧琳慶筒一口事、保延五年所奉供養如件、十一月五日壬午トアリ。保延ハ崇德院ノ年號ナリ。觀音堂ノ側ニ清水アリ。徑三尺安產ノ守ナリトテ、婦人是ヲ汲取ルモノ多シ。

〔筑前國續風土記附錄〕奴山村

觀音堂　タイケンジ　いにしへ帝賢寺といふ寺ありし跡といふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕奴山村

觀音堂　いにしへ帝賢寺といひし寺の址なり。今も字を帝賢寺といふ。本村の北十二三町計なり。側に清水

有。安產の守なりとて、婦人是を汲かへるもの多し。

醫雲庵址

勝浦村大字奴山にあり。

〔筑前國續風土記附錄〕奴山村

醫雲庵　シンクロダニ　禪曹洞　佛堂四間半二間

寶壺山と號す。本木村祥雲寺に屬せり。開山を羽高といふ。前に見へたる產神の社に、大般若經を納めし僧なり。

〔筑前國續風土記拾遺〕醫雲庵

新黑谷といふ處にあり。寶壺山と號す。本木村祥雲寺に屬す。開山を羽高と云。前に見へし縫殿大明神に、大般若經を納めし僧也。本尊は藥師佛也。

第三節　佛　堂

現存佛堂中、古地誌に記せるものを抄錄す。

觀音堂　三郎丸

〔筑前國續風土記附錄〕三郎丸村

觀音堂　高樹山といふ。陵嚴寺村に境へる所にあり。正法寺に屬す。本尊は　忠之公の持佛也。寛文十一年光之公の命により、成譽といふ僧、寺を建立し、高樹山と號し、觀音佛を安置せり。山林八百坪を寄附し給ふ證文あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕高樹山觀音

村の東陵嚴寺に境へる所の山に有。庵あり。千手觀音を安置す。陵嚴寺村の正法寺に屬す。寛文十一年福岡少林寺の僧成譽退隱して、此處に庵を結ひて、高樹院殿の持尊佛の觀音の像を安置し、其御法號をとりて、高樹山と號すといふ。昔此地は氏貞の母堂陶尾張守の姪なりし婦人の幽棲の地也。はしめは多禮村の瀧口といふ所に住せられしが、後に此所に移り住れしといへり。

〔福岡縣地理全誌〕宗像氏貞母幽棲地

村ノ東十二町陵嚴寺村ニ境ヘル山ニアリ。氏貞ノ母ハ陶尾張守カ姪ナリ。初ハ多禮村ノ瀧口ト云所ニ住セラレシカ、後又此所ニ移住メリ。寛文十二年壬子黑田光之ノ命ニテ、福岡少林寺ノ僧成譽退隱シテ、此所ニ小庵ヲ結ヒ、光之ノ父忠之ノ持尊佛千手觀音ノ像ヲ安置シ、忠之ノ法號ヲ取用ヒテ、高樹山七日庵ト號セリ。光之ヨリ山林八百坪寄附アリ。明治五年壬申廢ス。觀音堂ノミアリ。

觀音堂　土穴

〔筑前國續風土記拾遺〕土穴村

船頭寺觀音　村上に在。昔は產神社と村との間の田圃に在。近き比、今の所に移せり。十一面觀音の像を安置せり。若八幡の本地佛なるべし。昔の像は長八尺有しが、朽損せしによりて、新像を刻みて、其中に籠むと云。此觀音も景

清の古事を村民傳へいへり。誤なればしるさず。

觀音堂　地島

〔筑前國續風土記附錄〕地島村

觀音堂　ハトバ　慶長年中　如水公建立し給へり。堂前に波止長サ百五十間餘、幅十八間餘あり。本編に詳也。此時老職連署の翰を、庄屋辨指にあたへらる。今保正の家にあり。

當浦觀音堂爲二上下船一、如水被二立置一候條、船一艘ニ付而一日ニ一人持之石拾宛ほどニ上置可レ有二寄進一候、御手船迄も、如レ此被二仰付一候間、御國中廻船は不レ及レ申、他國船にて候共、可二申付一候、當座舟かゝりには、一艘に付而一人持之石貳宛上可レ申、此上にて無二同心一船は、後年迄も其船を當津へ寄候儀、可レ令二停止一候由、被二仰出一候間、以二此旨一堅固可二申付一候也

卯月廿八日

小河内藏允判、桐山丹波守判、野村大學頭判、黑田美作守判、栗山備後守判、井上周防守判（原文六行）

慈嶋
庄屋
辨指

〔筑前國續風土記拾遺〕觀音堂付波戸

波戸場に在。佛躰二軀あり。慶長年中に如水公此所に新に波戸を築給へり。其時建立し給へるといふ。波戸長百五十間、横十八間餘。此時老職の連署の翰を浦人に賜へり。今に浦長の家に在。委にしるす。（下略）

觀音堂　大穗

〔筑前國續風土記〕不燒寺觀音

不燒寺の觀音堂は、永享元年春三月創立せり。創立の人の姓名しれず。緣起新舊二有り。拙陋にして文理をなさず。堂は高き所に在。堂の太さ方四間、緣共に方五間有。邊土にては珍しき壯麗なる堂也。此堂度々災上して、觀音像も昔燒失す。不燒寺の名にあはず。今の像は京都の佛師作れり。今の堂は慶安四年、先公忠之建立し給ふ。其後度々國君より修補し給へり。

〔筑前國續風土記附錄〕大穗村

不燒寺　本編に詳也　堂宇五間四面

補陀山と號す。寺内に熊野社、大師堂有。古寺跡は町の東北ドウデンにあり。今に古瓦多しといふ。鐘撞田の址は、光岡村抱の塘となれり。

〔筑前國續風土記拾遺〕不燒寺觀音堂

本編に詳なり。宗生寺の境内に在。補陀山と號す。本尊馬頭觀音は秘佛なり。此堂往昔は村の東北堂田（今は大穗町に屬す。古瓦を出す。其西に佛聖田、東に鐘撞といへる田字猶殘れり）といふ處にあり。永享元己酉年三月、此地に創立。同十戊午年二月左衞門太夫藤原忠種再興。天正六戊寅年仲春領主源守勝（忠種守勝未レ詳ニ何人一）加二修補一なと、緣起にみへたり。境内に熊野社、大師堂、鐘樓等有。

觀音堂　村山田

〔筑前國續風土記拾遺〕梅谷觀音

梅谷といふ處にあり。古佛なり。長五尺。十一面千手千眼の立像なり。背に銘あり。此像源信僧都の一刀三禮の作にして、後冷泉院の御時、宗像氏高に命じて孔大寺に安置せしめらる。其後百餘載を經て、大宮司二十六世氏勝の時、同郡本木村の艸堂に移す。其地を今堂德と云四十九世の大宮司長氏の時、堂德野火有て、草堂燒たり。夫より此所に移すとかや。正安三年四月五日と有。其全文は怪誕なれば、こゝにはしるさず。昔は梅寺といふ庵有しよし。今はなし。

不動堂　八並

〔筑前國續風土記拾遺〕八並村

不動堂　古田にあり。木佛也。むかし此處の畑の岸より穿出せり。昔その上に機先庵とて寺有。此像は其寺の本尊なるべしと云。庵の址には古墓今も殘りてあり。

觀音堂　津屋崎

〔筑前國續風土記附錄〕津屋崎村

觀音堂　垣の內といふ處に有。堂內に　長政公の尊牌あり。元和九年京都において捐館し給ひ、靈柩を船に載せ奉り、此浦に着かせられ、一宿し給ふ所なり。其跡に觀音を安置し、垣の內といふ。其時四方に垣結廻し、警固ありし故也。

〔筑前國續風土記拾遺〕津屋崎村

垣內觀音堂　この堂に興雲院殿の神位あり。公元和九年京都にて捐館し給ひ、靈柩を載奉りし船、此浦に泊れり。時に風波强かりしかは、此地に靈柩を揚て、四方に垣を結て守護し奉り、翌日陸地より崇福寺へ送り奉りけるとかや。依て此所を今も垣の內といふ。其後觀音堂を建て、尊牌を安置せしといふ。修驗者護國院是を守る。

毘沙門堂　大島

〔筑前國續風土記〕大島

安倍宗任初め讃岐國に配流せられ、後に此島に流され、終に此島にて死せり。俗說に、此島を宗任が居たりし故に、安倍島といふといへるは非なり。安倍島は今の藍島なり。粕屋郡の記に是を詳にす　其子三人、長子は松浦にゆく。松浦黨の祖なりと云。次男は薩摩にゆく。三男は大島にとゞまり、島の三郎季任といふ。宗任此島にて初居たりし所を、里民は毘沙藏といふ。宗任が安置したる毘沙門堂在し故也。今民家にちかくうつせり。後に居たりし所を御所山といふ。一說に、毛利元就、爰に來り陣せられし所なる故、御所山といふといへるは非なり。其下に廣き平地の畠あり。小山四方に圍て、風をさえへだつる故に、畠の字をさへ崎といふ。大島にのこれる安倍氏の遠孫、近世まで我產として稼穡の利を收む。永正の比、安倍伊豆といふ者、宗像大宮司と不和にして、宗像より亡され、其妻大島を去て、粕屋郡薦野にゆく。遺腹の子ありて、是を安倍和泉といふ。立花氏につかへて、薦野三河に屬す。天正十三年、七十餘にて淸水原において戰死す。其子右馬助は、是より前天正七年に、生松原の戰に、鬼木淸甫といふ者と、鎗を合せて戰死す。其弟六彌太も天正二年に道雪にしたがひ、筑後國西牟田にて戰死す。其子弟猶筑後國柳川にありしが、後に此國に來り、長政公の臣となり、其子孫今に至りて、福岡につかふ。初安倍伊豆が大島にて亡びし時、其弟は宗像大宮司よりゆるし置きて、猶大島に在しが、其

子掃部といふ者、また大宮司と不和になりてほろびぬ。その子次郎太夫幼かりしが、長じてのち、大島の神職となる。後にはその家衰微して、神職をうしなひ、農人と成りて、その子孫大島に殘れり。宗任が配流せられし時、したがひ來りしといふ屋形、萬澤、豐福の三氏の遠孫も、今に大島にのこれり。

〔筑前國續風土記附錄〕大島村

毘沙門堂　本編毘沙藏の所に見ゆ。安昌院の東四十間計にあり。境內に安倍宗任の古墳と言あり。榎木一株植てり。

〔筑前國續風土記拾遺〕大島村

毘沙門堂　安昌院の側に在。始は島の西北毘沙倉といふ所にあり。近年今の所に移せり。立像長三尺許。宗任奧州より將來せし像なりといふ。近年拙工荼綺を施して、大に古色を失へり。宗任當國に配流せし事、百練抄卷一康平七年の條に、三月廿九日伊豫守頼義自二奧州一相具所二上洛一之降虜宗任等有レ議、不レ令レ入レ京、分二遣國々一、宗任家任遣二伊豫一、良照遣二太宰府一、自注云、治暦三家任等移二遣太宰府一、依レ有下欲レ洩二歸本國一之聞上也と見へたり。（こゝに家任等と有て、宗任となき故、いかゞと思へども、上に宗任家任と有て、次に家任等とあれば、家任一人にあらず、宗任を略せるなるべし。）しかれは後冷泉院の康平七年に、伊豫に配せられ、（本編には讃岐に流されしとあるは、伊豫を傳へあやまりしなるべし）同御世治暦康平八年改元有て、治暦と號す伊豫より當國に配せられたり。其遠孫今も田嶋の社家（其始は御嶽社の御燈の役なり）に在。また此島にあるは、いつれも農民漁夫となれり。奧州より從ひ來りしといふ家人の家も今にあり。國中往々安倍氏の者多し。

第三章　地方略誌

武　丸

文祿田畠帳に武丸村あり。慶長圖に武丸村千八百九十三石とす。

〔筑前國續風土記附錄〕孝子正助墓

ハジカミといふ所にあり。碑表に歸命眞解院釋法蓮居士、寶暦七天八月二十五日とあり。正助は行年八十七歲にて死せり。安永七年本州士人小河直矩正助が墓石の崩壞せるを修補し、竹田定良に碑文をこふて、墓石に彫刻せり。渠か孝行の詳なる事は、孝子良民傳に見へたり。安永年中郡吏富永氏休、墾田二反三畝を官に請ふて、正助か義子に與へ、永く祭奠の資とせり。

〔筑前國續風土記拾遺〕孝子正助墓

土師上に在。碑表に歸命眞解院釋法蓮居士、寶暦七天八月廿五日とあり。正助は行年八十七歲にて死せり。安永年中本州士人小河直矩、正助が墓石を修補す。碑文竹田定良撰へり。正助の行跡の詳なる事は、孝子傳に見へたり。天明元年郡吏富永氏休、墾田二反三畝を官に請て、正助が義子に與へ、永く祭典の資とせり。又寛政六年官命ありて、古田三反三畝四歩を加へ給ふ。

〔福岡縣地理全誌〕孝子櫻井正助墓

土師上ニアリ。掉石高二尺三寸、巾八寸、地輪石二尺。歸命眞解院釋法蓮居士、寶曆丁丑七年十月二十五日孝子正助ト銘セリ。

○孝子正助の事に關しては下編三一五頁に孝子正助傳集錄を載せたり。

吉留

文祿田畠帳に吉富村あり。慶長檢地帳にほ吉留村田畠百十六町、分米大豆千五百八十石とす。慶長圖、正保圖には吉富とし、元祿圖、天保鄕帳には吉留とす。

〔筑前國續風土記拾遺〕吉留村

妙見　安倉遠賀郡境の山間に在。御前の溪水に小瀧あり、甚幽邃なる神所なり。

〔福岡縣地理全誌〕妙見瀧

村ノ東十三町、妙見ニアリ。長一丈五尺、巾二尺。水源妙見谷ヨリ出流來、安倉川ニ入ル。

石丸

石清水文書承久二年十二月に石丸保あり。文祿田畠帳に石丸村あり。慶長檢地帳に石丸村田畠三十六町、分米大豆五百五十六石とあり。

〔筑前國續風土記〕石丸村古城

城の腰の城と云。城主しれず。

瀑布

城腰城址

〔筑前國續風土記附錄〕石丸村古城　本編に見へたり。

村の東五丁計にあり。平なる所凡五畝許あり。今圃となれり。

〔筑前國續風土記拾遺〕城腰

本編に見へたり。今陸田の上に、平なる地一反計あり。草樹叢生す。

赤間

宗像文書康元元年十一月、正嘉元年閏三月等に赤馬庄あり。〇中編一六九頁一七〇頁參照　元應三年二月に赤馬院あり。中編二一五頁參照　文祿の田畠帳には赤間町は陵嚴寺村の內に入る。慶長の檢地帳には赤間村田畠二十一町、分米大豆三百三十八石とす。

〔筑前國續風土記拾遺〕赤間村

むかし赤馬院內又赤間庄といひしは、今村名悉くは傳らず。朝町、多久、須惠、三郎丸、土穴、野坂等は赤間院內なるべし。中比は鞍手郡に屬せしよし、物に見えたり。

○按ずるに文祿田畠帳には、野坂、武丸、德重、多久、石丸、三郎丸、薑の諸村を鞍手郡に入る。

陵嚴寺

文祿田畠帳に棱嚴寺村あり。慶長檢地帳に棱嚴寺村田畠六十八町分米大立千三十四石、慶長圖正保圖共に棱嚴寺村とし元祿圖天保鄕帳は陵嚴寺村とす。

〔福岡縣地理全誌〕

赤馬山城址

村ノ名義ハ、昔横岳山ノ廣智禪師、此村妙湛寺ニテ楞嚴經ヲ說法セシヨリ、村ノ名ヲ楞嚴寺ト云。今ハ誤テ陵嚴寺トカク。

〔筑前國續風土記〕赤馬山古城

赤馬山を蘿が嶽と云。山上に城址有。大宮司六十五代氏俊、此城を構へ住す。後は廢城と成。氏貞は始當國に下りし時、孔大寺の白山の城に、十二年居住せられしが、兼て此山の要害能を知て、城を再興し、永祿五年、白山の城を去て、此城に移り、常の住所とす。此時蔦が嶽の名を改て、嶽山と云。田島宮祭禮の時は、本社の後御内と云宅に暫く留り、神事を勤め終りて、又此城に歸れり。秀吉公、天正十五年、筑紫征伐の歸りに、此城に入給ふと云。一說楞嚴寺村の正法寺と云淨土寺に一宿し給ふ。此時小早川隆景に此國を給りしが、此城來春わりすつべき由命ぜらる。依之翌十六年此城をこぼてり。城址本丸一段許、大手口南に向ふ。石丸村の方に在。三本松と云所也。東二の丸二段、水落の谷と云所有。三の丸白岩水谷と云。其外出丸所々に在り。本丸より西にも曲輪有。

〔筑前國續風土記附錄〕赤馬山古城　本編に詳なり。

本丸二の丸三の丸は、楞嚴寺村に屬す。本丸の下なる隍より西の方石嶺三本松邊は、三郎丸村に屬し、水谷モジクチは石丸村に屬し、北側は遠賀郡城畑村に屬す。此邊より城畑村に下る徑あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕赤馬山古城

本丸二ノ丸三ノ丸は陵嚴寺村に在。本丸の下なる隍より西の方三本松邊は、三郎丸村に係り、水谷門司口は石丸村の地にて、北の方は遠賀郡城畑村に屬せり。宗像追考に赤間庄蔦岳城何の世の草創と云事をしらす。大宮司五十四代氏俊建武三年修補し、尊氏卿西國下向の時、蘿山城に入奉るとあり。されは此以前よりあるなるへし。　按に宗像之記に、大宮司妙忠の家二つに分れて、公家社家と申けるに、公家は蔦岳に城郭を構へ居住し、社家は片脇城に住けるよし見へたり。妙忠は清氏より六代長元七年に補任あり。是に依れば其來る事久し。されとも本編に六十五代氏俊の時、此城を構へ住すと有。いまたいつれか是なることしらず。　永祿三年の夏、大宮司氏貞、此城を修理し、外輪を堅固に構へて、白山城を去て、爰に入らる。同五年に城の名を嶽山と改らる。此以前は蘿岳蔦山などともいへり。氏貞此城修理並に移住の年月諸說區々也。今宗像宮置札を取。此城の大手は、辰巳方宇土と云所にて、東の口則門司口といひ、北を石峠口と云。此石峠の道、小荷駄の通路なり。永祿十二年立花在陣の毛利勢、本國に兵亂起りて、十月十五日豐後の諸將、岳山近邊に押寄、此城を攻拔んと働きけれと貞飯盛の陣を引拂て、岳山に歸城あり。同十八日早天に、氏も、城中能防、堅固に持けれは、寄手も落難きを知けるにや、數年の後、和睦の取扱に成にけり。　以上宗像追考に出つ。又氏貞入城の以前、此城には番人を置れしと云。其頃奴留湯融泉、麻生鎭氏豐後の勢を催し、此城を攻し事あり。宗像記に此事天文廿三年にて、氏貞茲に在しよし見へたれとも、是は永祿二年の事にて、氏貞はいまた白山城に在と追考に見ゆ。かくて天正十五年太閤九州征伐の歸りに命ありて、此城を割捨らる。今一ノ丸、二ノ丸、三ノ丸、芦屋堀、新堀、馬立場、馬責場、廣丸、城道、陣ケ尾、水落谷、先陣楠、屋形口、大門口等の名殘れり。此山猴多くすむ。楠南天燭ヱビ根等多し。　按に本編に此山を宗像山とあり。宗像山のこと、田島村の下にあり。

〔福岡縣地理全誌〕赤馬山城址

蔦岳ノ頂ニアリ。本丸二丸三丸ハ此村ニ屬セリ。本丸ノ下ナル湟ヨリ、西三本松邊ハ三郎丸村ニ係リ、水谷門司口ハ石丸村、北方ハ遠賀郡上畑村ノ地ナリ。　上畑村ニ下ル徑道アリ。城ノ大手ハ東南ノ方宇土ト云所ニテ、東ノ口

ヲ門司口ト云、北ヲ石峠口ト云。此石峠ノ道ハ小荷駄ノ通路ナリシト云。此城何ノ世ノ草創ト云コトヲ不知。大宮司五拾四代氏俊、建武三年丙子修補シテ、足利尊氏ヲ入タル由、云傳レハ、其以前ヨリアリシナルヘシ。宗像記ニ大宮司妙忠ノ家二ツニ分レテ、公家社家ト申シケルニ、公家ハ蔦岳ニ城廓ヲ構ヘ居住シ、社家ハ片脇城ニ住ケル由見エタリ。妙忠ハ清氏ヨリ六代長元七年ニ補任アリ。是レニヨレハ其來ル事久シ。サレトモ續風土記等ニハ、六十五代氏俊ノ時、此城ヲ構ヘ住ストアリ。未タイツレカ是ナル事ヲシラス。大宮司氏貞ノ時、初メ白山ノ城ニ居リシカ、兼テ此山ノ要害ノヨキヲ知リ、永祿三年庚申ノ夏修理ヲ加ヘ、外曲輪ヲ堅固ニ構テ、白山城ヲ去テ、此城ニ入ル。同五年壬戌ニ城ノ名ヲ嶽山ト改ム。此以前ハ蘿岳蔦山ナトモ云ヘリ。又氏貞入城以前ハ、番人ヲ置キシト云。其頃奴留湯融泉、麻生鎭氏、豐後ノ勢ヲ催シ、此城ヲ攻シコトアリ。田島宮祭禮ノ時ハ、本社ノ後御門ト云宅ニ暫ク留リ、神事ヲ勤終テ、又此城ニ歸レリ。同十二年己巳立花在陣ノ毛利勢、本國ニ兵亂起リテ、十月十五日ノ夜急ニ引取ヌ。同十六日早天ニ、氏貞飯盛ノ陣ヲ引去テ、岳山ニ歸城アリ。同十八日豐後ノ諸將、岳山近邊ニ押寄、此城ヲ攻拔ント働キケレトモ、城中能防キ、堅固ニ持ケレハ、寄手攻落シ難キヲ知リケルニヤ、數年ノ後、和睦ノ取扱ニ成ニケリ。宗像追考記ニ出ツ。天正十五年丁亥秀吉公筑紫征伐ノ歸路、此城ニ入リテ、小早川隆景ニ當國ヲ與ヘラレシ時、此城來春割捨ヘキ由命セラレケレハ、明ル十六年戊子ニ毀捨ケリ。今モ一丸、二丸、三丸、芦屋堀、新堀、馬立場、馬責場、廣丸、城道、陣尾、水落谷、先陣楠、屋形口、大門口等ノ名アリ。城ノ麓ニ赤城、城腰、草場トテ、三所ニ番所ヲ設ケタリ。氏貞ノ時、此城ノ外ニ白山城、山田村片脇城、田島村許斐城、王丸村草崎城、神湊勝浦岳城、勝浦吉田城、吉田村椽城、德重村手光城、手光村宮地岳城、宮司村蠦蛤羽子城、本木村高宮城、畦町宮永城、鞍手郡宮永村三吉城、遠賀郡三吉村等ニアリ。

三郎丸

宗像文書元應三年二月に三郎丸あり。〇中編二一五頁參照　慶長檢地帳に三郎丸村田畠五十七町、分米大立八百二十三石とす。

〔筑前國續風土記附錄〕三郎丸村

太閤水

觀音堂の下、道の側に井泉あり。秀吉公正法寺に一宿し給ひし時、點茶の水に汲み用ひ給ふ故に大閤水といふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕大閣水

岸本

高樹山觀音の下道の側に在。秀吉公正法寺に一宿し給ひし時、點茶の水に汲給ひし井といふ。清泉なり。

〔福岡縣地理全誌〕太閤水

村ノ東南三町高樹山觀音堂ノ下道側ニアリ。徑三尺。秀吉公陵嚴寺村ノ正法寺ニ一宿ノ時、點茶ノ水ニ汲用ラレシト云。今モ清泉ナリ。

〔筑前國續風土記拾遺〕三郎丸

寛政の初年、岸本と云所より、金銅の經筒一箇堀出せり。高一尺餘、周一尺。銘文あり。日本鎭西九州筑前宗像郡赤馬院桂田村住尼妙法奉書寫如法經大治四年己酉四月とあり。大治は崇德院の年號己酉より文政癸未まで六百九十八年になる。初陵嚴寺村の正法寺に寄納せしが、其後故ありて元の所に埋めりといへり。

今井城

〔筑前國續風土記附錄〕三郎丸

土穴村堺に丸く低き山あり。今井某の住し所といふ。此地に叢祠あり。翁の社といふ。今井か靈を祭れりと

そ。

〔筑前國續風土記拾遺〕三郎丸

土穴村の境に、丸く低き山あり。今井城と云。今井某が住し所と云。叢祠有。翁社といふ。今井氏の靈を祭ると云。

〔福岡縣地理全誌〕今井城

村ノ西土穴村ノ界ニアリ。人家アリ、氏貞ノ臣小樋太郎左衞門カ宅址ナリト云。古來此地ニ住ル者皆小樋氏ナリ。其子孫ナルヘシ。舊記ニ此所今井某カ住シ所ト云。叢祠アリ。翁社ト云。今井氏カ靈ヲ祭ルト云フ。此今井カコト詳カナラス。

〔筑前國續風土記拾遺〕三郎丸村

高樹山の內に所々鑛穴あり。

〔福岡縣地理全誌〕三郎丸村

金坑址二所　高樹山ニアリ。一所ハ山ノ北五町、穴ノ口方三尺五六寸、深サ測リカタシ。一所ハ山ノ西五町、穴ノ口上ニ同シ。奥ハ淺シ。

〔筑前國續風土記拾遺〕三郎丸

新立といふ山の中に塚穴多し。

〔福岡縣地理全誌〕三郎丸村

古墓二所　村ノ北三町新立ト云所ノ山中ニ、古塚穴一所アリ。又村ノ北四町藤谷ニモ、一所アリ。

金坑址

古塚

月池

入海址

土穴

宗像文書建長元年九月に土穴あり。○中編一六三頁參照　永祿四年六月に土穴鄕あり。○中編二七○頁參照　文祿田畠帳に土穴村、慶長檢地帳に土穴村田畠四十九町、分米大豆八百二十二石とす。

〔筑前國續風土記附錄〕土穴村

村中に月の池といふあり。冬夏に增減なく、水淸冽なり。

〔筑前國續風土記拾遺〕土穴村

當村東の側に井あり。月池といふ。旱年にも涸る事なし。淸泉なり。

〔福岡縣地理全誌〕月ノ池

本村人家ノ側ニアリ。徑五尺深六尺、淸水ナリ。里民飲水トス。

〔筑前國續風土記拾遺〕土穴村

此邊昔は江口の邊より江海來りて、船など着きしとて、宮の南の田の中、大碇、小碇などいふ處あり。此社をいにしへの御船上社といひ、また向ひの田久村の境內に御船漕社あり。是海邊なりし故なり。是より江口まて今は二里計の陸地なりといへども、其地勢を見れば、左もありぬべく思はる。田圃の字にも、海邊の名多く殘れり。

〔福岡縣地理全誌〕土穴村

田圃ノ字ニ海邊ノ名多ク殘レリ。舟宮ノ前、船頭寺ナト云ヘリ。

〔筑前國續風土記拾遺〕土穴村

元岡清兵衞宅址

權現社　村内に在。氏貞の家士元岡清兵衞といふ者の靈を祀る。此地彼宅址なり。今子孫七家、農民にありといふ。

〔福岡縣地理全誌〕元岡清兵衞宅址

本村ニアリ。元岡ハ宗像氏貞ノ家士ナリ。今子孫七家農民ニ存セリ。其祖ノ靈ヲ祭リ、元岡神社ト號ス。

古墓

〔筑前國續風土記拾遺〕土穴村

出現社　延屋敷といふ所の上にあり。宗像家の臣野生氏が靈を祀る。昔より古冢あり。人畜是に觸れば、必祟有。依て近年神に祟むといふ。其下の畑は其宅地也。野生を延とも書たり。

〔福岡縣地理全誌〕野生氏墓

村ノ北三町野生屋敷ニアリ。野生延共カケリ。ハ宗像家ノ臣ナリ。古塚アリ。人畜是ニ觸レハ必祟アリ。依テ近年社ト崇メ、出現社ト號ス。

德　重

文祿田畠帳に德重村あり。慶長檢地帳に德重村田畠五十六町、分米大豆七百四十七石とす。

緣城址

〔筑前國續風土記〕德重村古城

緣の城と云。又名殘の城共云。大宮司黑川刑部隆尙後に赤馬庄三百町領分せし時、此城に住す。宗像記追考には、隆尙最初此城に居す。後に片脇の城に移りしといふ。

〔筑前國續風土記附錄〕德重村古城　本篇に詳也。

平地五畝計あり。其下椽有て茶臼に似たり。故に村民は茶臼山ともいふ。其西北に平地三畝計あり。端城の跡ならんか。

〔筑前國續風土記拾遺〕緣城　本編に詳なり。

村の西南に在て、名殘村に境へり。故に名殘城とも云。城址の最高き處五畝計あり。其下の廻に緣ありて、其形茶臼に似たり。故に村民茶臼山ともいふ。其西北低き所、平地三畝計有。此外にも所々平地有。此城を置し事、宗像軍記に、永正のはしめ宗像氏續社務となり、其頃豐後大友より、田原、田北、爪生を大將として、豐前田川越をして、筑前を攻しむ。所々の城、或は落され或は降る。大友則岡城に爪生左近貞延を城主として、岡千町を領しけり。爪生やゝもすれは打出て、宗像の植田をそこね、鄕民をなやまし、或は許斐城を攻て、領分を犯す。行末如何と思ければ、石松但馬守尙季、畔口伊豫守益勝を兩使として、大內義隆に此由を告て、援兵を乞。其上可然大將一人、宗像へ召置れ候はは、名殘城に入申、赤間庄三百町、古物神崎三百町を名殘城の軍用に奉るへしと有ければ、義隆聞給ひて、氏續の乞所に任せ、黑川刑部少輔隆尙本書に隆像に作るは誤也。を遣して、名殘城にこめ置けれは、大友重て宗像に攻來る事なし。又天文の頃、氏續此城に在しと見へたり。

〔筑前國續風土記附錄〕德重村

柳井澤といへる所に淸水あり。太閤水といへり。昔柳の大木の下より湧出せし故、ヤナキジヤクと名付といふ。柳今はなし。

〔福岡縣地理全誌〕柳井澤淸水

柳井澤ニアリ。周一丈五尺、深四尺。其水至テ淸冽ナリ。昔ハ大ナル柳木ノ下ヨリ湧出セシ故ニ、柳井澤ノ名アリ。其柳今ハ枯朽テ、根株ノミ井ノ底ニアリ。水其空隙ヨリ出ツ。

名　殘

文祿田畠帳に名殘村あり。慶長檢地帳に名殘村田畠五十二町、分米大豆六百六十七石とす。

〔筑前國續風土記〕太平山

名殘村と鞍手郡上有木村の境成る高きかや山なり。

〔筑前國續風土記附錄〕太平山　本篇に見へたり。

早魃の時、此山に霧起れるを、里民猝牛霧（コツトヒキリ）といふ。其霧堀田といふ所の塘際まてたちをゝへば、三日を過すして雨降ると里民いへり。

〔筑前國續風土記拾遺〕太平山（オホヒラ）

本篇に見えたり。早魃の時、此山八合程高き所より、朝に牛の形に似たる霧起る事あり。里民是を猝牛霧（コツトヒキリ）といふ。其霧堀田といへる所の塘際まて立掩へは、三日を過すして、雨降といひ傳へたり。此上は鞍手郡上有村に境へり。

〔福岡縣地理全誌〕大平山

村ノ東南ニアリ。富地原、武丸、鞍手郡上有木、倉久四村ニ界ヘリ。山麓潤坂ヨリ絶頂ヘ十二町、杉松雜木立險阻ナリ。旱魃ノ時、此山八分程ノ所ヨリ、晨ニ牛ノ形ニ似タル霧起ル事アリ。里民是ヲ猝牛霧ト云。其霧大平ノ西北ノ間、四町堀田ト云ル所ノ塘際マテ立掩ヘハ、三日ヲ過ス雨降ト云。

〔筑前國續風土記附錄〕名殘村

村中イヅマルといふ所に石窟あり。明和九年村中の牛馬多く病めり。陰陽師をしてトせしむるに、村中に岩穴あり。久しく土中に埋れり。故に此殃ありといふ。よりてこの岩窟をさがし得て、不動佛を安置せり。其後は殃なかりしとそ。

〔筑前國續風土記拾遺〕名殘村

石窟　伊豆丸に有。廣三尺、入四間あり。明和九年村中に牛の病多し。是を占ふに、卜者村內に岩穴あり。久しく土中に埋れり。故に此殃ありといへり。依て此岩窟を搜り出て、不動佛を安置せり。爾後其殃なかりしといふ。

富　地　原

富地原文祿田畠帳に藤原村、慶長檢地帳に藤原村、田畠百町、分米大豆千二百二十七石とす。慶長圖、正保圖、元祿圖、天保鄕帳何れも藤原とあり。

〔筑前國續風土記拾遺〕藤原村

里民の傳說に、古へ藤原千歲丸といふ人、此地に來り住めりしが、春日社小倉畑を勸請す。依て千歲丸が姓を以て、村の名とせりといふ。

〔筑前國續風土記附錄〕藤原村

村中ゼニガキといふ處に、大松一株有り。神屋主馬が墓印なりといふ。主馬は鄕士なり。

〔筑前國續風土記拾遺〕藤原村

村中錢垣に大松一株あり。神屋主馬が墓表也といひ傳ふ。主馬も亦宗像の家士なり。

〔福岡縣地理全誌〕神谷主馬墓

村ノ東五町錢垣ト云所ニ、大松一株アリ。神谷主馬カ墓表ナリト云傳フ。主馬モ宗像カ家士ナリ。神谷氏ハ平維盛ノ裔ト云。平氏亡シ時、乳母維盛ノ兒ヲ懷テ、當郡ニ來リ、大宮司氏國ニ依賴ス。氏國ハ重盛ノ師ナリケレハ、窃ニ多禮村瀧口ト云所ニテ養育ス。子孫遂ニ宗像氏ノ臣トナル。大友ニ追落サレ、大島ニ逃渡リシカ、主馬カ計ニ依テ、大友勢ヲ追立テ、安藝守本城ニカヘル。其賞トシテ、此村ノ領主トナリテ、移住メリ。主馬カ長子內藏允ハ黑田家ニ仕ヘテ、六百石ヲ領シ、二男彌五左衞門ハ德川家旗下ノ士トナリ、二千石ヲ領スト云。此事鞍手郡四郎丸村笠松神社ノ舊記ニ見ユ。

〔筑前國續風土記附錄〕藤原村

村中アカキといふ處に玄蕃塚といふあり。宗像の家士白木玄蕃が墓といふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕藤原村

古墓　赤木に在。白木玄蕃が墓也といひ傳へて、村民玄蕃塚といふ。塚上に松立り。玄蕃は宗像家臣にて、天文の頃此村に居住す。玄蕃の子を左近といふ。父子ともに虛說の難に遭て、此處にて討れしとかや。

〔福岡縣地理全誌〕白木玄蕃墓

村ノ南十町赤木ニアリ。玄蕃塚ト云、塚上ニ松立リ。玄蕃ハ宗像家臣ニテ、天文ノ頃此村ニ住居ス。玄蕃カ子ヲ左近ト云。父子共ニ虛說ノ難ニ遭テ、此所ニテ討レシトカヤ。近年里民石碑ヲ立。高三尺、幅一尺餘。玄蕃塚ト銘ス。

〔福岡縣地理全誌〕藤原千代丸墓

古賀ニアリ。天慶二年己亥正三位中納言藤原千代丸ト云人、始テ當國ニ下リ、宗像宮ノ祭ヲ掌リ、此村ニ春日神社ヲモ創建セラレシト云。此所松林ノ中ニ須賀小社アリ。寛政十二年庚申此社ノ拜殿ヲ經營ストテ、里民地ヲ堀テ石櫃ヲ得タリ。中ニ骸骨存セリ。又櫃ノ四方ヨリ壺ヲ出セリ。其一ニハ甲冑鏡徑二寸許、銘文ナシ。ヲ納ム。餘ノ三ツニハ、各朱ヲ充リ。其種々ノ物ハ、ト者ノ占ニ任セテ、側ナル春日石祠ノ下ニ埋メリ。里民ハ千代丸ノ墳ナリト云。

田久

宗像文書文和元年十一月に田久あり。〇中編二三三頁參照　慶長檢地帳に田久村田畠二十町、分米大豆七百四十石とす。

〔筑前國續風土記附錄〕田久村

ヂヤウガボウといふ所に古城地あり。本編に見えす。宗像の臣石松加賀守といへるもの守れりと、里民いへり。

〔筑前國續風土記拾遺〕田久村

古城　ヂヤウガボウといふ所にあり。本編には見へず。宗像の臣石松加賀守といふ者守れりといふ。船頭寺の上なる小山なり。平地一反計り。三段に切ならせり。

〔福岡縣地理全誌〕城捧城址

村ノ西大船頭ノ上ナル山、城捧ト云所ニアリ。平地一反許リ、三段ニ切平セリ、宗像ノ臣石松加賀守レリト云。

〔福岡縣地理全誌〕節女政墓

節女政墓

村ノ東南三町官道ノ側云。サヤトノ丘上ニアリ。凝香潔操信女、俗名マサ、享和元年十一月九日ト銘ス。近年官道ニ標石ヲ立テ、其所ヲ表セリ。

烈女政、宗像郡赤間村七兵衞之幼女也、父臨沒、許嫁於宗家之子長次郎、既而長次郎家計衰薄、未及合巹、勝浦村有豪富、欲爲其子聘政、使人言之、政以爲違遺命不孝也、棄衰宗不義也、拒而不從焉、豪富益欲得之、遂使農長備盡誘迫、政知終不可免、陽許以緩逼、潛持割刀、趨于子舍、自刺其喉而死、時年十有八、實享和元年十一月九日也、農長等恐得罪、誣告以心疾狂死、鄉黨有憤其不然者、而力不足仲寃、至今十有七年、我侯聰明、日躋遠邇畢照、於是乎政貞烈始得上達、惻然憫傷、下郡覈實、文化十四年冬十一月賜其兄白金十五枚、爲祭祀料、以旌其貞節、即日治豪富農長之罪、今郡奉行森茂可、爲買田給寺、充掃墓之資、且礱石、請銘於時技靖、靖屬同僚井土周磐、周磐於孝子貞女之事、固願聞而言之、故不以不文爲辭、乃作銘文曰、

寧死不辱　尙竇其倫　天之未定　讒夫哆辱　既克有定　靡不勝人
恩被枯骨　宿寃以伸　於祭洒掃　墓門無塵　凜凜遺烈　刻文貞砥

郡奉行　森　茂可　建
府學訓道　井土周磐　撰

○節婦政の事に關しては、下編四〇九頁に節婦政傳集錄を載せたり。

須惠

宗像文書建長元年九月に須惠あり。○中編一六三頁參照。慶長檢地帳に須惠村田畠三十三町、分米大豆四百七十四石とす。

製陶址

須惠の名稱は、陶器を製せしによる。

〔筑前國續風土記拾遺〕須惠村

いにしへ此村にて陶器を製す。依て村名を須惠といふ。笹ケ尾と云所に、今も陶器の破碎たるあまた有。猶多く土中には埋れて有といふ。鎌倉の文書に既に須惠の名あれば、其前久しき時より、陶器を造りし成べし。

〔福岡縣地理全誌〕陶器製所址

村ノ北二町笹尾ト云所ニアリ。古ヘ陶器ヲ製セシ址ト云。今モ陶器ノ破碎タルカ、數多アリテ、土中ニ埋レリ。

武藤氏宅址

〔筑前國續風土記拾遺〕須惠村

村の北の方に城といふ所有。三方は田野にて其邊を堀の內といふ。一方は野山に連れり。方壹町餘、土居を築て、其上に雜木茂れり。今其內に民家三軒有。鎌倉の比、須惠、土穴、稻元の三村は宗像氏高、同氏房より宗像社に寄進の地也。氏高六代孫氏忠の室張氏、武藤六郎兵衞入道覺然太宰少貳資賴の子、初名は爲賴、此子孫を窪氏と稱す。に承久三年に讓與ふ。夫より代々武藤氏傳領せり。其系圖及讓狀等數通、宗像社に在。此城は即武藤氏の宅址なるべし。

彼岸田

〔筑前國續風土記拾遺〕須惠村

此村の內に彼岸田といふ田字あり。是宗像社の石經に、かの張氏の寄進せし彼岸田なるべし。然らば東般といへるも、此村の邊をいひしにや。是釣川の東なれば、地理よくかなへり。

山田

宗像文書文永七年七月に山田あり。〇中編一八三頁參照　慶長檢地帳に山田村田畠五十六町、分米大豆六百七十八石とす。

〔福岡縣地理全誌〕山ノ井

白山ノ絶頂ヨリ一町東南ノ谷中ニアリ。方二間許ノ孔アリテ、口ハ狹シ、南ニ向ヘリ。奥ニ入ル事五間許ニシテ、水アリ。深サ測リカタシ。岩石ヲ鑿開セルモノナリ。水清冷ニシテ、旱年ニモ涸ル事ナシ。白山城ノ用水ナリシト云。

井泉

〔筑前國續風土記〕白山古城

山田村の境内に在。氏貞より前の宗像大宮司、數世居城の由云傳ふ。正氏も此城に隱居す。氏貞も長州より來て、十二年の間此城に住す。此上は孔大寺山につらなれり。別峯也。其下に白山權現の社有。故に其上の山を白山といへり。

白山城址

〔筑前國續風土記附錄〕白山古城　本編に出たり。

絶頂に平らかなる所三所、各六畝程あり。

〔福岡縣地理全誌〕白山城址

村ノ北白山ニアリ。絶頂ニ平地三所アリ。或ハ五畝、或ハ六畝許アリ。雜木立茂レリ。此城ハ宗像大宮司十一世氏國新ニ築テ、子孫世々居城トス。氏國始テ武勇ヲ逞シ、是ヨリ大宮司武家ノ如クニナレリ。建武三年丙子大宮司氏範氏俊父子、足利尊氏ヲ招請セシモ此城ナリ。七十九世氏貞モ十二年ノ間此ニ住シ、後蔦岳城ニ移レリ。

大宮氏別館址

〔筑前國續風土記附錄〕正氏後室宅跡

ホカゾノと言所の圃の中にあり。近きころ郡吏富永氏休碑を立てり。舊きをしたふ志、篤しといふべし。

〔筑前國續風土記拾遺〕山田村

外薗といふ所に、大宮司の別館址あり。即正氏の夫人、氏雄の夫人の殺害せられしは此宅なり。今は圃となれり。前栽の泉水の狀、今猶殘れり。此宅址とはじめ兩夫人を葬し舊地とに、近比石碑を建たり。此圃の南道路を隔て、田中に高くさし出たる圃あり。井上と云。二碑兩所に在。これ本編にいへる兩夫人四侍女を葬し處也。むかしは岸下なり。後に小山を開墾して、平地とせしよし、里民いへり。

〔福岡縣地理全誌〕宗像正氏夫人宅址

增福院ノ南一町外園ト云所ニアリ、大宮司正氏ノ別館ナリシ地ナリ。兩夫人ノ殺害セラレシハ、此所ナリ。今ハ圃トナレトモ、前栽ノ泉水ノ狀、猶殘レリ。此所ヨリ南一町井上ト云所、小道ノ側ニ、方三尺ハカリナル古井アリ。井上ノ名モ、此ヨリ起レルナルヘシ。夫人ノ宅ノ用水ナリシト云。兩夫人ノ殺害セラレシ由緣ヲ尋ルニ、大宮司氏佐大内家ニ屬シ、周防ノ山口ニ出勤セシ時、長門ノ深川黑川兩庄ヲ賜リ、黑川ニ宅ヲ構ヘテ居住シ、黑川氏ヲ稱ス。氏佐ノ子刑部少輔正氏モ、黑川ニ三年住セシ時、陶尾張守晴賢カ姪女ヲ娶リテ、二人ノ子ヲ生ム。兄ハ鍋壽丸ト號ス。其次ハ女子ナリ。正氏本妻ハ宗像田島ニアリ。女子一人ヲ生メリ。名ハ菊姫トイフ。正氏

ハ家族氏續カ嫡子權頭氏光ヲ養子聟トシテ、菊姫ヲ娶セ、家ヲ讓リ、隱居シテ山田ニ住シ、名ヲ隆尙ト改ム。天文十六年丁未四十八歳ニテ病死ス。氏光ハ名ヲ改テ、氏雄ト號ス。氏雄モ亦大內氏ニ從ヒ、周防ニ出勤シケルカ、天文二十年辛亥九月、陶尾張守主君大內義隆ニ叛逆ス。義隆其亂ヲ避テ、長門ノ深川大寧寺ニ落行、自殺セラル。跡ニテ氏雄敵ヲ拒キケルカ、力及ハス、義隆ノ跡ヲ慕ヒ行ケルヲ、敵追掛ケレハ、氷ノ上ト云所ニテ戰死ス。生年三十三歳ナリ。其後陶尾張守カ計ラヒニテ、正氏黑川ニマウケシ、陶カ姪ノ生シ子鍋壽ヲ四郎氏貞ト號シ、正氏カ家督トシ、大宮司ニセントテ、同年九月十二日、宗像ヘ下シ、白山ノ城ニ入レケル。時ニ年七歳ナリ。然ルニ宗像家臣共同心セスシテ曰、氏貞ハ正氏ノ子トイヘ共、本妻ノ子ニアラス、氏雄ノ弟千代松殿アリ、是ヲ氏雄ノ養子トシ、家督ニスヘシ、然レトモ當年三歳幼稚ナレハ、マツ菊姫ニ一族ノ內可然人ヲ聟ニトリテ、社職ヲ繼スヘシ、氏貞ヲ下シ參ラセラル、事、一應家人ヘ其示ハアルヘキニ、左ハナクテ、押テ白山ニ入城セシムル事、陶殿ノ僻事ナリ、氏貞ノ家人寺內治部丞カ我意ヲ振舞フ故ナリト評定シ、氏貞ヲ立ントセス。又千代松カ父前大宮司氏續モ、我子千代松ヲ立ン事ヲ喜テ、其議ニ同ス。又陶ニ恐レテ、氏貞ヲ立ント云者モ多クシテ、家中二ツニ分レテ爭フ。尾張守是ヲ聞テ、寺內治部丞ニ言付ケ、先ツ氏續及ヒ千代松ヲ殺サシム。（其事ハ鞍手郡山口圓通院ノ所ニ詳ナリ。）其後又陶カ下知ニテ、正氏ノ後室幷其息女菊姫ヲ殺シ、氏貞ヲ彌立ヘシトテ、宗像ノ臣石松又兵衞尙秀ニ言付ケ、野中勘解由、嶺玄蕃ヲ遣シ、後室幷菊姫ヲ殺サシム。（一說ニ氏貞ノ母ニ山田ノ後室ヲ讒セシ者アリシヲ信シテ、己カ母子ニ害アラン事ヲ恐レテ、石松ニ言付テ、野中嶺ヲシテ殺サシムト云。又一說ニ正氏ノ後室及ヒ菊姫ヲ殺セシハ、石松又兵衞尙秀ナリト云。是宗像ノ社人及ヒ里民ノ傳稱スル所、及ヒ宗像記同追考ノ說ナリ。サレトモ石松氏カ遠孫ノ家ニ傳ル所、及ヒ自餘ノ說ハ、石松尙秀ニハ非ス、彼後室母子ヲ殺セシハ、野中嶺兩人ナリト云。石松又兵衞ハ永祿三年名ヲ但馬ト改稱ス。氏貞死去ノ後剃髮シテ可久トイフ。其遠孫今猶多シ。）天文二十一年壬子三月廿三日ノ夜、野中勘解由、嶺玄蕃、山田村後室ノ宅ニ行キ、先菊姫ノ局ニ忍ヒ入ル。折節菊姫ハ今夜ノ月ヲ拜マントテ、行水シ、髮ヲ洗ヒテ端近ク出テ居タリシヲ切殺ス。十八歳トソ聞エシ。二人ハソレヨリ後室ノ居ラレシ奧ノ間ニ走リユキ、後室ヲ殺サントセシカ、流石其氣色ニ恐レ、暫シタメラフ。後室二人ノ者ヲ白眼ミテ、汝等科ナキ主人ヲ殺ス事、此恨汝等カ子孫マテ盡マシ、我ハ女ナレトモ、汝等カ手ニハカヽラシトテ、守刀ヲ拔テ自害セリ。其猛キ有樣、見ル人恐ロシク目ヲ驚カセリ。後室ニ任ヘシ小少將、三日月、小夜トイヒシ三人ノ女房モ、泣悲ミ、二人ニ取付キ、拳ヲ以テ打シヲ、三人トモニ皆サシ殺シ、花尾ト云局ノ女房、後室ノ刀ヲ取テ自害ス。カクテ母子ノ死體ヲ一ニ聚メ、宅後ノ山ノ岸ノ下ニ、同穴ニ埋ム。其時死シシ女房四人ヲモ、母子ノ傍ニ埋ム。其翌天文二十二年癸丑三月十八日、嶺玄蕃鞍手郡蒲生田ノ觀音ニ詣ケル歸ルサニ、女二人忽ニ出來ルヲ見レハ、彼後室ト花尾局ナリシカ、即時ニ消テ見エス、玄蕃足振ヒ、手戰キケルカ、漸クニ歸リ、苦ケナル息ヲツキテ、胸痛刀ニテ指通サル、如シト呼リ、頓テ死セリ、是後室ノ祟リヲナセル初メナリ。其後玄蕃カ妻子兄弟數人、同時ニ皆病ヲ得タル事、玄蕃カ如クナリシカ、同月廿三日マテニ、皆死失タリ。野中勘解由是ヲ聞テ、大ニ恐レ、祈禱シケルカ、或夜後室ト花尾局夢ニ見エテ、其憤ヲ陳ヘ、勘解由ヲ責ル事甚シ。夢覺メ、大汗出テ、肢體痿エ、翌日病ニ犯サレテ死ス。其後七日ノ內ニ、家內頓病ニテ七人死ス。此後ハ諸人恐怖甚シ。氏貞及ヒ其母モ恐レヲナシテ、樣々ニ祈リ祭リテ、祟リヲ免レン事ヲ請フ。永祿二年己未ノ春、氏貞ノ妹十三歳ナリケルカ、俄ニ狂疾起リ、我ハ正氏ノ妻ナリト言テ、目ヲ怒シ、氣色恐シクシテ、其母ヲ責メハタリテ、我ト我子ヲ殺シタル事ヲ怒リ恨ミ、

母ノ喉ニ喰付ケルヲ、傍ニ在シ者共、數多立寄リテ引離ス。其外後室ニ仇ヲナシタル家人共ニ、今日恨ヲ報セント怒リ責ム。果シテ其日多ク頓死ス。氏貞ノ妹ハ漸クニシテ狂病癒ヌ。（氏貞ノ妹名ハ色トイフ。後ニ立花鑑連ノ室ト成。）氏貞ノ母ノ喉疵ハ癒シシカ、後ニ他病ヲ受テ死セリ。後室ヲ殺セシ評議ニ加リシ家人トモ、追々ニ皆頓病ヲ受テ死ス。氏貞恐レテ田島ノ村中ニ社ヲ立、後室ノ靈ヲ氏八幡ト號シテ祭ル。又增福院ニ後室母子ノタメ、祭田ヲ寄附シテ、香花ヲ備フ。彼仇ヲナシ、者ノ子孫マテ、其怨靈ノ祟リ止ム事ナシ。故ニ氏貞沒後後室又六體ノ地藏ヲ安置セリ。

〔福岡縣地理全誌〕兩夫人幷四侍女故墳

增福院ノ南五町原辻ト云所ノ圃中ニアリ。初メ兩夫人ヲ葬リシ地ナリ。寛政三年辛亥三月郡吏富永氏休、高三尺五寸、方二間ノ石柵ヲ構ヘ、宗像大宮司（正氏卿　氏雄卿）兩夫人故墳ト銘ス。又其北三町井上ト云所ニ、高二尺餘、方一間餘ノ石柵ヲ構ヘ、花尾局、小夜、三日月、小少將、侍女四人墳ト銘セリ。

平等寺

宗像文書應安六年九月に平等寺あり。（○中編一三九頁參照）慶長檢地帳に平等村田畠三十三町、分米大豆四百四十八石とす。

〔筑前國續風土記附錄〕平等寺村

湯の浦といへる所に出水あり。古へ溫泉ありし址にて、秋のころは夜陰に火燃と、里民いへり。此地硫黃砒礬の氣ありて、火を生し、焰あるなるへし。その所の土、硫黃の色ありて臭し。かく廢絕せるは惜むへし。

傍に石佛あり。湯守の神なるへし。

〔筑前國續風土記拾遺〕平等寺村

湯の浦石佛（湯の浦川の北岸に在。此邊いにしへ溫泉有。其時の湯守神と云り。）

〔福岡縣地理全誌〕平等寺村

溫泉址　村ノ南十三町湯ノ浦ニアリ。蔦岳ヨリ小川一條流出テ、村內ニ入ル。湯ノ浦川ト云。其北岸ニ石佛アリ。湯守神ト云。此邊秋夜燐火出ル事アリ。土ニ硫黃氣ヲ含テ臭シ。

〔筑前國續風土記附錄〕平等寺村

荒神社　アナタ　傍に大松一株あり。吉田少輔六郎が墓印といふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕平等寺村

古墓一ケ所（下の名といふ所の圃中に在。老松一株植リ。吉田少輔太郎と云者の墓なりとかや。此少輔太郎は鞍手郡小金原の戰に、彼地にて討死せり。）

〔福岡縣地理全誌〕吉田少輔六郎貞永塚

村ノ西十三町下名ト云所ノ圃中ニアリ。老松一株アリ。八幡松ト云。貞永ハ宗像家ノ臣ニテ、天正十一年癸未十一月鞍手郡小金原ノ戰ニ、討死セシ者ナリ。子孫此村ニ存ス。村ノ西十五町下屋式ト云所ニ、其宅址モアリ。

〔筑前國續風土記〕平等寺村古城

草場の城と云。城主詳ならず。

〔筑前國續風土記附錄〕草場城址　本篇に出たり。

山上平らかなる所二反はかりあり。東西に長し。

〔福岡縣地理全誌〕草場山城址

村ノ東北十三町許ニアリ。金山ノ南ニ突出シテ、蘿岳ノ方ニ連レリ。山ノ尾ヲ城ノロト云。其東ニ遠賀郡上畑村ニ越ル道アリ。石峠ト云。山上平地東西ニ長シ。東ノ方一段高キ所、長十九丈六尺、横八廣狹アリ。或ハ三丈、或ハ四丈アリ。西方少シ低キ所、長十一丈、横一丈四五尺。此所モ廣狹アリ。白山城ノ出丸ナルヘシ。又其西低キ所二段アリ。上ハ長十二丈六尺、幅四丈許。下ハ東西ニ廻リテ、長十一丈二尺、谷ヲ隔テ、北ナル茂山ヲ上山ト云。山上ニ平地少シアリ。草場山ヨリハ高シ。遠方ヨリ見ユ。堡址ナルヘシ。其西ノ谷ハ遠賀郡高倉村ノ内、百合野ニ越ル坂路ナリ。宗像氏貞蔦岳在城ノ時、保障アリシ地ナリ。杉權頭モ在城セシト見エタリ。　鞍手郡山部村農家ニ古文證アリト云。

稻元

宗像文書建長元年九月に稻本村あり。〇中編一六三頁參照　文祿田畠帳にも稻本村とし、慶長檢地帳に稻本村田畠七十七町、分米大豆千百九十石とす。慶長圖には稻元村とす。

河東

宗像文書永祿四年六月、天正十六年十一月に河東郷あり。〇中編二七〇頁二八〇頁參照　文祿田畠帳に河東村、慶長檢地帳に河東村田畠五十三町、分米大豆五百七十六石とす。

〔筑前國續風土記拾遺〕河東村

此村を河東村といふ事、宗像記等に朝町より流るゝ川を界として、河より西を河西郷といひ、河の東を河東郷といふといへり。當村の西南に流るゝ川是なり。依て河東の號あり。東郷も昔は村居此川の東にありしといへり。

池浦

元祿圖に多禮村枝郷池浦村二百六石、天保郷帳にも多禮村枝郷三百七十九石とす。明治七年別村となる。

池田

宗像文書建治二年正月にいけたあり。〇中編一九六頁參照　永祿四年六月に池田郷あり。〇中編二七〇頁參照　文祿田畠帳に池田村、慶長檢地帳に池田村田畠百九町、分米大豆千三百四十六石とす。

〔筑前國續風土記〕孔大子山

池田村の内に千疋原と云所有。原の長さ十二三町、横四五町有。村民の說に、昔孔大寺山より惡風吹て、此所にて往來の牛馬千疋死したりと云。民俗の說、其實否辨するにたらず。

〔筑前國續風土記拾遺〕池田村

吉田より垂見峠に至る道に、千疋原あり。本編に原長十二三町、横四五町とあり。村翁の說に、古孔大寺山より惡風吹て、往來の牛馬千疋死たりといふよし見へたり。此邊いにしへ太宰府より京に登る官道なり。牛馬千疋死るといふ事、驛に由有て聞ゆ。聖武帝の天平十二年太宰大貳藤原廣嗣叛きて、遠賀郡家に軍營を造り、國内の兵を徵發せしよし、續日本記に見へたり。かゝる時に此野に多くの牛馬等を集繫きし事の有て、

千疋原等の名ははしまりしなるへし。今は此原に人家出來て、多く田圃を墾開せり。北の方は江口村に屬す。

〔筑前國續風土記拾遺〕池田村

千疋原に塚穴多し。蝙蝠塚と云。又サカリと云所の塚穴、大石を以て構たり。入口廊の如き所、高三尺、横三尺、入一丈一尺七寸有。奥に高八尺五寸、横七尺、入七尺二寸の間有。其奥にも廊あり。高四尺一寸、横三尺一寸、入四尺五寸。其奥の間は甚高し。横六尺五寸、入壹丈有。炬をともして入る。蝙蝠多し。

蝙蝠塚

〔筑前國續風土記拾遺〕池田村

此村の内、野間尻と云所に、田數一畝拾七歩半の壹作地有。元祿の頃、百姓傳七といふ者、五月に早苗を植しが、一夜ありて、田地墜落して、深淵となる。其底計り難し。其夜傳七か家の牛馬二疋共に斃ける。恐れて側に龍神祠を祭る。旱年に雩すれば靈應有といふ。今は水面三畝計あり。

野間尻淵

〔筑前國續風土記拾遺〕池田村

此村の北の方依嶽の麓にて、元祿年中銅鑛有とて、試に穿たり。銅多からすとて、幾程なく其事止たり。釣山と云。又孔大寺の下にも、所々穿し穴有。

〔福岡縣地理全誌〕金坑址

村ノ北十町依岳ノ麓ニアリ。釣山ト云。元祿年中銅鑛アリトテ、試ニ穿タリ。銅多カラスシテ、幾ホトナク其事止タリ。又孔大寺ノ下ニモ、處々穿シ穴アリ。近ク嘉永七年甲寅二月舊藩ニテ金坑ヲ開ケリ。盛久、常盤、岩船、山上、以上古金坑龍田、千歳、以上新金坑此外ニモ數所ニアリ。出金他山ニ比スレハ最多シ。明治二年己巳ニ至テ、費用不貲ヲ以テ、休山セリ。里民ノ說ニ、此村及ヒ田野、上八二村ノ鑛山アル事、近世ニ起ルニアラス、七百年前平家ノ遺臣等、此地ニ潛匿シテ、初メテ沙金ヲ堀得テ、活計トセシト言傳フ。按ニ近村鐘崎ニモ平家潛居ノ跡アレハ、里民ノ說由アル事ナルヘシ。黑田長政入國ニ及テモ、堀試ラレシ事アリト云。

金坑址

田野

宗像文書安貞二年五月に田野別符〇中編一五四頁參照永祿四年六月に田野郷あり。〇中編二七〇頁參照文祿田畠帳に田野村あり。慶長檢地帳に田野村田畠百二十二町、分米大豆千六百九十八石とあり。

〔筑前國續風土記拾遺〕田野村

里民傳へて、此地古は入江なりしが、後に漸あせて、泥土となりし故に、田沼と呼びしを、誤りて田野といふといへり。今も村の内に瀬戸などいふ所有。又昔此あたりを、すべて津日浦ともいへれば、田沼の說さもあるべし。民居五所にあり。本村、向田野、妙見、瀬戸、石川是なり。此村の名、後堀川院安貞二年の文書に見えたり。

〔筑前國續風土記拾遺〕田野村

塔の元といふ所に、鎧塚とて有。神功皇后三韓より凱旋し給ひし時、甲冑を埋め給ひし處といひ傳ふとも不詳。四方に樹木生繁りて、其中に高四五尺計の石の塔立り。里民は祟有とて、此森の中に入事なし。

鎧塚

〔福岡縣地理全誌〕金坑址

村ノ東十町赤郷山ニアリ。舊藩中金坑ヲ開ク。其田字ハ重陽、有明、以上古金坑高砂新金坑等ナリ。出金ノ多キ

金坑址

事池田ニ亞ケリ。安政四年丁巳八月ニ開キ、坑明治二年己巳四月ニ休ム。

〔筑前國續風土記拾遺〕田野村

依岳の裙野に石川と呼地あり。石川氏の墓なりとて古墳あり。いかなる人といふことをしらず。又高向といふ所にも古墓あり。村民は宗像家の臣吉田土佐守といひしもの墓と云。吉田土佐守は寛永九年に死せり。

古墓

〔福岡縣地理全誌〕吉田土佐守墓

高向ニアリ。高五尺、幅一尺五六寸。銘ハ剝落シテ明ナラス。吉田ハ宗像家ノ臣ニテ、寛永九年壬申に死ト云。舊記ニ石川氏ノ古墳、石川ニアリト云。今明ナラス。

神　湊

文祿田畠帳に神湊村あり。慶長檢地帳に神湊村田畠二十七町、分米大豆百九十六石とす。

〔筑前國續風土記拾遺〕神湊

吉田川の末、昔は東に屈曲して、江口村の人家の東北にて、海に入れり。しかるに洪水の時、水引あしして、寶曆二年に今の所に洲口を切開きて、川水を曳て、遂に北海に落るやうになせり。是より川口の諸村、洪水の憂なし。神湊より江口鐘崎へ行くには。此洲口を船渡りす。海際の水幅拾六七間あり。

江口川

〔福岡縣地理全誌〕江口川

東牟田尻、江口兩村界ヨリ流來リ、村ノ東北ヲ過テ海ニ入ル。長三百十二間、幅三十六間、平潮一尺滿潮四尺。此川昔ハ東ニ屈曲シテ、江口村ノ人家ノ東北ニテ海ニ入ル。然ルニ洪水ノ時、水引惡シトテ、寶曆二年壬申今ノ所ニ洲口ヲ開キ、川水ヲ導テ直ニ北海ニ落セリ。是ヨリ川口ノ諸村澇水ノ憂ナシ。神湊ヨリ江口鐘崎ニ行ニハ、此洲口ヲ舟渡リスルナリ。

波止

〔筑前國續風土記拾遺〕神湊

波戸築石二ケ所有。一ケ所は長四拾七間半、一ケ所は長四拾壹間有。

〔福岡縣地理全誌〕神湊村

波頭二所　一所四塚、東西長四十七間半、幅二間半。一所村ノ下、東西長四十一間、幅一間、滿潮四尺、退潮干潟トナル。漁船ノ波避ナリ。

肉落

〔福岡縣地理全誌〕肉落

村ノ西北八町餘ニアリ、神功皇后征韓ノ御時、御懷胎ニテ、甲ヲ着玉フニナヤマセラル、ニヨリ、此處ノ潮水ニテ御身ヲ清メ、御祈リアリケレハ、肉落テ容易ク着具マシマシケル故ニヨレリ共云ヘリ。里俗ノ說信スルニ足サレ共、此所ノ潮井驗アリトテ、遠近ヨリ來リ汲者多シ。

草崎山城址

〔筑前國續風土記〕草崎古城

神の湊の境内に、草崎の古城址有。四塚とも云。宗像大宮司十六代氏俊端城にて、占部甲斐と云者守れりと云。

〔筑前國續風土記附錄〕草崎山古城　本編に見えたり。

村より西拾町計隔れり。山上平らかなる處凡三反計あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕草崎山古城

村の西北海にさし出たる山也。四峯あり。故に四塚ともいふ。南の方第二峯に城址有。頭に平地二反有。廣き所南北廿三間計、東西九間計有。第一峯の上にも平地有。此城は永祿三年の春、占部尙安大島より起りて、此城を築き住す。此城にて謀を廻らし、同四月遂に許斐の城山を取返して、彼城に移れり。許斐山の條下に出たり。

〔福岡縣地理全誌〕草崎山城址

村ノ西北海邊草崎山ニアリ。四峯アリ。南ノ方第二峯ニ城址アリ。頂ニ平地二段許アリ。廣キ所南北二十三間、東西九間許アリ。第一峯ノ上ニモ平地アリ。此城ハ宗像十六代氏俊カ端城ニテ、永祿三年庚申ノ春、占部尙安大島ヨリ起テ、改メ築キ、此城ニテ謀ヲ廻シ、同四月遂ニ許斐ノ城山取返シテ、彼城ニ移レリ。許斐山ノ條ニ詳ナリ。

〔神湊浦記錄〕

草崎山　村西北海にさし出たる山なり。四ツの峯あり。故に四塚とも云。南方第二峯に城址有り。平地二段あり。廣所は南北廿三間許り。東西九間程。一峯にも平地あり。此城は永祿三年之春占部尙安、大島より起りて、此城を築き住す。此城にて謀を巡らし、同四月遂に許斐之城山を取返、彼城に遷れり。

〔筑前國續風土記拾遺〕神湊

權現の森といふ所に石棺有。いかなる人の塚なりや、傳ふことなし。

〔福岡縣地理全誌〕勝島

神湊ノ西北海上二十町ニアリ。二十町ハ本村ヨリ渡海スルヲ云。村ノ西北肉落ノ出崎ヨリハ讒ニ三町東西四町、南北七町、周廻十六町四十九間。

古塚

勝島

人家アリ。安部宗任カ孫義宗此島ニ據リ、山鹿秀遠ト戰テ、大ニ勝利ヲ得タル故、勝島ノ名アリト云。寛永ノ頃マテハ勝浦ノ內ナリ。正德享保間黑田家ヨリ、南京姦商ノ中買ノ事ヲ禁セラレン爲メニ、此島ニ番兵ヲ遣シテ、大船ニ加子ヲ添テ置レシカ、其後彼舟打拂レシカハ、其警備モ止タリ。番士居リシ時、此ニ加子屋敷アリ。近邊ヲ菜園ニ開テ、始テ一町餘ノ畠ヲ得タリ。此ヲ神湊ノ所分トセラレショリ、此島神湊ニ屬セリ。

〔神湊浦記錄〕勝嶋

本村の乾海上二十町計りにあり。寛永の頃迄は人家迚も無之、山上に城跡あり。平地二反計。宗像氏貞永祿之頃、隣國之敵を避て大嶋に渡海有し時の端城なりと云。其後久敷人家もなかりしか、正德享保の頃、南京姦商の沖買の事を禁し給ひて、此嶋に番の士を遣はし、大船に加子を添ておかれしが、其後彼船打拂給ひしが、番士ありし時の加子屋敷あり。近邊を菜園に開きて、始て壹町餘りの畠出來。是を神湊の持分とせられしなり。寶曆の初に、漁民万右衞門と云者、嶋の前に船入の波戸を築き、長三十間。是より大に農漁の便を得たりと云。牧大明神社あり。慶長の頃は、野飼の牛すみたりしとかや。九月十日を祭る。

〔年毛大明神御社記下附〕

勝島　此島寛永の比までは、勝浦の內なり。近世神湊に屬す。古へは野牛羊の牧なりし故、牧大明神の社在りて產神とす。此牧博多に變船出入せし時其食料に充と云。止し時、松なと植立に成し時も、勝浦より植立しよし、記錄等今に有り。其比賊追捕として、御船頭伊藤杢左衞門并早船水主四十二人渡海有りて居住す。居住所は許斐城主占部甲斐守等居住の跡也。築地ねり塀なと今に存す。此時又菜園をひらき、二町程にも成しを、御檢地有りて、壹町餘畠畝に成りぬ。伊藤杢左衞門

引取の砌、御檢地帳神湊水帳ノ奥に相添置れき。其より神湊浦人此島に居住せしより、神湊の内と成れり。此事は委しき記錄あり。

〔筑前國續風土記附錄〕勝島

寶曆の初年、農民万右衞門といへるもの、波止を築けり。長さ三十間、根盤一間半計也。かく經營せしより、圃地耕作に便し、且漁舟をつなくにも便よしといふ。

〔筑前國續風土記拾遺〕勝島

寶曆の初に、農民万右衞門といふ者、嶋の前に、船人の波戸を築く。長三十間。是より大に農漁の便を得たりといふ。

〔福岡縣地理全誌〕勝島

寶曆初メ農民万右衞門ト云者、島ノ東南人家ノ前ニ船入ノ波戸ヲ築ケリ。是ヨリ大ニ農漁ノ便ヲ得タリト云。今二所アリ。一ハ東西二十間、一ハ南北長三十間、幅一間半。

〔筑前國續風土記〕勝島城址

神湊に近き、草崎の城址より北の海中に、勝島とて小島有。古城の址一區有。是も大宮司の端城成と云。

〔筑前國續風土記附錄〕勝嶋城跡　本篇に出たり。

山上平らかなる所二反計あり。勝嶋の乾十間計にクリノカミといふ瀨あり。

〔筑前國續風土記拾遺〕勝嶋古城

神湊の乾海上二十町計に在。寛永の頃迄は、勝浦の内也しが、其後神湊の内となれり。嶋の周圍貳拾町ばかり。人家少しあり。山上に城址有。平地二反許。宗像氏貞永祿の頃、隣國の敵を避て、大嶋に渡海有し時の端城なりと云。其後久しく人家もなかりしが、正德享保の頃、南京姦商の沖買のことを禁給ひて、此島に番士を遣して、大船に加子を添ておかれしが、其後彼舟打拂ひ給ひしかは、其警備もやみたり。番士有し時、爰に加子屋敷有。近邊を菜園に開て、始て壹町餘の畠出來たり。これを神湊の持分とせられしより、此島神湊の處分となれり。

〔福岡縣地理全誌〕勝島城址

村ノ西北二十五町ニアリ。山上平ナル所二段許リ。永祿ノ頃宗像大宮司氏貞隣國ノ敵ヲ避テ、大島ニ渡海セシ時ノ端城ナリ。

江　口

文祿田畠帳には江口を神湊村の内とす。慶長檢地帳に江口村田畠三十一町、分米大豆百八十八石とす。

〔筑前國續風土記〕五月濱

江口村の境内に在。田島より十三町北也。昔田島の神の御旅所也。五月松原有。其所に石壇有。昔六月夏越(みなつきなこし)和儺(わな)の祓とて、田島の神輿を、御前の濱と云所より船十二艘にのせ、五月濱に御下り、神輿を石壇の上に置奉りしと云。今は久敷絶て、其儀式なし。御前の濱とは、今の田島の東の川端也。五月五日、此所にて競馬をなす。此故に五月濱と云。宗像記に曰、五月五日、宗像家人、家々の嫡子花やかに出立て、五月濱に出て